高岡町埋蔵文化財調査報告書第21集

三生江遺跡（みしょうえ）

県営担い手育成基盤整備事業城ヶ峰地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2001. 3

宮崎県高岡町教育委員会

三生江遺跡正誤表

頁	行	誤	正
5	9	合同で遺跡と	合同でそれらの遺跡と
15	4	第18図200～214	第18図200～216
15	33	甕(259～274)	甕(259～273)
51～52	No200～216の器種	布痕	鉢
56	No276の種別	土師器	その他
64	4	7　１９８８	7　永友良典　１９８８

高岡町埋蔵文化財調査報告書第21集

三生江遺跡（みしょうえ）

県営担い手育成基盤整備事業城ヶ峰地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2001. 3

宮崎県高岡町教育委員会

序　文

この報告書は、県営圃場整備事業（担い手育成型）城ヶ峰地区に伴い、平成9年度に実施した三生江遺跡における埋蔵文化財発掘調査の報告書であります。

この調査により、古代末の包含層から、多数の土師器のほか、緑釉陶器や越州窯系青磁などが出土し、南九州の当時の歴史を解明するうえで多大な成果をあげることができました。

この発掘調査で明らかにされたものは、先人が残した私たちの文化遺産であり、これらの成果を活かすことが、我々に課せられた重大な責務と考えております。本書が町内に所在する文化財の保存に役され、また本町の学術資料として学校教育、社会教育などに幅広く活用頂ければ幸いに存じます。

尚、発掘調査を実施するにあたり、関係各者より頂いたご指導とご協力に対し、心から感謝を申し上げます。

平成 13 年 3 月

高岡町教育委員会
教育長　中山芳教

例　言

1　本書は、県営圃場整備事業（担い手育成型）城ヶ峰地区に伴い、1997年度（平成9年度）に実施した埋蔵文化財発掘調査の報告である。

2　遺構や遺物の実測は、西慶喜（嘱託）、[redacted]（高岡町埋蔵文化財調査室）の協力を得た。また、遺物実測の一部を株式会社埋文サポートシステムに委託した。

3　植物珪酸体分析は（株）古環境研究所に委託した。

4　空中写真撮影は九州航空株式会社に委託した。

5　三生江遺跡の遺跡番号は136で、出土遺物は高岡町教育委員会に保管している。遺物の注記は、「遺跡番号－グリット名－層位」を基本としている。

6　本書の編集は廣田の協力のもと島田がおこなった。

凡　例

1　出土遺物観察表については下記のとおりである。

・「調整・文様」の項目にみられる①～④の記号は、①口縁部、②頸部、③胴部、④底部とする。

・「法量」の単位は㎜（長さ）とｇ（重量）である。また、高台の底部径はその外側で計測した数値である。

・「器種」においては須恵器の高台付杯を高台付椀と表現している。（本文中も同様とした）

目　次

Ⅰ　はじめに …… 5
第１節　はじめに …… 5
　1　遺跡の位置と調査経緯 …… 5
　2　調査組織 …… 5
第２節　遺跡の環境 …… 6
　1　地形的環境 …… 6
　2　歴史的環境 …… 6
　3　遺跡の立地環境 …… 9
Ⅱ　調査 …… 10
第１節　調査概要 …… 10
　1　調査概要 …… 10
第２節　層序 …… 10
　1　基本層序 …… 10
第３節　遺構と遺物 …… 10
　1　遺構 …… 10
　2　遺物 …… 10
Ⅲ　分析 …… 59
第１節　三生江遺跡における植物珪酸体分析 …… 59
Ⅳ　まとめ …… 63

挿図目次

第１図　遺跡分布図 …… 7
第２図　遺跡周辺地形図 …… 9
第３図　調査地全体図 …… 11
第４図　調査地土層図 …… 12
第５図　出土遺物実測図（１） …… 17
第６図　出土遺物実測図（２） …… 18
第７図　出土遺物実測図（３） …… 19
第８図　出土遺物実測図（４） …… 20
第９図　出土遺物実測図（５） …… 21
第10図　出土遺物実測図（６） …… 22
第11図　出土遺物実測図（７） …… 23
第12図　出土遺物実測図（８） …… 24
第13図　出土遺物実測図（９） …… 25
第14図　出土遺物実測図（10） …… 26
第15図　出土遺物実測図（11） …… 27
第16図　出土遺物実測図（12） …… 28
第17図　出土遺物実測図（13） …… 29
第18図　出土遺物実測図（14） …… 30
第19図　出土遺物実測図（15） …… 31
第20図　出土遺物実測図（16） …… 32
第21図　出土遺物実測図（17） …… 33
第22図　出土遺物実測図（18） …… 34
第23図　出土遺物実測図（19） …… 35
第24図　出土遺物実測図（20） …… 36
第25図　出土遺物実測図（21） …… 37
第26図　三生江遺跡における植物珪酸体分析結果 …… 62

表目次

表１　出土遺物観察表 …… 38
表２　三生江遺跡における植物珪酸体分析結果 …… 61
表３　報告書登録抄 …… 79

写真図版目次

図版１　遠景（東から空撮）、遠景（西から空撮）
図版２　調査区近景（西から）、調査区近景（東から空撮）、調査前近景
図版３　自然流路（東から）、自然流路（北から）、淀み付近包含層
図版４　出土遺物１
図版５　出土遺物２
図版６　出土遺物３
図版７　出土遺物４
図版８　出土遺物５
図版９　出土遺物６
図版10　植物珪酸体顕微鏡写真１
図版11　植物珪酸体顕微鏡写真２
図版12　植物珪酸体顕微鏡写真３

Ⅰ　はじめに

第1節　はじめに

1　遺跡の位置と調査経緯

遺跡は、宮崎県東諸県郡高岡町大字花見5128－1に所在する。調査の契機は、宮崎県中部農林振興局から県営圃場整備事業（担い手育成型）城ヶ峰地区に伴う埋蔵文化財の所在の有無について、宮崎県教育委員会文化課に照会があった。県文化課は遺跡詳細分布調査の成果から野間遺跡や三生江遺跡の所在を伝え、合わせて高岡町教育委員会と合同で遺跡とその周辺を中心に確認調査をおこなった。確認調査は平成9年3月後半に実施した。トレンチは、切り盛りを含めた工事計画が明確でなかったため、ランダムに設定した。その結果、三生江池付近で土師器を中心に十数点が出土した。その結果を踏まえ、県文化課は県中部農林振興局と高岡町教育委員会を含め、平成9年6月に協議をおこなった。この協議において、施工計画では遺跡確認区域は耕地部分が盛土であることと一部農道になることから、その農道になる部分を中心に高岡町教育委員会が調査主体となり発掘調査を実施することとなった。調査は10月6日から11月17日までである。

2　調査組織

調査主体　高岡町教育委員会

1997年度（調査）		2000年度（整理）	
教　育　長	篠原和民	教　育　長	中山芳教
社会教育課長	小谷清男	社会教育課長	四位行治
社会教育課長補佐兼		社会教育課長補佐	梅元利隆（12月まで）
社会教育係長	梅元利隆	文化財係長	黒木敏幸（12月まで）
主任主事	島田正浩		島田正浩（１月から）
		主　査	島田正浩（12月まで）
		主事補	廣田晶子
		嘱　託	西　慶喜

また、この調査を実施するにあたり、地権者の方々をはじめ宮崎県中部農林振興局や高岡町役場などご理解とご協力を頂いた。さらに、小野正敏（国立歴史民俗博物館助教授）、井上喜久男（愛知県陶磁資料館）、出合宏光（相良村教育委員会）、永友良典（宮崎県埋蔵文化財センター）、谷口武憲（宮崎県文化課）、岡本武憲（日南市教育委員会）、木村明史（佐土原町教育委員会）の各諸氏からご指導頂いた。記して、感謝申し上げる次第である。

第２節　遺跡の環境

1　地形的環境

高岡町は山林が70％以上を占める。その町中央を蛇行しながら大淀川が東流し、それによって形成された河岸段丘からその東側に広がる宮崎平野を一望する。この大淀川に起因する自然環境が大きく人々の生活を左右していたことはいうまでもなく、しかるに歴史的要因にも導かれていた。遺跡は大淀川南岸の独立した丘陵である。周囲は一段低い台地が四方に広がり遺跡がある丘陵のみが突出している。このような地形について合原敏幸氏[(1)]は「高岡町南部の高岡山地中央部及び東部には白亜紀の四万十累層群に属する砂岩を伴う頁岩、砂岩頁岩互層が分布しており、一部玄武岩、凝灰岩などの塩基性岩類が含まれる。内之八重付近の砂岩頁岩互層中には塩基性岩類に伴って、厚さ１ｍ～２ｍのチャートが見られる。高岡山地西部には、古第三紀の四万十累群に属する砂岩を伴う頁岩、砂岩頁岩互層が分布しており、高岡山地を南北に横切る高岡断層によって前述の白亜紀の層に接している。高岡町の中心部付近及び高岡山地北部には、新第三紀の宮崎層群に属する砂岩、泥岩、砂岩泥岩互層が広い範囲で分布している。本層は四万十累層群を傾斜不整合の覆う海成層で、貝、カニ、ウニ等の化石を含む。さらに、町中心部付近に及び西部は宮崎層群を不整合に覆い第四紀の礫、砂、及び粘土からなる段丘堆積物、主にシラスからなる姶良噴出物、及び主に礫、砂シルトからなる沖積層がみられる。段丘堆積物、姶良火山噴出物は急傾斜とその上の広い平坦面や暖斜面から形成される台地状の地形を有している。沖積層は、大淀川、浦之名川、内山川、飯田川等の河川流域沿いに分布している。」（高岡町埋蔵文化財調査報告書12集より抜粋）としている。

（1）高岡町役場都市計画課係長

2　歴史的環境

高岡町の遺跡は、現在140箇所以上ありそのほとんどは河川により形成された台地上に位置している。

旧石器時代

調査は綾町との町境付近に位置する向屋敷遺跡のみ実施されている。集石遺構とともにナイフ形石器やスクレイパーが出土した。また、石材で五女木産の黒曜石が１点ではあるが確認されている。さらに表採資料としては、野尻町に近い大字浦之名一里山地区で剥片尖頭器がある。

縄文時代

この時代は調査例が多く草創期以外はすべて確認されている。なかでも早期の調査例は多く、天ヶ城、跡をはじめ、宗栄司遺跡、久木野遺跡（１区～４区）、橋山第１遺跡、橋上遺跡、八久保第２遺跡、榎原遺跡、中原遺跡が調査されている。天ヶ城跡では、押型文土器と桑ノ丸式土器が大半を占め、その両者の折衷土器も出土している。橋山第１遺跡は集石遺構が検出され、前平、吉田、下剥峰、桑ノ丸、平栫、塞ノ神、苦浜、押型文等の各形式の土器が出土した。また、久木野遺跡では轟１式がアカホヤより下層から出土した。その他の遺跡でもそれぞれの遺物は出土しているが、石坂式だけは出土例がなく出土例が少ない県内にあっては同じような状況である。さらに遺構は集石遺構が中心で高岡町では住居跡は検出されていない。また、交易圏を考えるうえでひとつの鍵となる黒耀石も九州島各地のものが出土しておりデータの蓄積をおこなっている。前期は久木野遺跡第１区で包含層から轟Ｂ式が出土している。中期は同じく久木野遺跡で春日、大平、岩崎下層の各形式のものが出土している。後期は橋山第１遺跡で阿高系の土器や疑似縄文の土器が出土した。

1　三生江遺跡
2　蕨野遺跡
3　西下本庄遺跡
4　余り田遺跡
5　八児遺跡
6　城ヶ峰遺跡
7　的野遺跡
8　二反田遺跡
9　二ッ塚古墳
10　橋山第１遺跡
11　学頭遺跡
12　穆佐城跡
13　倉岡城跡

第１図　遺跡分布図

さらに久木野遺跡では円形竪穴住居跡とともに北久根山式が出土している。城ヶ峰遺跡では市来式や北久根山式が出土した。また、表採資料ではあるが山子遺跡、赤木遺跡等でも確認されている。晩期は黒色磨研土器が学頭遺跡から出土している。

弥生時代

調査された遺跡からはⅣ～Ⅴ期が中心に出土しておりⅠ～Ⅲ期は出土例がない。標高15メートル程の微高地状のところに位置する学頭遺跡からは断面Ⅴ字状を呈する溝状遺構や竪穴住居跡が検出された。

古墳時代

調査は、まず、住居址の調査としては八児遺跡や高岡麓遺跡第５地点がある。高岡麓遺跡では２軒の竪穴住居跡が検出され５世紀中頃に比定されている。また、八児遺跡は側壁にカマドが付設された竪穴住居跡（７世紀代）などが12軒以上検出された。両遺跡とも標高がほぼ同じで大淀川の氾濫源である低地に位置しており、農耕集落の一端をみることが出来る。次に墳墓の調査としては久木野地下式横穴墓群がある。今まで４基の調査がおこなわれ、人骨とともに鉄斧や玉類が出土し６世紀前半としている。また、町内には３基の県指定古墳があり円墳となっている。その古墳の近くで耕作中に壷が２点と鉄製品が発見されている。

古代

高岡周辺は浄平年間（931～938年）の和名抄によると、その当時は「穆佐郷」といわれていた。それより遡る時代の遺跡が最近の調査で確認されている。一つは蕨野遺跡で、大淀川北岸の丘陵（大字花見）に位置し、９世紀後半の土師器の椀、皿などを生産した焼成遺構が６基以上検出された。また、宗栄司遺跡や二反野遺跡で土師器椀が出土している。

中世

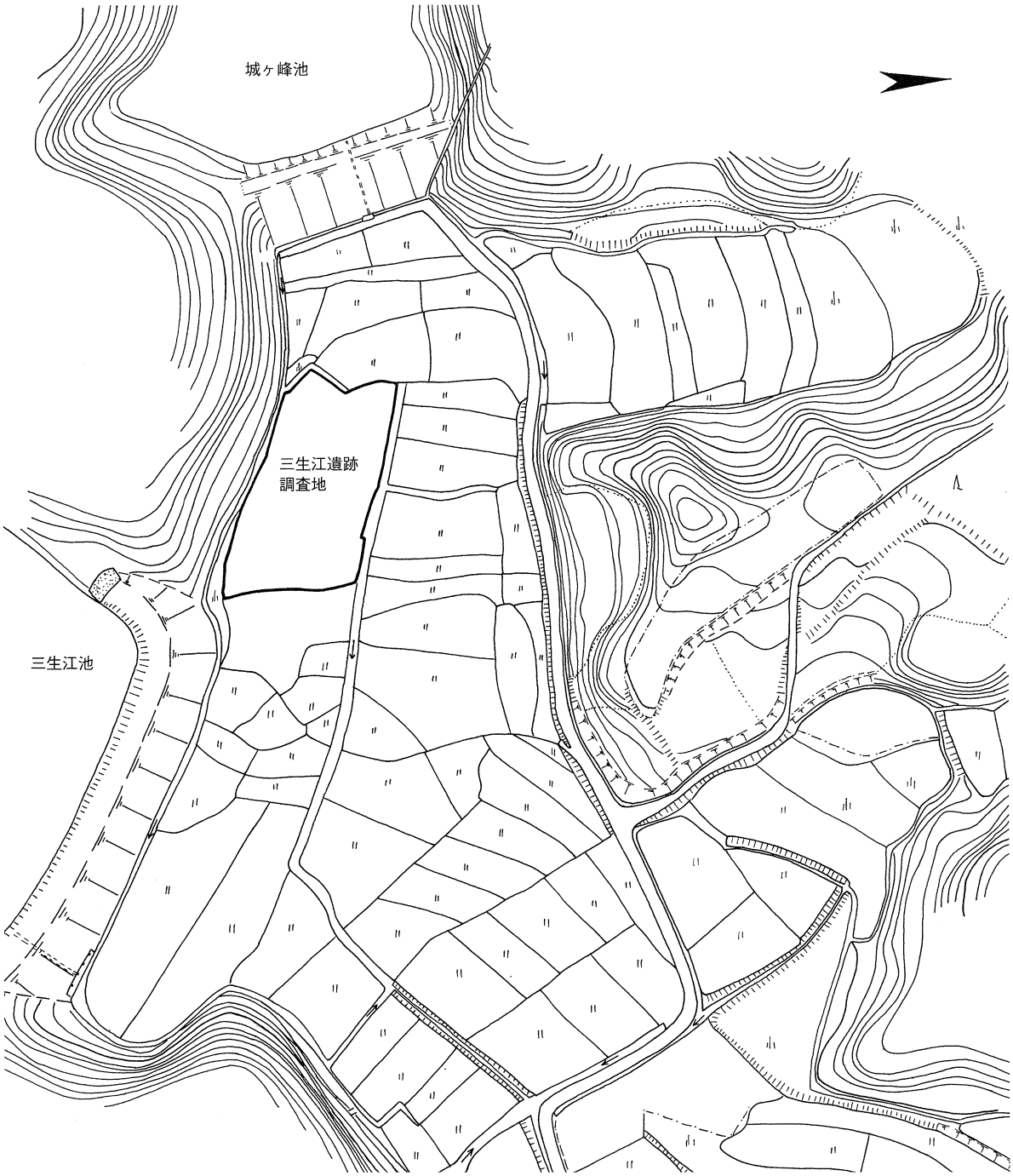
建久図田帳によると高岡は、12世紀には「島津庄穆佐院」といわれていた。その後、南北朝期を経て、島津氏と伊東氏の対立を迎える。その中心となったのが穆佐城である。穆佐城は足利尊氏が九州の拠点としたことからはじまる。その後、島津久豊・忠国の居城、そして伊東氏48城のひとつとなっていく。そのなかで、穆佐城周辺の大淀川沿いにも小規模な山城が点在し、戦国の時代へと入っていく。平成３年には穆佐城の縄張り調査を実施し、その成果として、南九州特有の特徴をもつとともに機能分化のみられる山城であることがわかった。

近世

中世までは高岡の中心地は穆佐城周辺だったのに対して江戸の時期になると天ヶ城周辺に一変する。鹿児島藩は、天ヶ城と穆佐城の裾地に多くの郷士を移住させ麓を形成させた。そして、綾、倉岡とともに関外四ヶ郷として、特に高岡郷はその中心として鹿児島藩の東方の防衛の要として発展する。高岡の地頭仮屋を中心に広がる高岡麓遺跡は、計画的な街路設計がなされ、郷士屋敷群と町屋群に分割されている。調査はすでに12箇所で実施され、町屋を調査した第１地点では大火跡と思われる焼土層の下から素堀の井戸や土坑を検出した。さらに、第５地点では郷士屋敷群の一角を調査し建物跡や陶磁器類を検出、第８地点では武家門の下部構造を明らかにさせた。このように近世の遺跡の調査は高岡麓遺跡だけに留まっているが、道路脇などにある石塔類からも当時の状況を知ることができる。

3　遺跡の立地環境

三生江遺跡が位置するところは、大淀川と本庄川の合流するところから西に約３㎞入ったところにある幅約50ｍの谷間である。そのさらに西側背後には標高60ｍ前後の河岸段丘が広がっている。遺跡は標高にして20ｍ前後の平坦地に広がっており、南北に痩せた小丘陵がある。その北側小丘陵には上三生江遺跡があり、三生江遺跡と同時期の遺物が表採できる。また、西側の河岸段丘上には同時期の土師器焼成遺構が確認された蕨野遺跡が存在する。



第２図　遺跡周辺地形図

Ⅱ　調　査

第１節　調査概要

1　調査概要

三生江遺跡は約1,150㎡の調査である。調査区内は南西側が高く北側が低くなる地形で、南側から北東側に自然流路が形成される。その自然流路を中心に遺物が堆積しており、その包含層の広がりは、薄厚があるものの調査区内北西側を除く約600㎡程度である。遺物は土師器、須恵器、黒色土器、布痕土器、緑釉陶器、灰釉陶器、青磁などが出土しており、時期は７～13世紀と思われるが、そのほとんどは９世紀中頃から10世紀初頭を中心とする。包含層掘削後、地山面と考えられるところで遺構検出をおこなったが確認はできなかった。

第２節　層　序

調査区域周辺の層位は、耕作土、橙色粘土（盤）、青灰色粘土もしくは淡橙白色粘土となるが、包含層が広がるところは橙色粘土（盤）の下に包含層が存在する。包含層に相当する層は、基本的に上から、明灰色粘性土（白色粒子混入）、灰色粘性土、暗灰色弱粘性土、明灰褐色弱粘性土、明灰茶色弱粘性土（地山混入）となる。

第３節　遺構と遺物

1　遺構

調査区南側に自然流路と思わせる窪地が確認された以外は、人為的な遺構は確認されなかった。自然流路は幅約３ｍ、深さ約0.5ｍの断面皿状の溝が、南側の丘陵裾部から調査区域に入り、そこで小さな淀みをつくり、さらに東側へ方向を変えて流れていたものと思われる。その流路を中心に包含層が形成された。

2　遺物

包含層が堆積した要因は定かでないが、この遺跡もしくは周辺の遺跡が廃棄された後で、調査区域に幾度となく堆積したものである。包含層からの遺物を層位ごとに比較検討した結果、それぞれの器種ごとでは層位間での型式差は見いだせなかった。そのため、器種ごとにそれぞれの形態から分類して、次に掲載した。

（１）土師器（第5～17図　1～186）

杯（1～77）

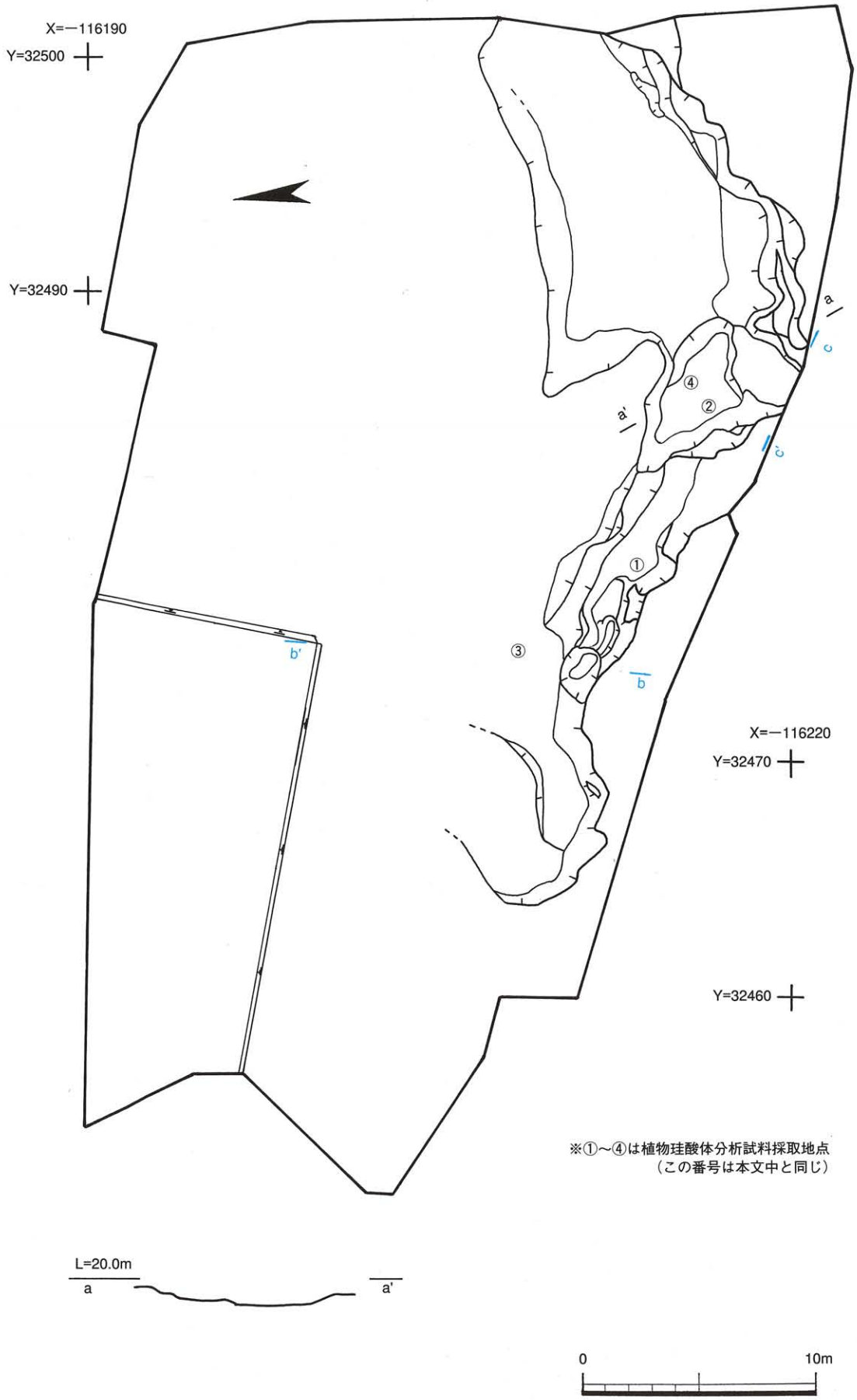
杯は直線的な体部形態で底部ヘラ切り離しである。完形については次のように細分した。また、完形でないものは、底部形態から細分した。

Ⅰ類（1）底部が厚手で、口縁部にかけてまっすぐ立ち上がり、口径12.0㎝前後、器高5.0㎝前後のもの。

Ⅱ類　底部が薄手で、口縁部にかけてまっすぐ立ち上がり、器高5.0㎝前後のもの。

Ⅱａ（2～5）口径11.0～12.0㎝で口径に対して底部径の比が小さいもの

Ⅱｂ（6）口径11.0～12.0㎝で口径に対して底部径の比がやや大きいもの。6の底部穿孔は、摩耗が強く故


X=−116190
Y=32500
Y=32490
X=−116220
Y=32470
Y=32460
a
a'
b
b'
c
c'
①
②
③
④
※①～④は植物珪酸体分析試料採取地点
（この番号は本文中と同じ）
L=20.0m
0
10m

第３図　調査地全体図

意によるものかは判断つかない。

Ⅱｃ（7～10）口径13.0㎝以上で口径に対して底部径の比が小さいもの。

Ⅱｄ（11）口径13.0㎝以上で口径に対して底部径の比がやや大きいもの。

Ⅲ類　底部が薄手で、口縁部にかけてまっすぐ立ち上がり、器高4.0㎝前後のもの。

Ⅲａ（12～15）口径11.0～12.0㎝で口径に対して底部径の比が大きいもの

Ⅲｂ（16・17）口径13.0㎝以上で口径に対して底部径の比が小さいもの。

Ⅲｃ（18～22）口径13.0㎝以上で口径に対して底部径の比がやや大きいもの。

Ⅳ類　底部が薄手で、口径13㎝以上、口縁部がやや外側に開くもの。

Ⅳａ（23～25）器高5.0㎝前後のもの。

Ⅳｂ（26）器高4.0㎝前後のもの。

杯底部

Ⅰ類（34～41）径5.5～6.5㎝で器壁が厚く円盤状になるもの。

Ⅱ類　径6.0㎝前後で、底部内面中央が深く丸味を帯びるもの

Ⅱａ（32・33）器壁が厚く底部から体部にかけて直線気味に立ち上がるもの。

Ⅱｂ（55～57）器壁が薄いもの。

Ⅲ類　器壁が薄く、底部内面が平坦なもの。

Ⅲａ（42～54）底部径5.5～6㎝のもの。

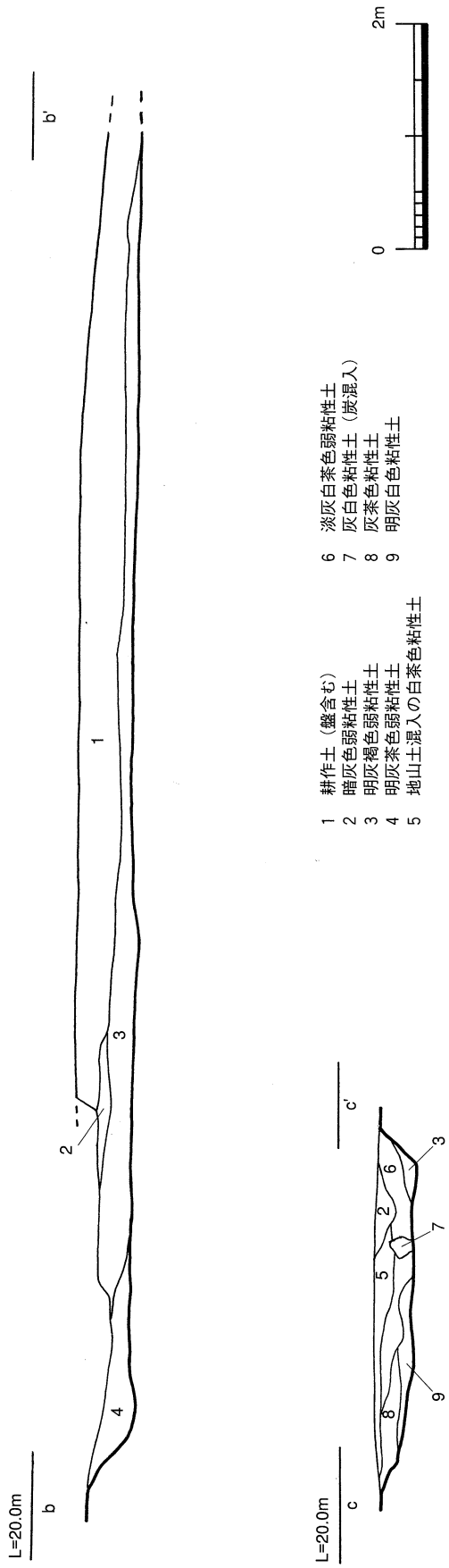
Ⅲｂ（58～64）底部径6.5前後のもの。

Ⅲｃ（65～77）底部径7.5㎝以上のもの。

高台付椀（78～134）

高台付椀は見る限りではすべて直線的な体部形態で底部はヘラ切りであるが、底部の形態により分類可能である。底部は、底部外面の器面を放射状に削り高台を貼り付けるものと（Ⅰ類）、それをせずに高台を貼り付け丁寧なナデ調整を施すもの（Ⅱ類）があり、それらを下記のとおり細分した。

Ⅰ類　底部外面の器面を放射状に削り高台を貼り付



第４図　調査地土層図

けるもの。

Ⅰａ（78・85～89）底部内面中央が丸味を帯びて凹み、高台がやや開くもの。

Ⅰｂ（79～83・134）底部内面が平坦であるもの。

Ⅰｃ（84・106～109）底部径が大きく、作りが雑である。

Ⅰｄ（110～113）底部径はⅠｃ類より小さく、高台が細くて小さい。

Ⅰｅ（114～119）高台が長く、外に開くもの。

Ⅰｆ（120）底部径が小さく高台が厚いもの。

Ⅰｇ（121～124）底部の器壁が厚いもの。高台の形状がⅠｂ類やⅠｅ類に似る。

Ⅱ類　底部外面の器面を放射状に削ることをせず、丁寧なナデ調整を施すもの。

Ⅱａ（125・126）底部内面が平坦で、高台は断面長方形状で外に開くもの。

Ⅱｂ（127・128）高台が長く開くもの。

Ⅲ類（129～134）放射状の削りの有無が確認できないものを一括した。

大椀（135～138）

大椀は完形品はないが、口径が20㎝前後で高台においても大振りなものとした。

Ⅰ類（135）体部から口縁部にかけて直線的に開くもの。

Ⅱ類（136）口縁部で外反するもの。

Ⅲ類（137）器壁が厚く、つくりがしっかりしている。大椀としたが鉢のような器形かもしれない。

Ⅳ類（138）高台が長く、外に開くもの。

高台付皿（139～145）

皿の形態はすべて高台付で、高台付椀と同様に底部外面の器面を放射状に削る。体部から口縁部にかけて直線的に延びるのもと直線的な体部から口縁部でやや外反気味となるものと体部から口縁部にかけて内湾気味となるものがある。

Ⅰ類（140・141）体部から口縁部にかけて直線的に延びるのもで断面台形状の高台を貼り付ける。

Ⅱ類（139）直線的な体部から口縁部でやや外反気味となるもので高台は小さく外にはあまり開かない。

Ⅲ類（142）体部から口縁部にかけて内湾気味となるもので高台は小さく外にはあまり開かない。

高台付皿底部（143～145）は高台がⅠ～Ⅲ類の高台より大きく外側に開く。

甕（146～171）

甕は完形品は無い。そのため口径でみた場合、おおよそ大型のものと小型のものに分けることが出来る。さらに口縁部から胴部にかけての形状から次のように細分した。また、調整は摩耗が激しいため内面のケズリが確認できないものもあり、外面についても不明なものが多い。

Ⅰ類　口径が小さく口縁部に対して長胴のもの。

Ⅰａ（146～150）胴部に若干の張りを持ち、口縁部が外反するもの。150のように口径が小さいものもある。

Ⅰｂ（151～153）胴部が張らず、頸部からほぼ垂直に胴部へ移行するもの。

Ⅱ類　口径が大きく口縁部に対して長胴となるもの。

Ⅱａ（154～163）胴部に若干の張りを持ち口縁部が外反するもの。特に159と160は口縁部が直線的

である。内面調整は151～160は胴部に縦もしくは斜方向のケズリがみられる。

Ⅱｂ（164～166）胴部が張らず、頸部からほぼ垂直に胴部へ移行するもの。165は口縁部が直線的である。内面調整は164と166の胴部に縦方向のケズリがみられる。

Ⅲ類（167）口縁部は器壁が厚く外面に稜線が廻る。胴部が若干の張りを持ち、長胴ではなく器高は低くなる。

Ⅳ類（168・171）口縁部が長く、頸部からほぼ垂直に胴部へ移行するもの。

Ⅴ類（169）頸部の屈曲部が明瞭でないもの。

甑（172～178）

甑は底部形態を基準に分類した。把手については172や178のようなドーナツ状のものと177のような突起状のものがある。

Ⅰ類（172～174）底部が肥厚しながら端部を内側に屈曲させる。171は口縁部が緩やかに外反し、胴部は張りを持たずに底部につづく。頸部にはドーナツ状の把手が付く。調整は底部から胴部にかけての内面は上方向へのヘラケズリで胴部外面と口縁部内面に横方向の丁寧なハケ目がみられる。

Ⅱ類（175）底部は肥厚気味となるが、Ⅰ類のように内側に屈曲しないもの。

Ⅲ類（176）底部が肥厚気味となるが、端部外面にくびれをもつ。

羽釜（179・180）

羽釜状の甕というべきものと考えられるが、13世紀代の遺物がこの包含層に少量混入することから、特に№180は中世の羽釜かもしれない。

その他（181～186）

脚である。181～183は脚付の杯・椀類と思われるが、高坏として考えてもよいのかもしれない。183は放射状のケズリがみられる。184～186は鉢や甕に伴う脚と思われる。

（２）黒色土器（第17・18図　187～199）

杯（187）

杯の底部で、円盤状高台と言われているものである。底部径は小さく、１回転によるヘラ切り離しと思われる。

高台付椀（188～196）

土師器と同様に、直線的な体部形態で底部はヘラ切りであが、底部の形態により分類可能である。底部は、底部外面の器面を放射状に削り高台を貼り付けるものと（Ⅰ類）、それをせず高台を貼り付け丁寧なナデ調整を施すもの（Ⅱ類）がある。

Ⅰ類（188～192）底部内面が平坦で、高台は断面長方形でやや開くもの。191と192は高台の先端が細くなる。

Ⅱ類（193）底部外面に放射状のケズリを施さず、丁寧なナデ調整を施すもの。

Ⅲ類（194～196）摩耗が激しいため、放射状のケズリの有無が確認できないものを一括した。

大椀（197・198）

底部のみで、高台は低く外側に開く。低径が大きく器壁も厚い。

高台付皿（199）

断面長方形の高台が付く皿で、体部から口縁部にかけて直線的に開く。底部外面に放射状のケズリを施す。

（３）布痕土器（第18図200～214）

基本的に外面に指頭圧痕を残す手尽くね風で、内面に布目痕がみられるものであるが、摩耗が激しく布目痕が確認できないものもある。底部は尖底をなし、円錐状の器形である。

（４）須恵器（第19～24図　217～275）

杯（217～220）

完形はない。217は体部から口縁部にかけて直線的に開く。218と219も同様と思われる。220は底部から体部にかけてやや丸味を帯びる。

高台付椀（221～229）

高台付き椀は土師器と同様で直線的な体部形態で、底部はヘラ切り離しで、底部外面の器面を放射状に削り高台を貼り付けるものと（Ⅰ類）、それをせず高台を貼り付け丁寧なナデ調整を施すもの（Ⅱ類）がある。

Ⅰ類（221）底部外面に放射状のケズリを施し高台を貼り付けるもので１点のみ出土した。器壁は全体に厚手である。

Ⅱ類　底部外面に放射状のケズリを施さず、丁寧なナデ調整を施すもの。

Ⅱａ（222・224）高台は断面長方形で外に開き気味となり、器壁が厚手のもの。

Ⅱｂ（223・225～227）高台は断面長方形で外に開き気味となり、器壁が薄いもの。

Ⅱｃ（229）高台が垂直になるもの。

大椀（230～232）

口径が18㎝以上で体部から口縁部にかけてまっすぐに開く。230は底部外面に放射状のケズリを施さず、丁寧なナデ調整を施す。

壺（233～258）

233～235は壷の口縁部としているが、甕形のものかもしれない。233は口縁部外面に格子目タタキをナデ消し、その上に波状文をヘラ描きしている。236～240の口縁部は下村窯のものと同じタイプである。また、242～246はその口縁部に関係する頸部から胴部にかけての破片である。248は小壺の頸部である。250と251は胴部が明瞭な稜をもって屈曲する。頸部付近までカキ目が残り、頸部内面は指頭圧痕がみられる。時期的に他の遺物とズレるかもしれない。252～255は平底の底部で、胴部へやや開き気味に立ち上がる。ほとんどが外面の格子目タタキをナデ消すが、255はそのまま残している。256と257は底部平底で、胴部へは垂直気味に立ち上がる。240は肩部に付く取手である。258は壷と思われるが、口縁部の屈曲部が丸みを帯び明瞭でなく、はそうのような別の器種かもしれない。

甕（259～274）

甕は底部以外の器壁が薄い259と261～263は口縁部が大きく外反する。260は口縁部が頸部から垂直気味に立ち上がり、端部は外反する。いずれもタタキ痕を頸部まで残し口縁部はナデ調整である。頸部に残るタタ

キは262と265以外は格子目タタキである。260と262は頸部でほぼ直角に屈曲し、肩が強く張る。268と269は内面に同心円当て具痕がみられる。272と273は丸底を呈する。

鉢（274）

体部から口縁部にかけてまっすぐに開く。外面は格子目タタキをナデ消している。

片口鉢（275）

口縁部片だけであるが、神出Ⅱ期２段階のものに類似している。

（５）その他（第24図　276～286）

色調は灰色を呈し器面が燻しているものがある。見たところ須恵器の焼成不良のようでもあり、類似するものが下村窯でも須恵器として報告されている。しかし、部分的に黒く燻されており、その中には瓦器を焼成しようと試みたのではないかと思わせるものもある。一概に須恵器や土師器として取り扱えないと考え、ここに一括した。

276は体部が直線的に開く杯である。277～279は円盤状高台に似るが、それよりも器壁がやや薄い。280～286は高台付き椀である。280は体部から口縁部にかけてまっすぐに開く。283と284以外は底部外面の器面を放射状に削り高台を貼り付けるものである。

（６）緑釉陶器（第25図　287～291）

緑釉陶器は椀、皿を中心に洛西、洛北、防長産のものが出土している。287は洛西の椀で体部中央に沈線が入る。288と289は洛西の蛇の目高台の皿である。290は洛西の皿で堅緻である。291は防長産（周防）の皿である。焼成が軟質で釉の脱落が目立つ。

（７）灰釉陶器（第25図　292～295）

灰釉陶器は、猿投窯産の椀、皿、壺が出土している。292～295は重ね焼きの痕跡がみられ、高台と底部外面（高台内）には施釉しない。294と295は段を有する段皿と思われる。

（８）青磁（第25図　296・297）

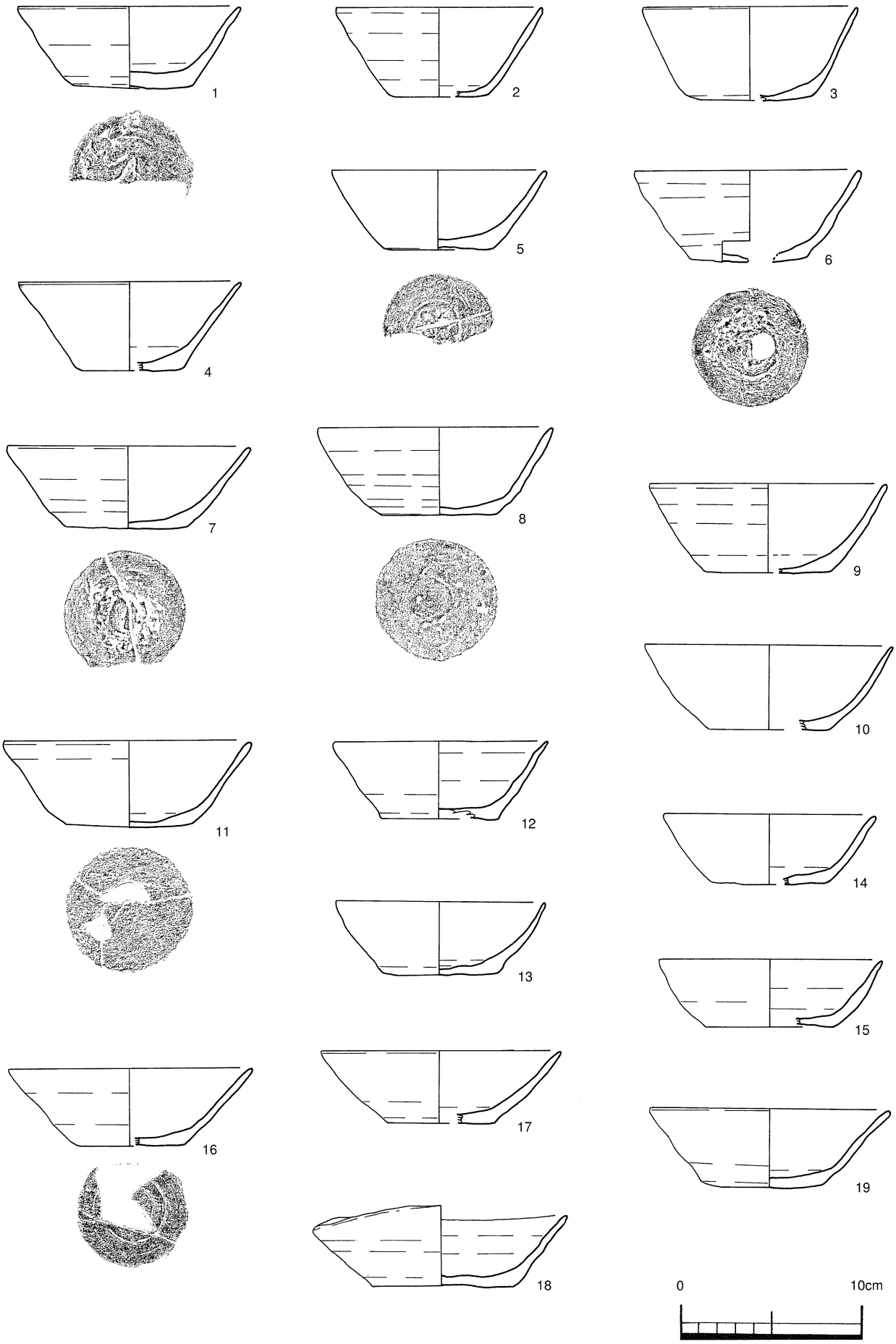
296と297は越州窯系青磁椀で、目跡が明瞭に残る。

（９）土製品（第25図　298～303）

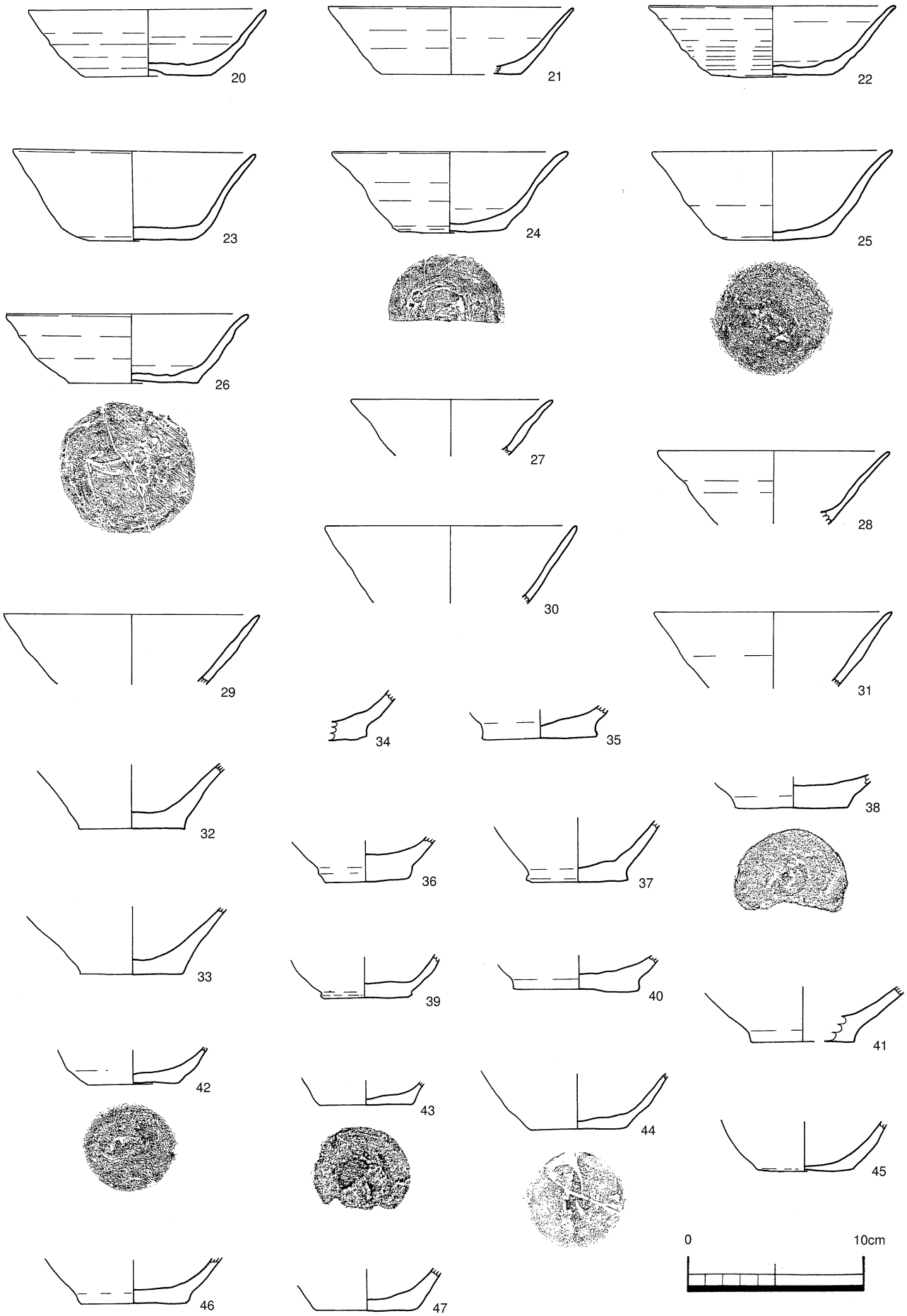
298～301は土錘である。302は用途不明である。303はカマドの庇部分と思われるが、器壁が厚手で指頭痕が数多く残り、雑なつくりである。

（10）鉄製品（第25図　304）

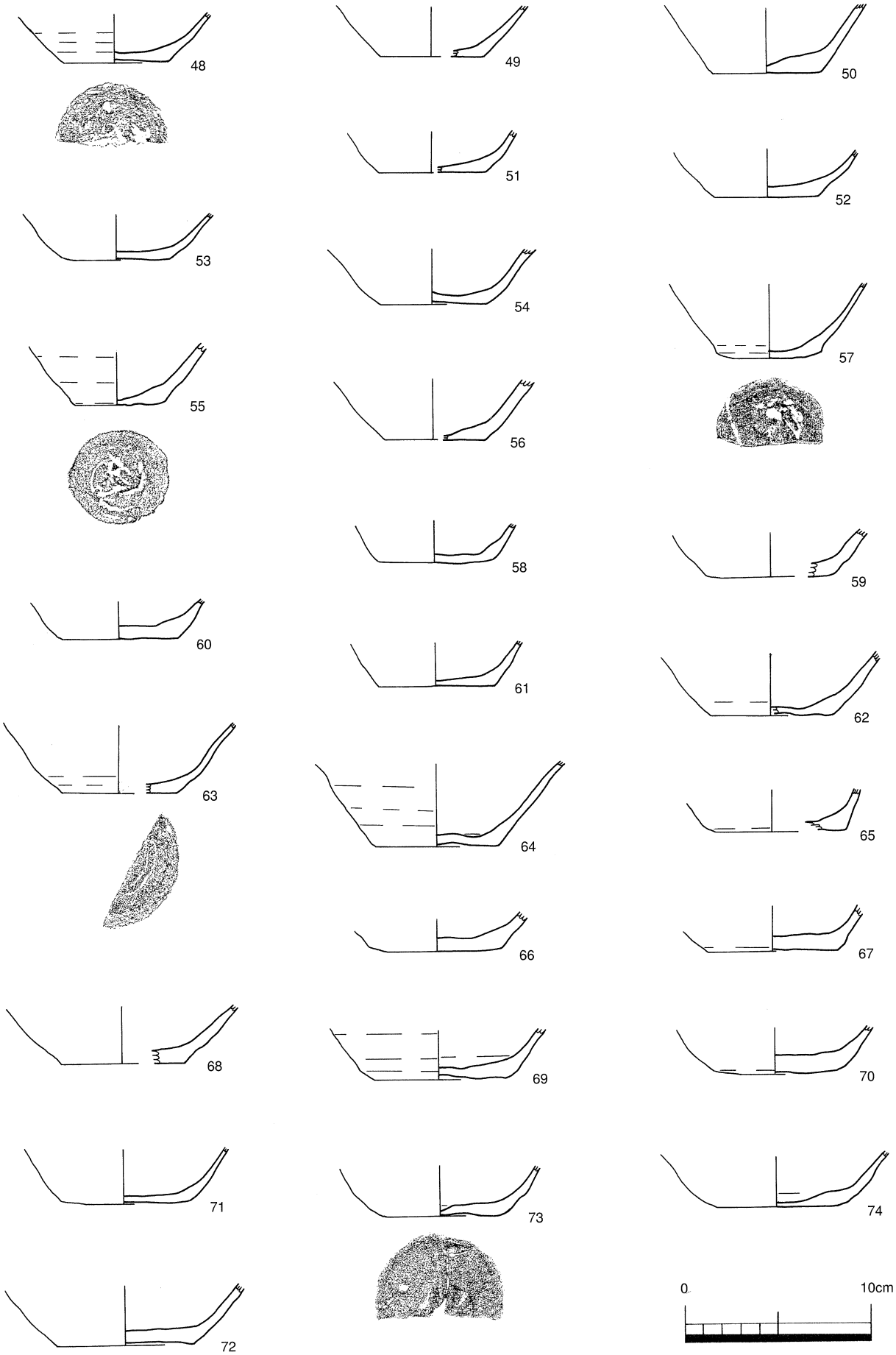
形状から刀剣の柄金具ではないかと思われるが、時期は明確ではない。最大幅36㎜の断面楕円形状でその中は空洞である。



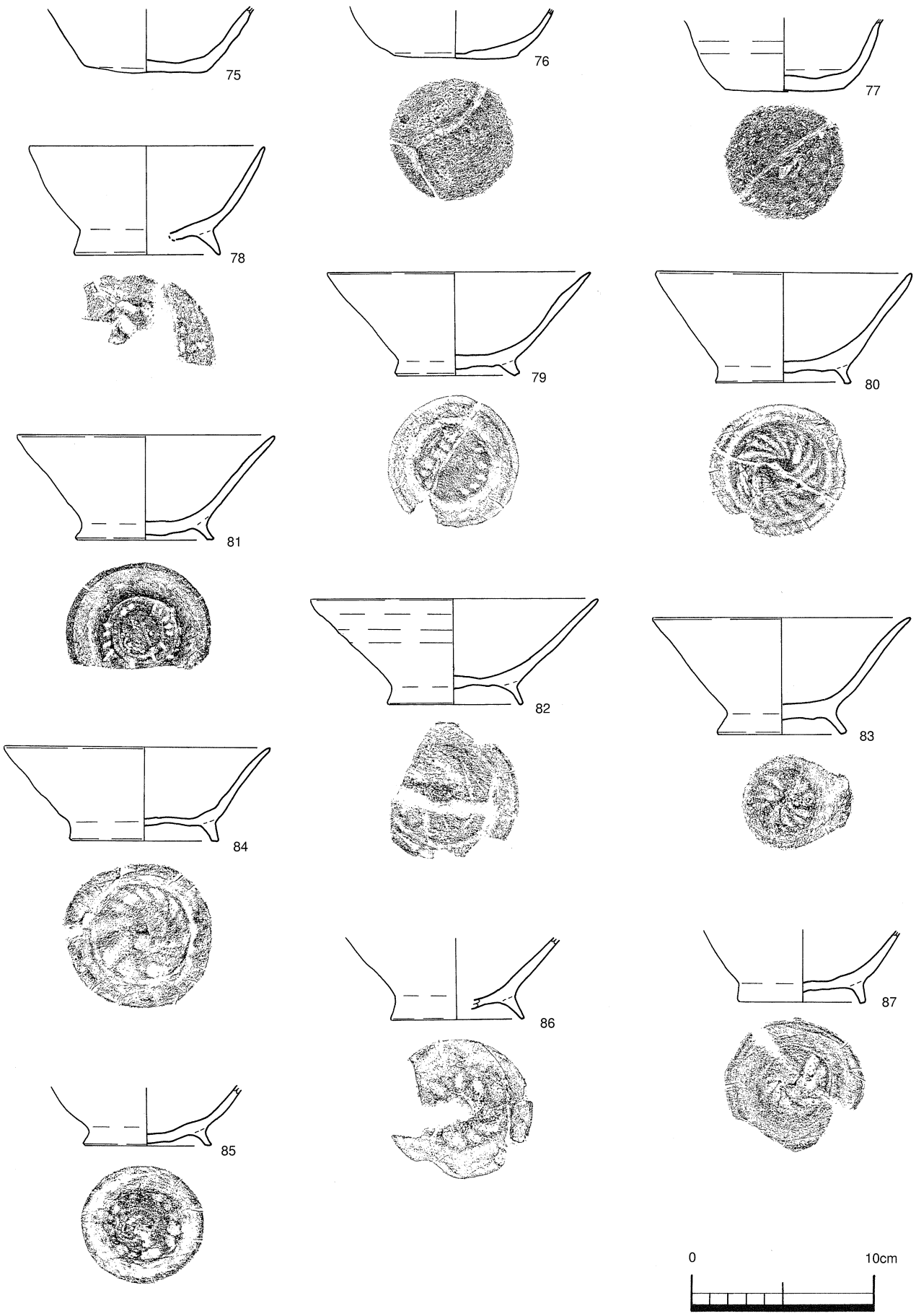
第５図　出土遺物実測図（１）



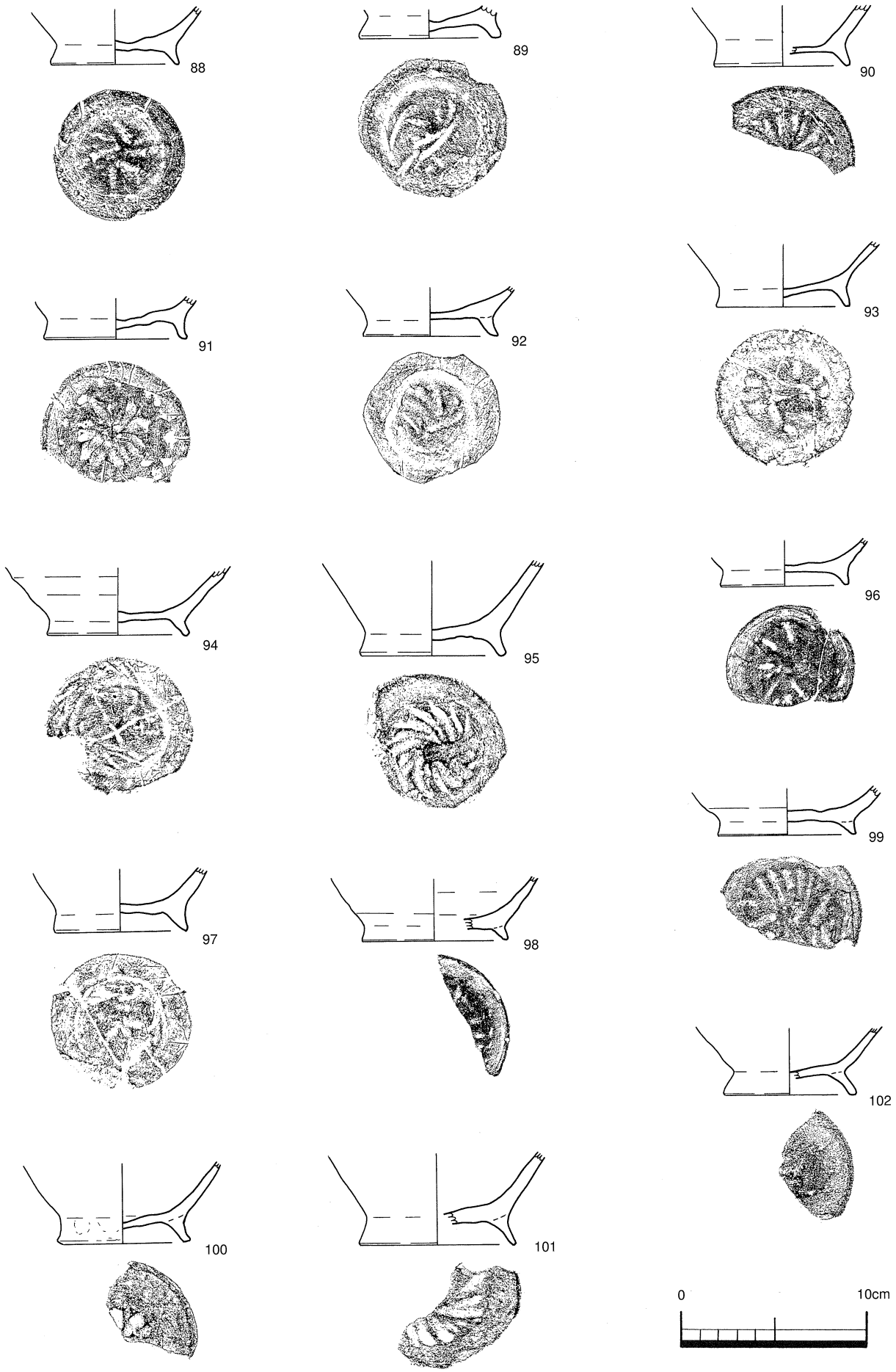
第６図　出土遺物実測図（２）



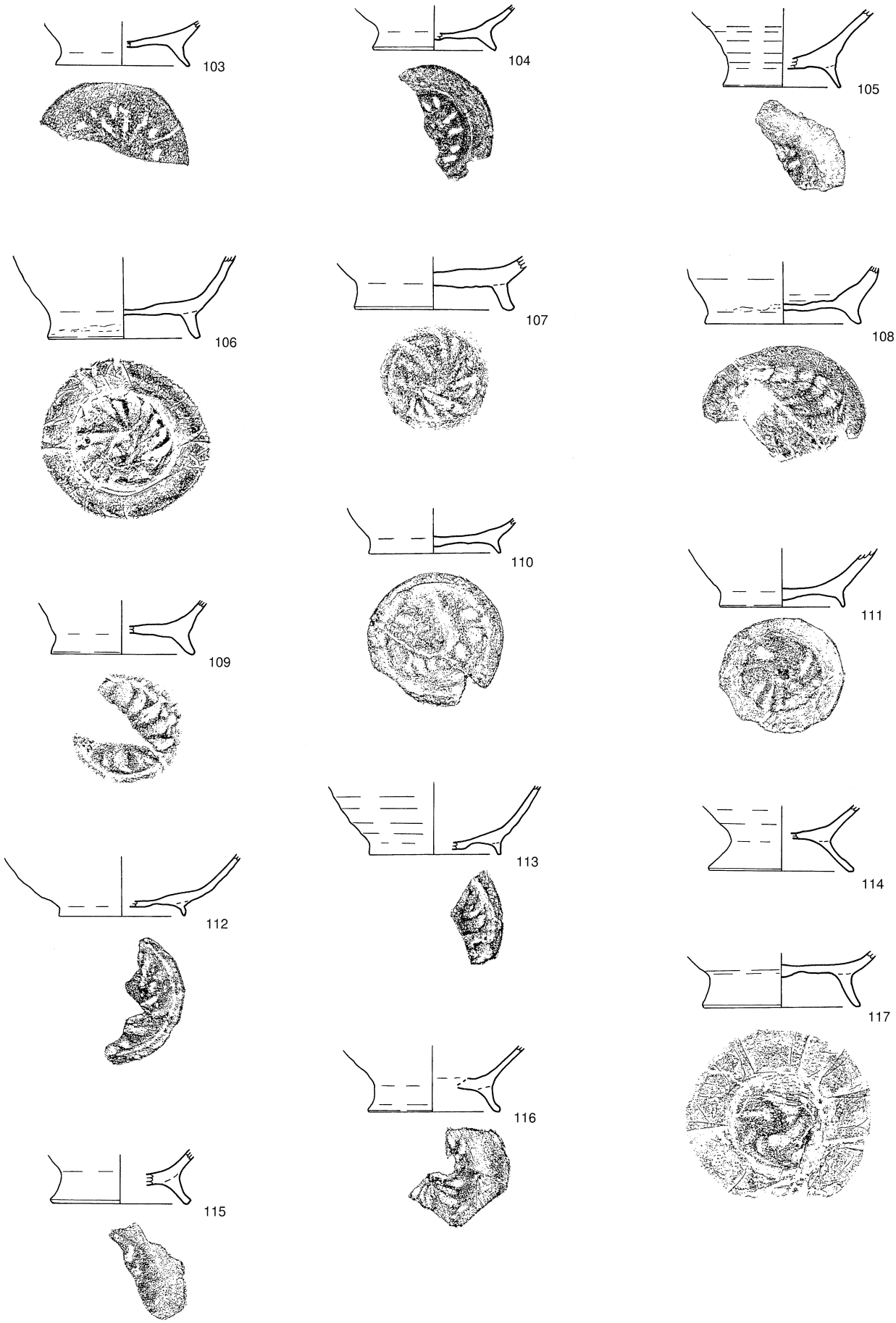
第７図　出土遺物実測図（３）



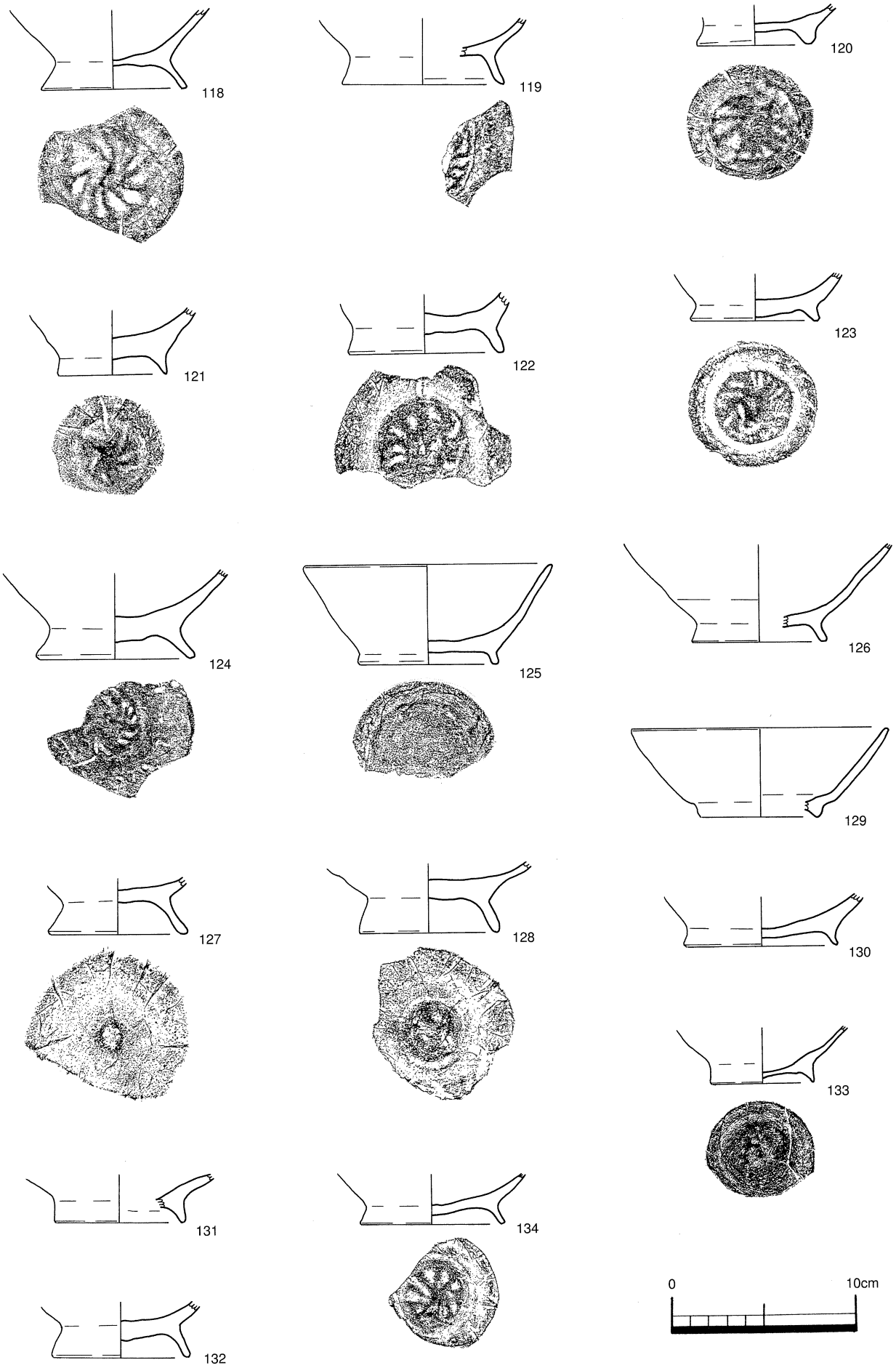
第８図　出土遺物実測図（４）



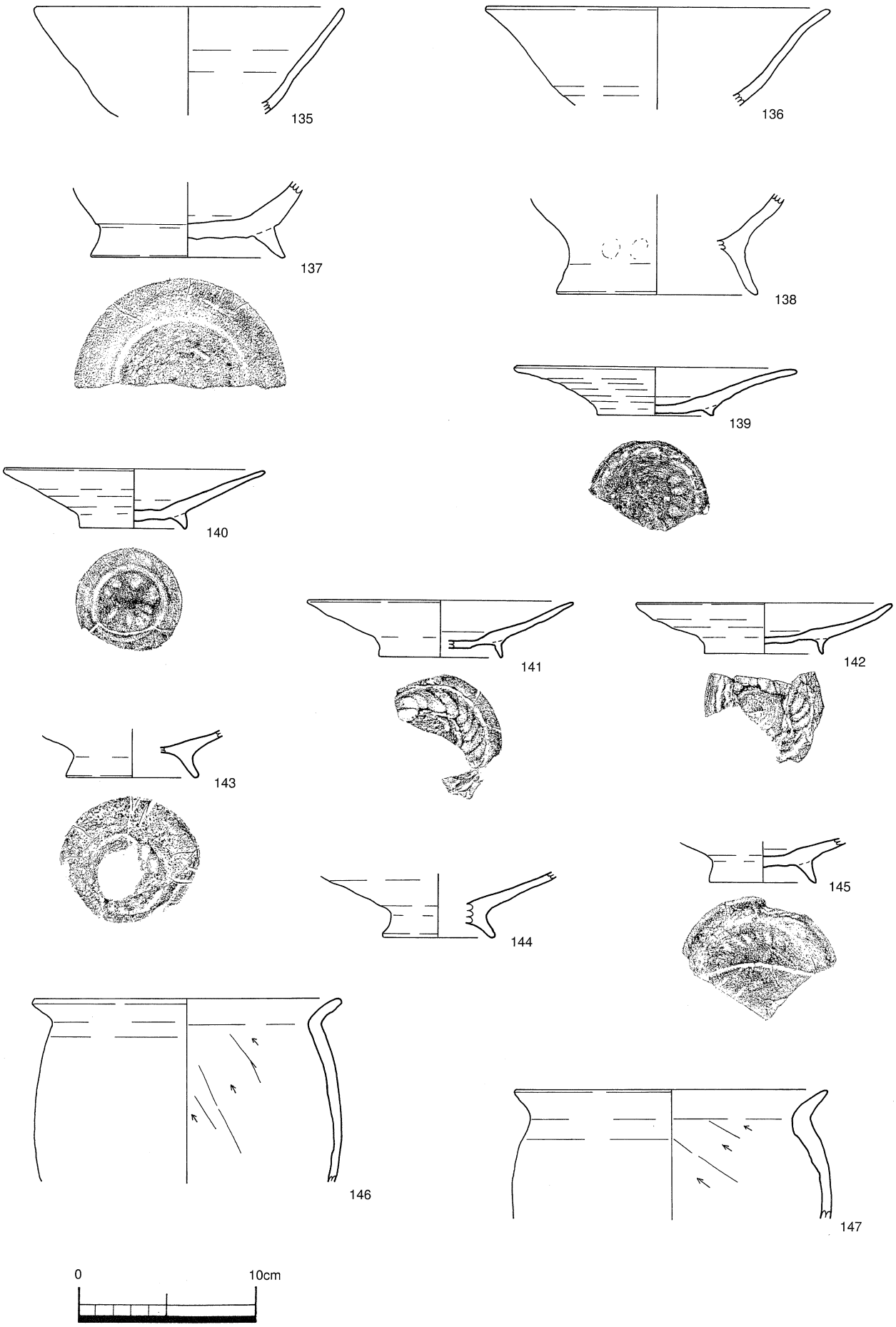
第９図　出土遺物実測図（５）



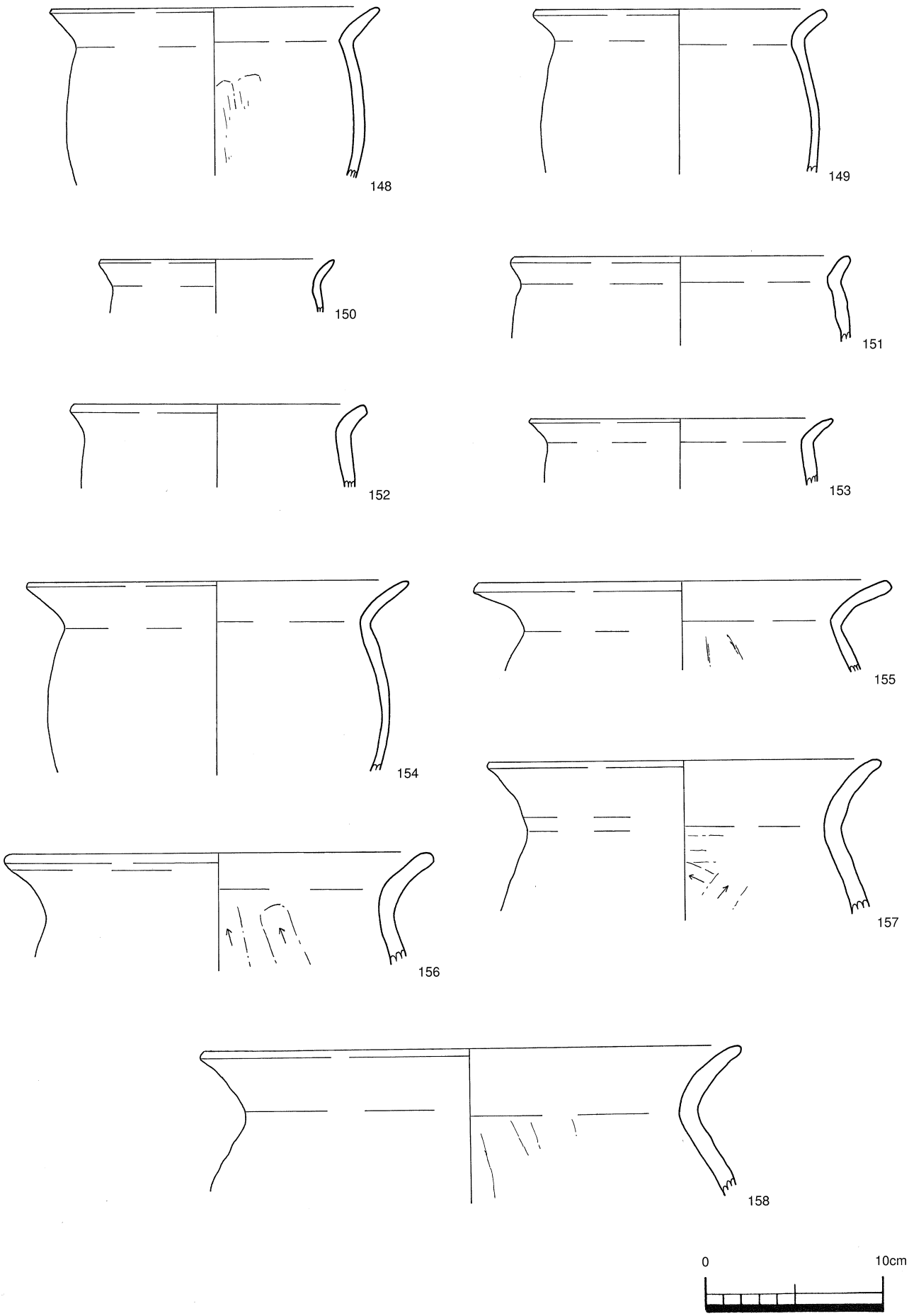
第10図　出土遺物実測図（６）



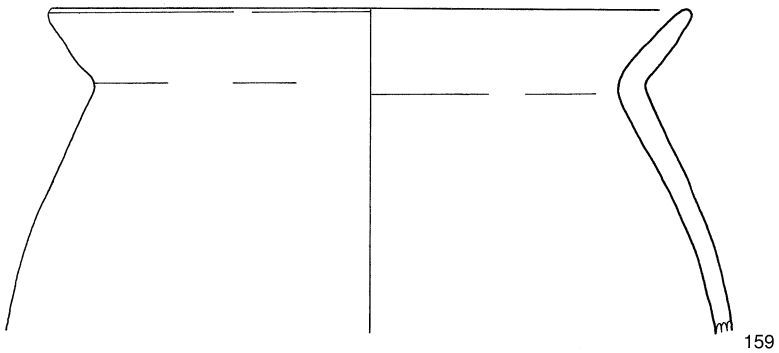
第11図　出土遺物実測図（７）

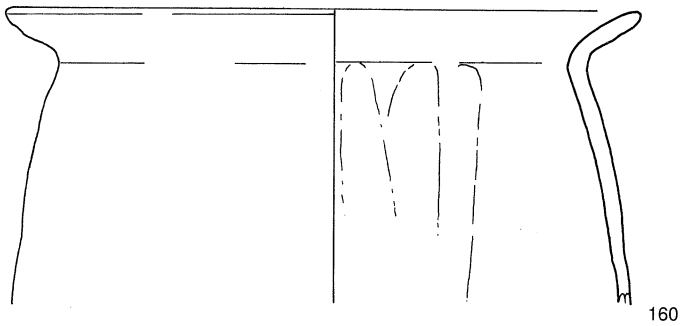


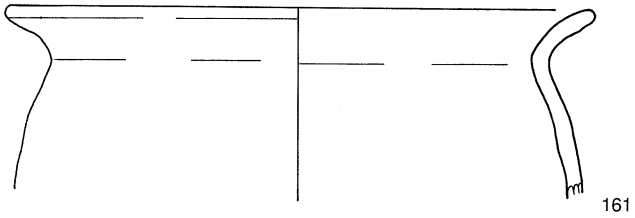
第12図　出土遺物実測図（８）

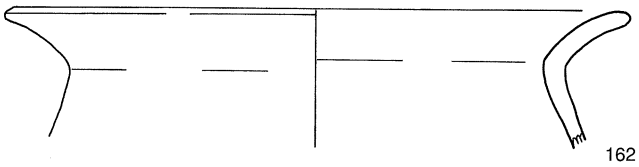


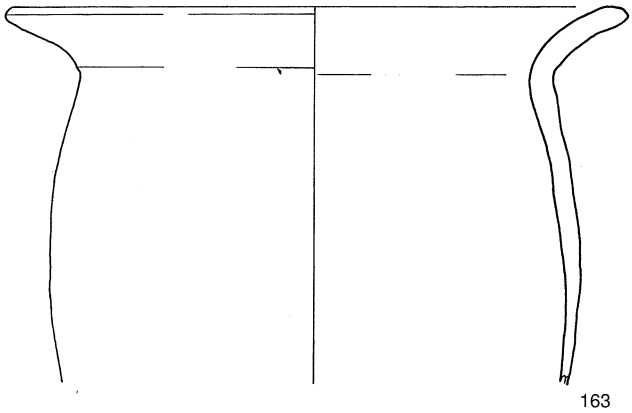
第13図　出土遺物実測図（９）

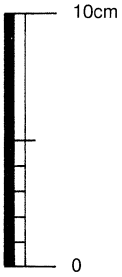




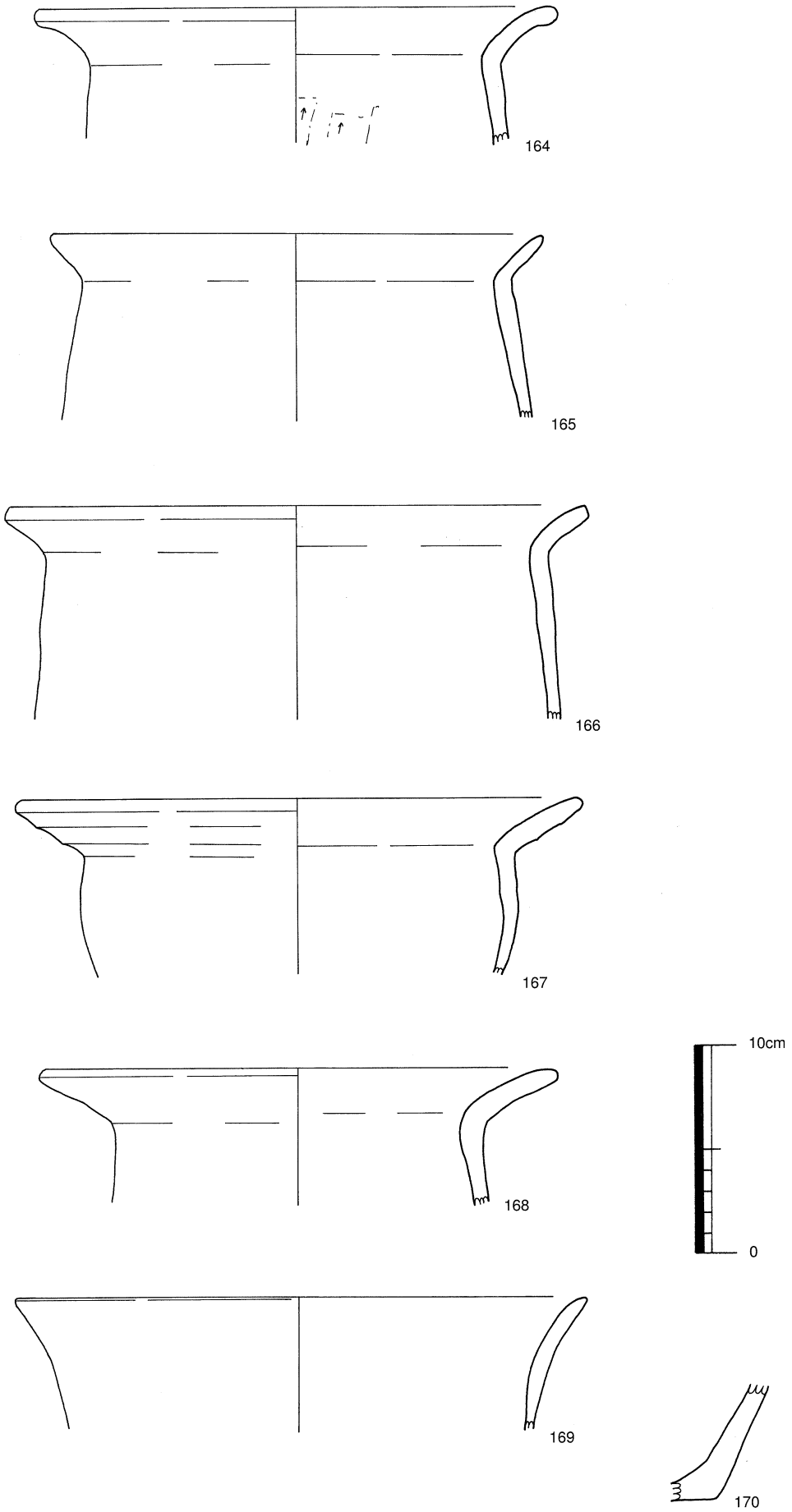




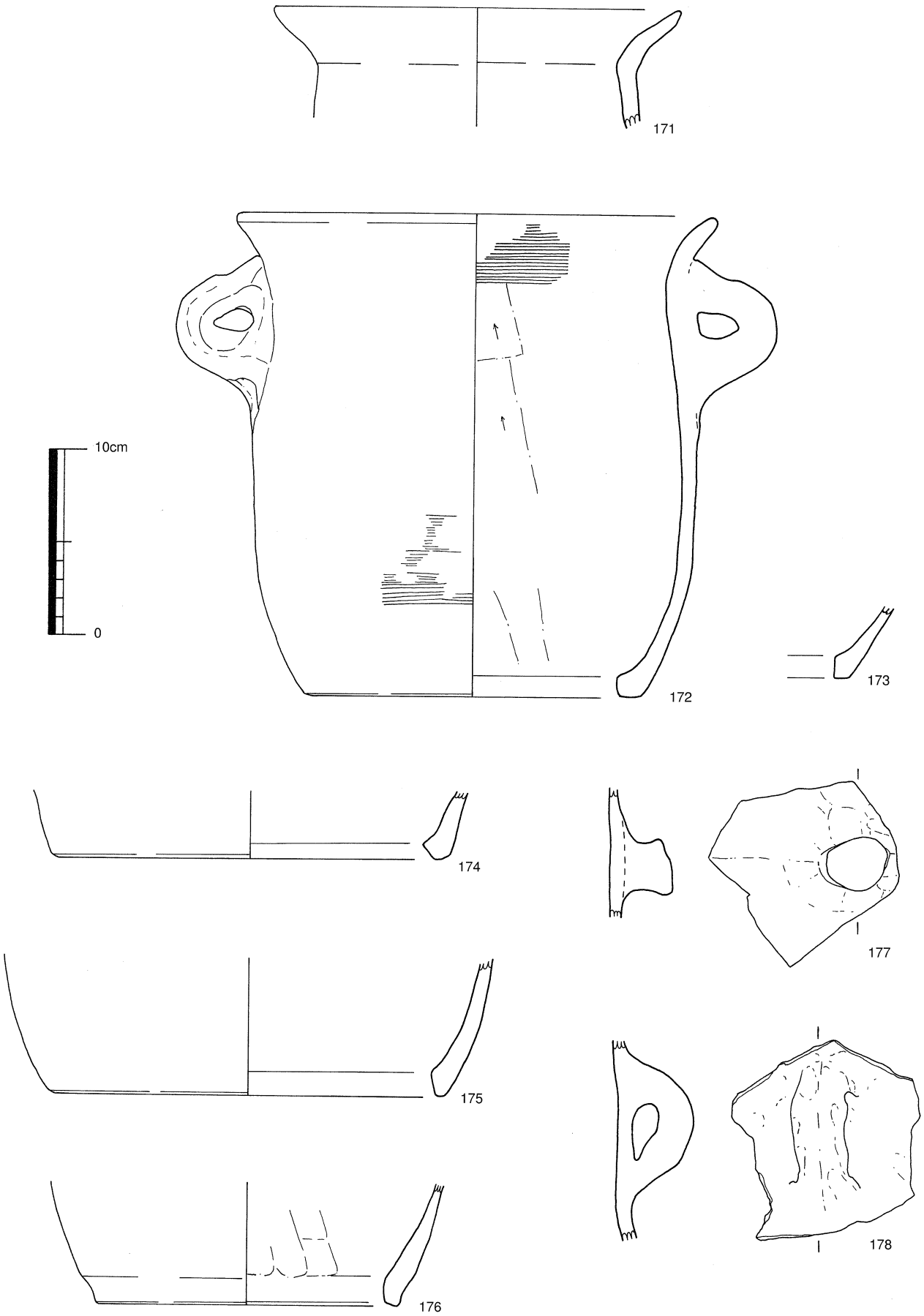




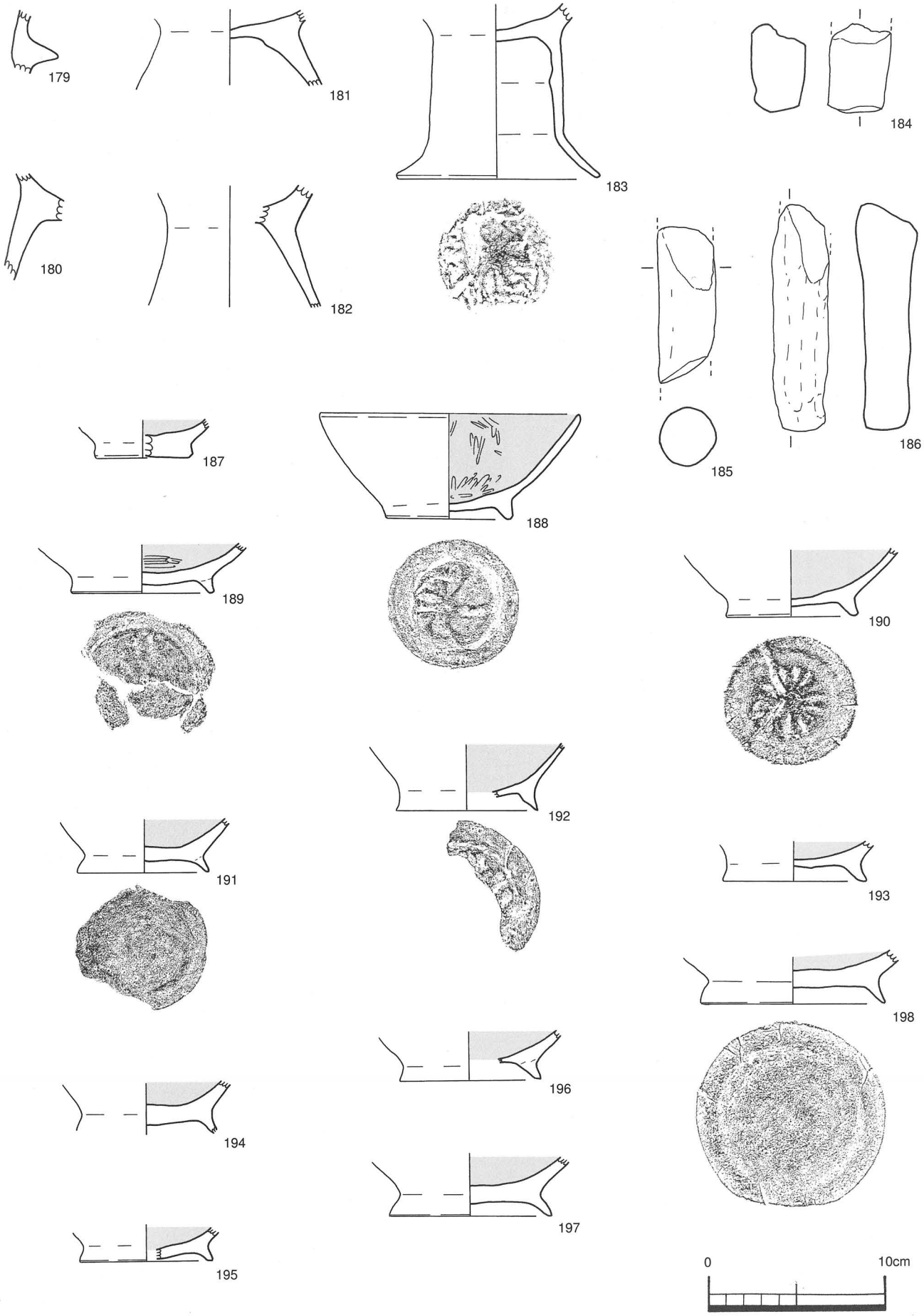
第14図　出土遺物実測図（10）



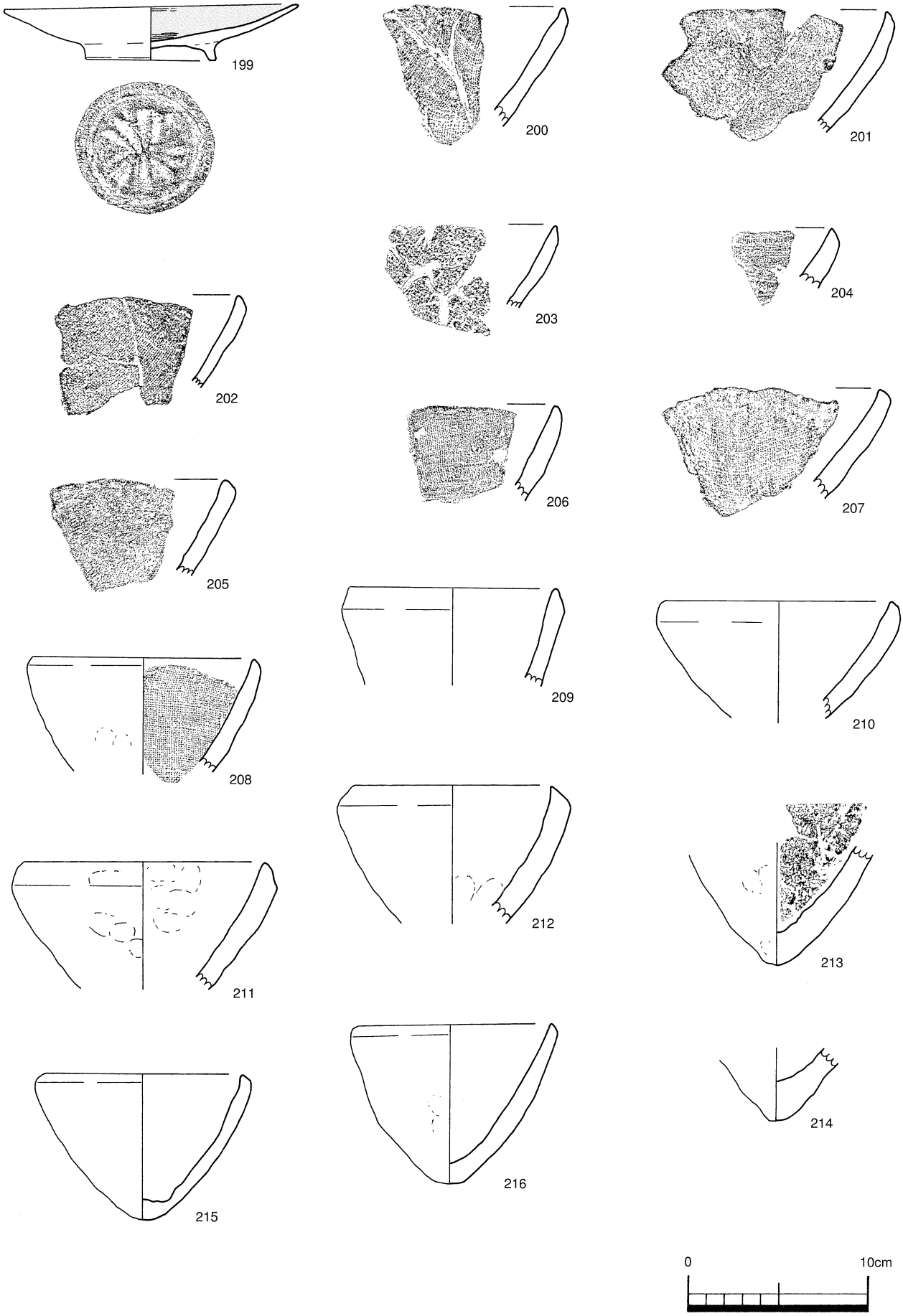
第15図　出土遺物実測図（11）



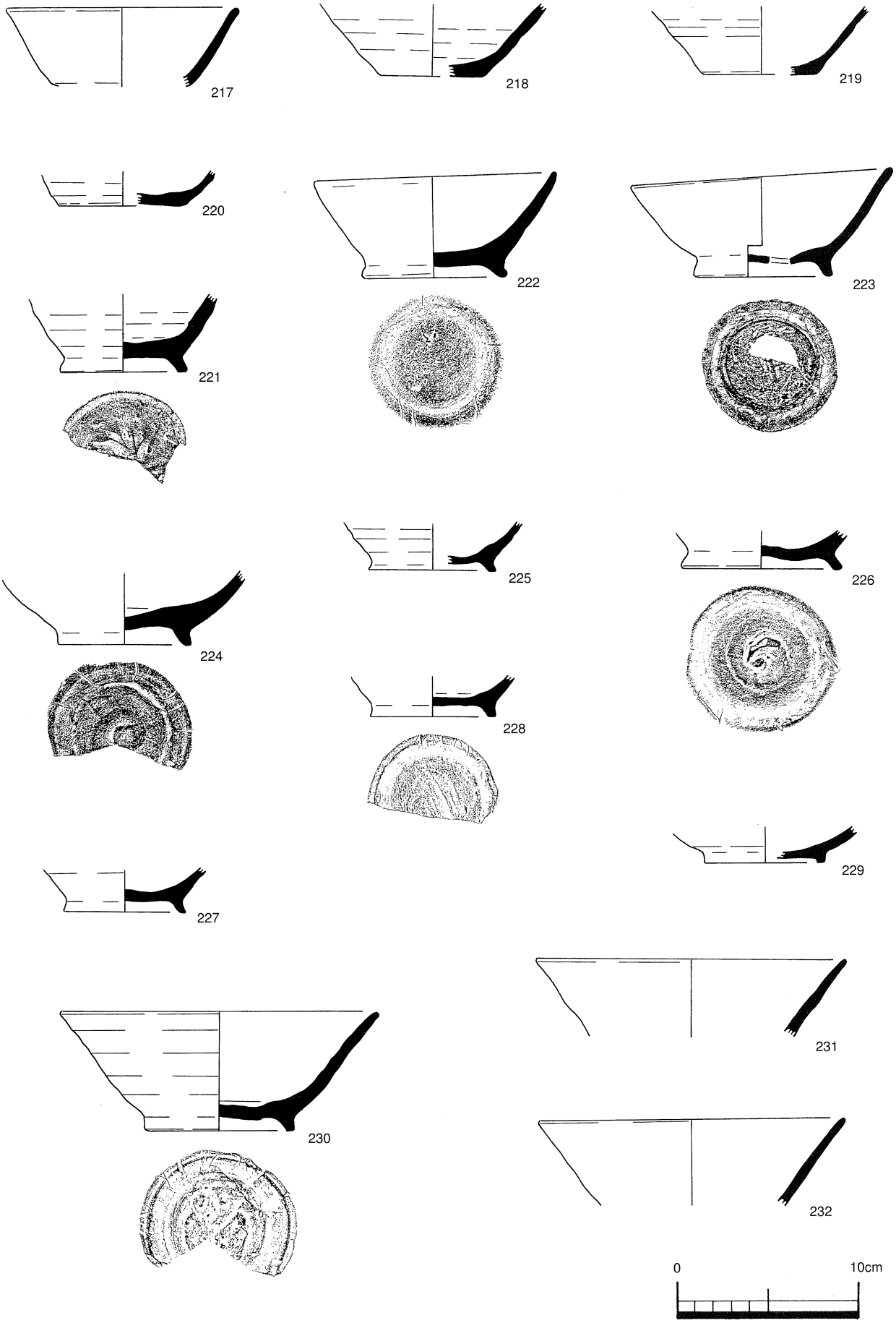
第16図　出土遺物実測図（12）



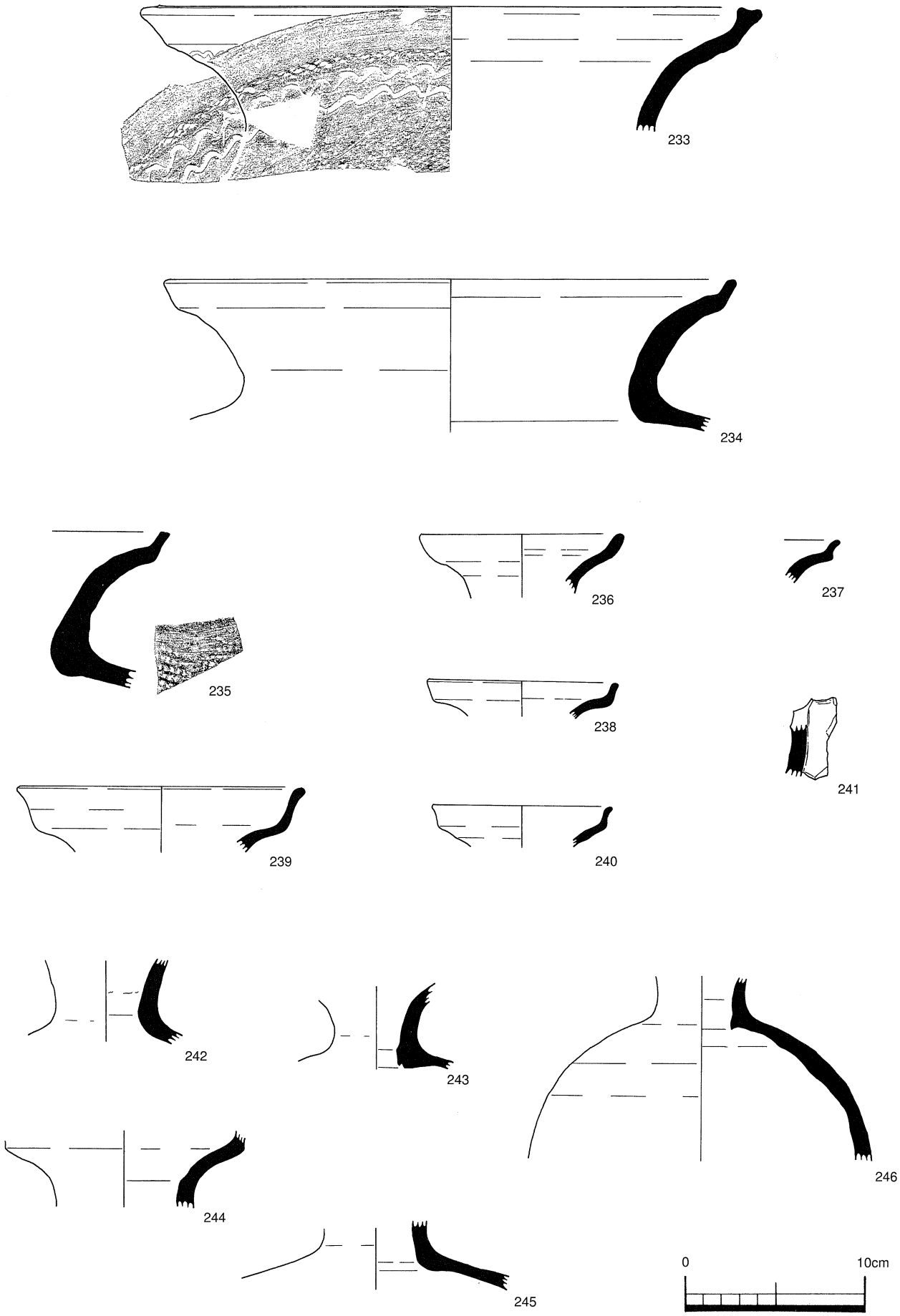
第17図　出土遺物実測図（13）



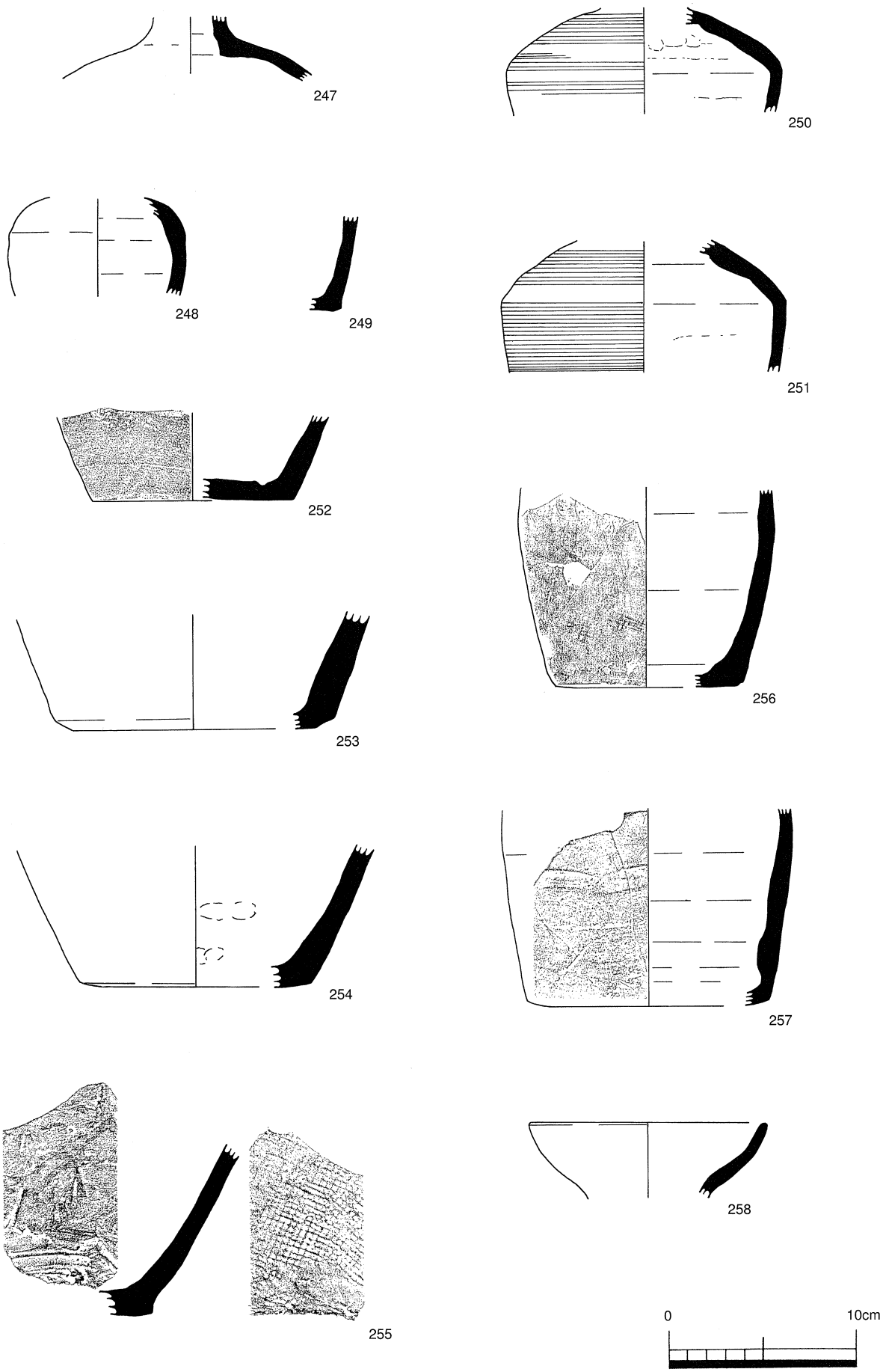
第18図　出土遺物実測図（14）



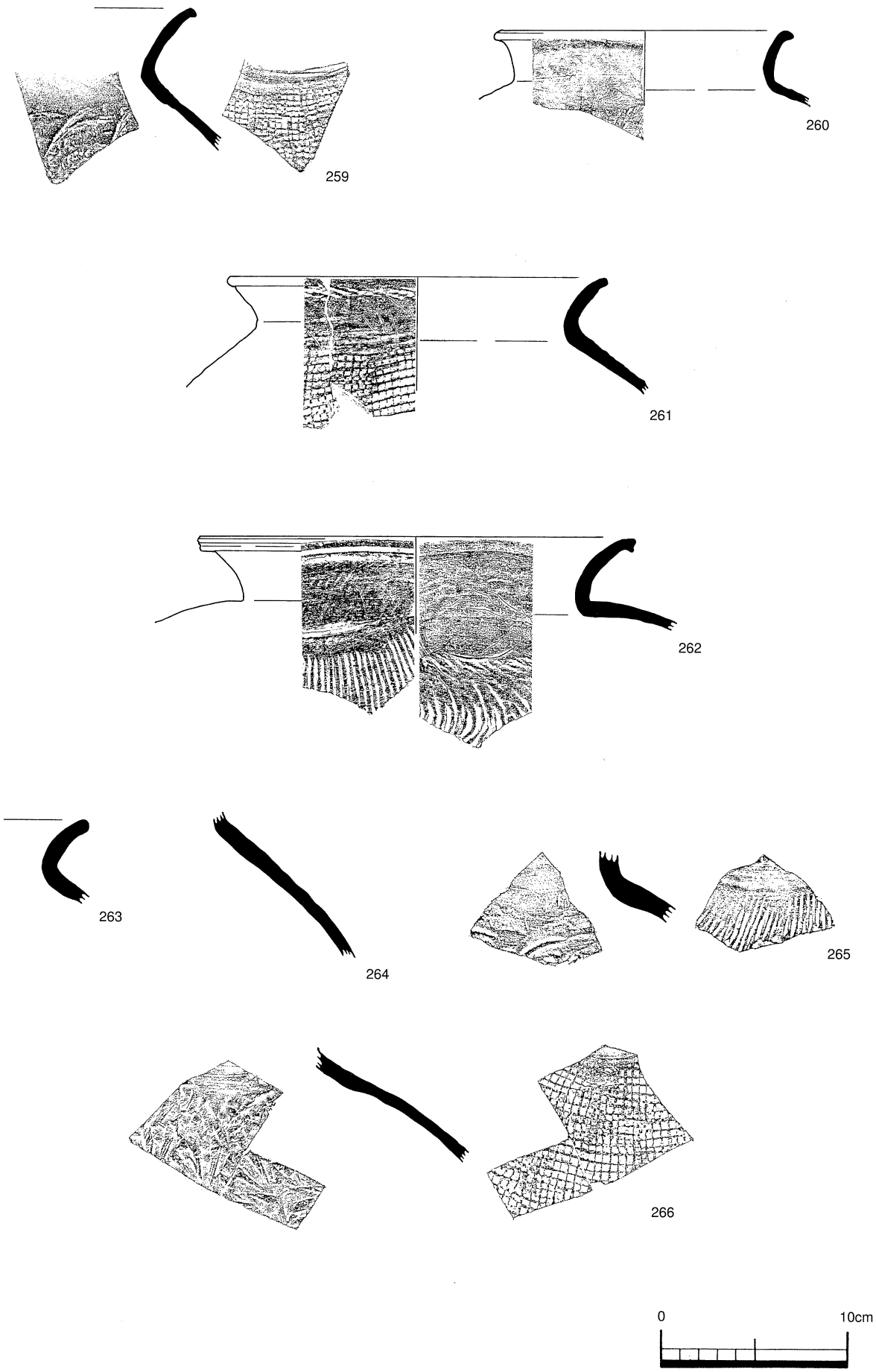
第19図　出土遺物実測図（15）



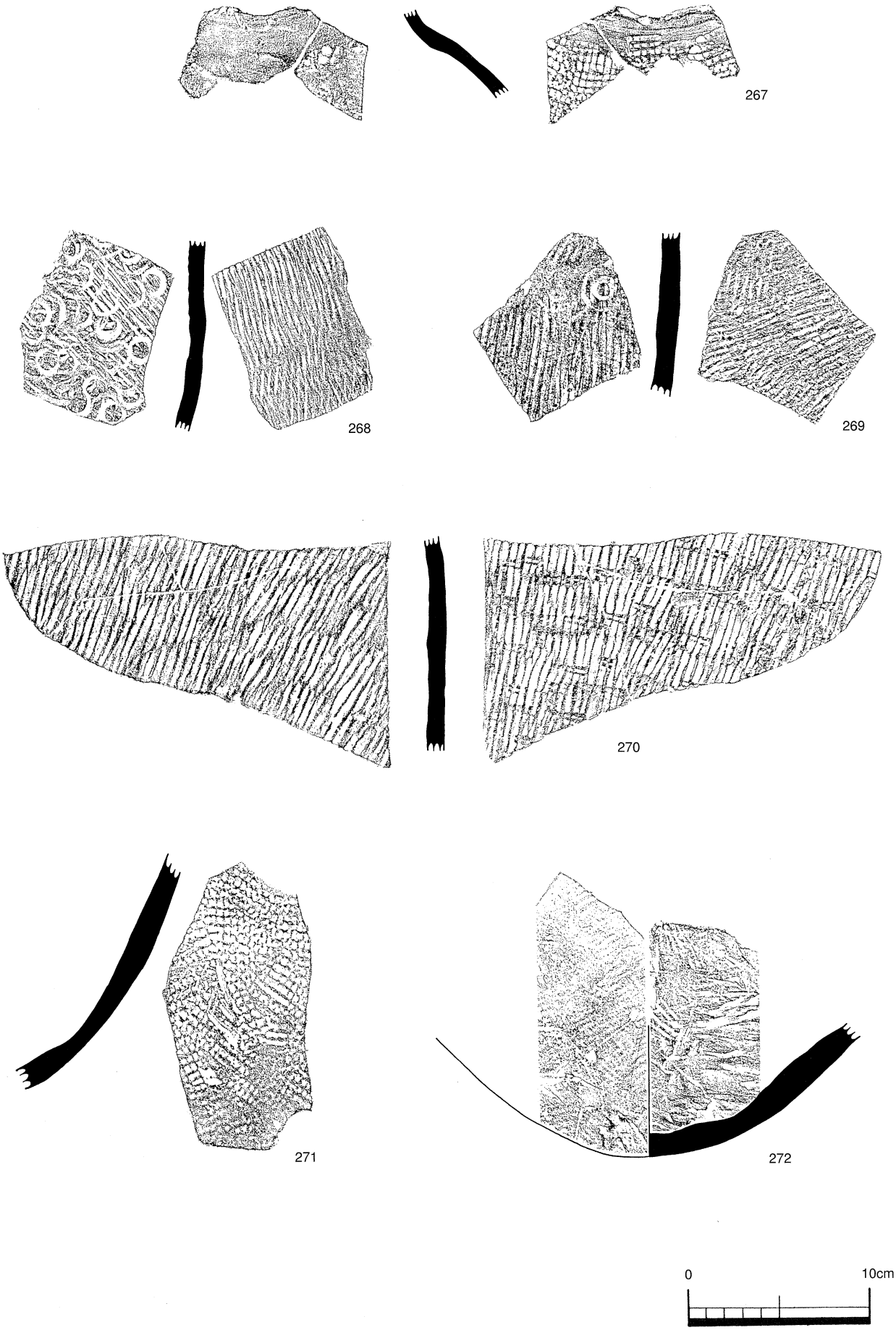
第20図　出土遺物実測図（16）



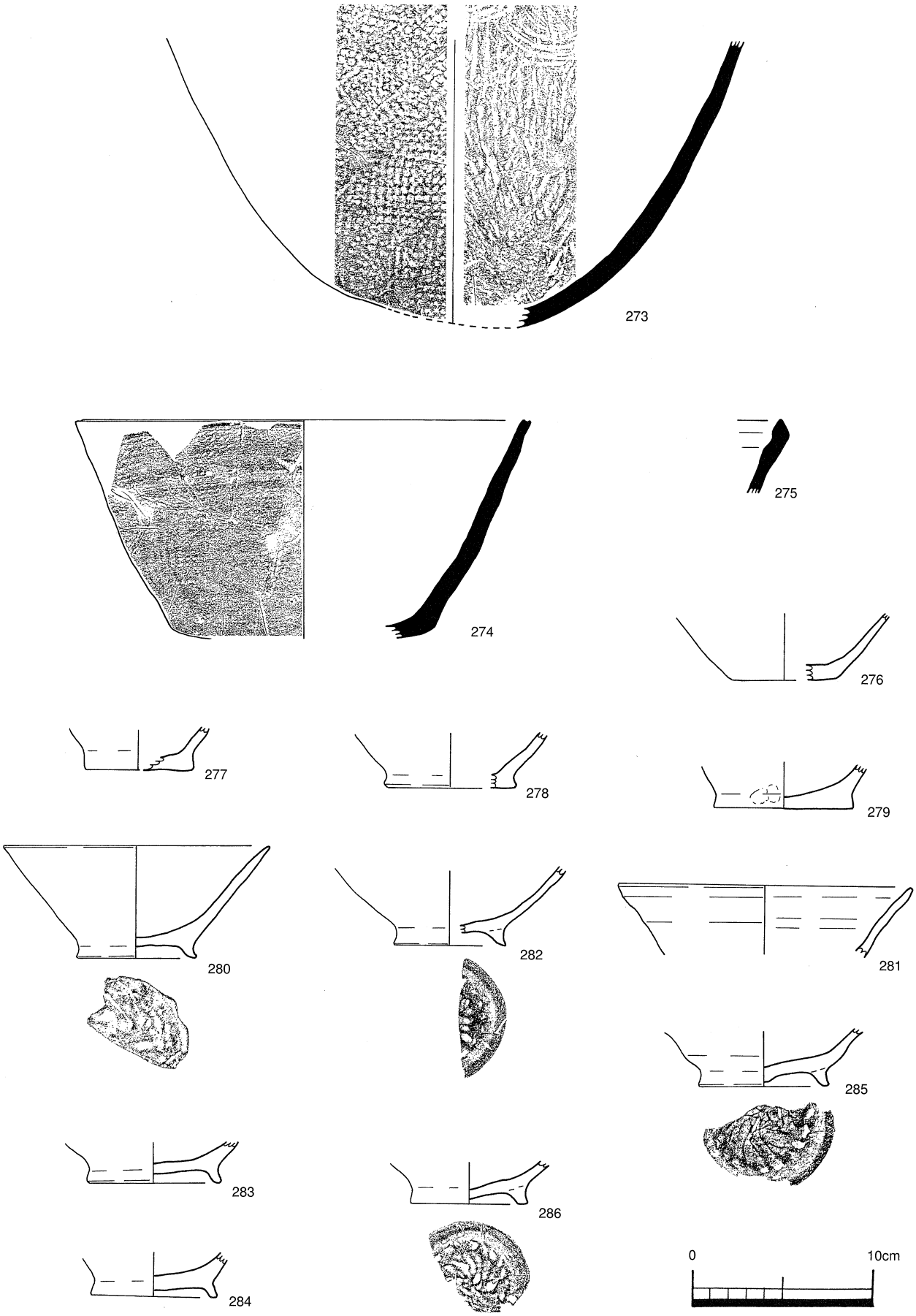
第21図　出土遺物実測図（17）



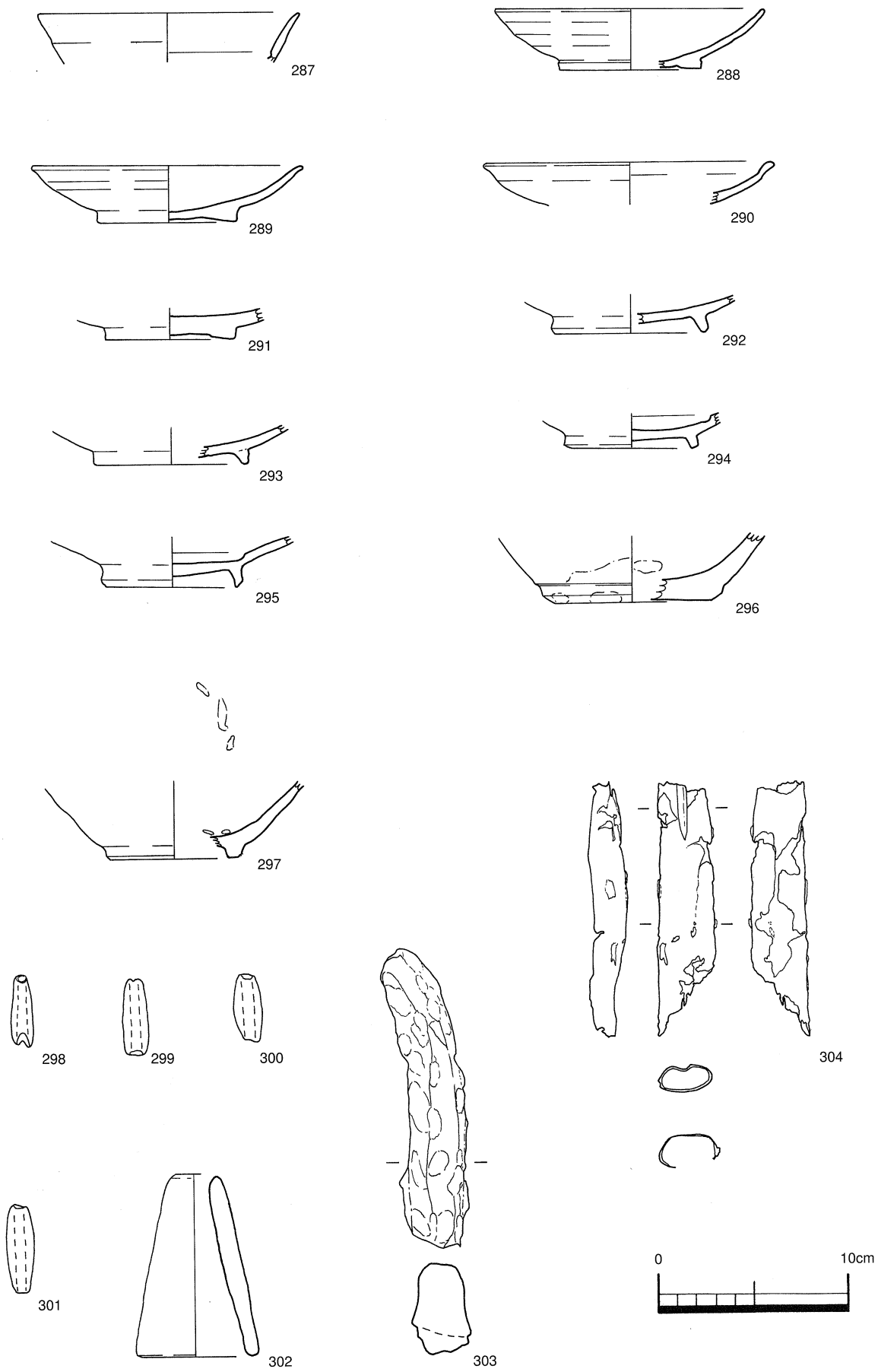
第22図　出土遺物実測図（18）



第23図　出土遺物実測図（19）



第24図　出土遺物実測図（20）



第25図　出土遺物実測図（21）

遺物No.	挿図	写真図版	種別	器種	法量			調整等		色調	胎土	焼成	備考
					口径	底径	器高	外面	内面				
1	5	4	土師器	杯	122	68	45	①③回転利用のナデ ④回転ヘラ切り	摩耗の為不明	灰白色(10YR 8/2)	乳白色粒を含む	やや不良	
2	5		土師器	杯	113	54	49	①③回転利用のナデ (摩耗) ④回転ヘラ切り	回転利用のナデ (摩耗)	㊥黄橙色(7.5YR 8/8) ㊦橙色(5YR 7/8)	1㎜大の乳白色粒・赤褐色粒を含む	良	
3	5		土師器	杯	117	70	51	摩耗の為不明	摩耗の為不明	橙色(5YR 7/8) 灰白色(10YR 7/1)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒・黒色粒を含む	良	
4	5		土師器	杯	121	50	48	摩耗の為不明	摩耗の為不明	橙色(5YR 6/6)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母を含む	良	
5	5		土師器	杯	116	60	44	①③回転利用のナデ ④回転ヘラ切り	①③回転利用のナデ ④ナデ	橙色(5YR 6/8) 橙色(5YR 7/6)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・黒色粒を含む	良	
6	5	4	土師器	杯	121 ～140	64	50	①③回転利用のナデ ④回転ヘラ切り	回転利用のナデ	橙色(2.5YR 6/8) 浅黄橙色(7.5YR 8/4)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒を含む	良	底部に穿孔有り
7	5	4	土師器	杯	132	66	45	①③回転利用のナデ ④回転ヘラ切り	回転利用のナデ	橙色(5YR 7/6)	乳白色粒を含む	良	
8	5	4	土師器	杯	129	66	48	①③回転利用のナデ ④回転ヘラ切り	①～④回転利用のナデ	橙色(2.5YR 6/8) 橙色(2.5YR 7/6)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒を含む	良	
9	5		土師器	杯	129	70	49	①回転利用のナデ ③④摩耗の為不明	摩耗の為不明	にぶい橙色(7.5YR 7/4)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・赤褐色粒を含む	良	
10	5		土師器	杯	135	65	46	摩耗の為不明	摩耗の為不明	浅黄橙色(7.5YR 8/6) 橙色(7.5YR 7/8)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒を含む	良	
11	5		土師器	杯	133	69	46	①③摩耗の為不明 ④回転ヘラ切り	摩耗の為不明	にぶい黄橙色(10YR 7/4) 灰白色(10YR 8/2) 橙色(5YR 7/8)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒を含む	良	
12	5		土師器	杯	125	66	41	②③摩耗の為不明 ④器面剥離	摩耗の為不明	灰白色(10YR 8/2)	1㎜大の乳白色粒・赤褐色粒を含む	不良	
13	5		土師器	杯	117	64	40	摩耗の為不明	摩耗の為不明	にぶい橙色(7.5YR 7/4)	1㎜大の乳白色粒・赤褐色粒・黒色粒を含む	不良	
14	5		土師器	杯	116	66	38	②③摩耗の為不明 ④回転ヘラ切り	摩耗の為不明	橙色(7.5YR 7/6)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・赤褐色粒・黒色粒を含む	良	
15	5		土師器	杯	122	68	37	摩耗の為不明	摩耗の為不明	橙色(7.5YR 7/6)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・赤褐色粒・雲母を含む	良	

遺物No.	挿図	写真図版	種別	器種	法量			調整等		色調	胎土	焼成	備考
					口径	底径	器高	外面	内面				
16	5	4	土師器	杯	133	61	43	①③回転利用のナデ ④回転ヘラ切り	摩耗の為不明	にぶい橙色(5YR 7/4) 橙色(5YR 7/6)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・赤褐色粒を含む	良	
17	5		土師器	杯	132	60	40	回転利用のナデ(摩耗)	回転利用のナデ(摩耗)	橙色(5YR 7/8)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・赤褐色粒・雲母を含む	良	
18	5	4	土師器	杯	137	77	45	①摩耗の為不明 ③回転利用のナデ ④回転ヘラ切り	①③摩耗の為不明 ④回転利用のナデ	浅黄橙色(10YR 8/3)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・赤褐色粒を含む	良	
19	5		土師器	杯	129	67	43	②摩耗の為不明 ③回転利用のナデ ④摩耗の為不明	摩耗の為不明	橙色(7.5YR 7/6) 浅黄橙色(7.5YR 8/4)	乳白色粒・赤褐色粒を含む	良	
20	6		土師器	杯	133	70	38	①回転利用のナデ ③④摩耗の為不明	摩耗の為不明	浅黄橙色(7.5YR 8/4)	乳白色粒・赤褐色粒を含む	良	
21	6		土師器	杯	138	78	38	摩耗の為不明	回転利用のナデ	浅黄橙色(10YR 8/4) 浅黄橙色(7.5YR 8/4)	乳白色粒・赤褐色粒を含む	良	
22	6		土師器	杯	138	70	40	①③回転利用のナデ ④回転ヘラ切り後ナデ	①③回転利用のナデ ④ナデ	明褐灰色(7.5YR 7/2) 橙色(5YR 7/6)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・黒色粒を含む	良	
23	6	4	土師器	杯	136	70	51	②③摩耗の為不明 ④回転ヘラ切り後ナデ	②③摩耗の為不明 ④ナデ	黄橙色(7.5YR 7/8) 浅黄橙色(7.5YR 8/6)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒を含む	良	
24	6	4	土師器	杯	132	65	46	①③回転利用のナデ ④回転ヘラ切り	回転利用のナデ	浅黄橙色(10YR 8/3) 橙色(5YR 7/6) にぶい橙色(5YR 6/3) 黄灰色(2.5YR 5/1)	1㎜大の乳白色粒・赤褐色粒を含む	良	
25	6		土師器	杯	136	64	50	①③摩耗の為不明 ④回転ヘラ切り	摩耗の為不明	にぶい橙色(7.5YR 7/4) 橙色(2.5YR 7/6)	乳白色粒・雲母・黒色粒・赤褐色粒を含む	良	
26	6	5	土師器	杯	134	73	39	①③回転利用のナデ ④回転ヘラ切り後圧痕?	回転利用のナデ	浅黄橙色(10YR 8/4)	乳白色粒・赤褐色粒を含む	良	
27	6		土師器	杯	114			回転利用のナデ	回転利用のナデ	㊥浅黄橙色(7.5YR 8/4) ㊦浅黄橙色(7.5YR 8/4)	黒色粒・乳白色粒・透明光沢粒・1㎜大の赤褐色粒を含む	良	
28	6		土師器	杯	130			回転利用のナデ	回転利用のナデ	浅黄橙色(7.5YR 8/6) 灰白色(10YR 8/2)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒を含む	良	
29	6		土師器	杯	143			回転利用のナデ	回転利用のナデ	㊥橙色(5YR 7/8) ㊦橙色(5YR 7/8)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・黒色粒を含む	良	
30	6		土師器	杯	142			ナデ	ナデ	㊥浅黄橙色(7.5YR 8/4) ㊦浅黄橙色(7.5YR 8/4)	1㎜大の黒色粒・透明光沢粒・灰色粒・褐色粒を含む	良	

遺物No.	挿図	写真図版	種別	器種	法量			調整等		色調	胎土	焼成	備考
					口径	底径	器高	外面	内面				
31	6		土師器	杯	134			回転利用のナデ	回転利用のナデ	橙色(7.5YR 7/6) にぶい橙色(10YR 6/4) 黄灰色(2.5Y 4/1)	1㎜大の乳白色粒を含む 黒色粒・透明光沢粒・赤褐色粒を含む	良	
32	6		土師器	杯		58		③回転利用のナデ ④回転ヘラ切り後ナデ	回転利用のナデ	㊥淡赤橙色(2.5YR 7/4) ㊦淡赤橙色(2.5YR 7/4)	1㎜大の黒色粒・褐色粒・透明光沢粒・乳白色粒・赤褐色粒を含む	良	
33	6		土師器	杯		58		摩耗の為不明	ナデ	浅黄橙色(7.5YR)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒を含む	良	
34	6		土師器	杯				摩耗の為不明	摩耗の為不明	㊥灰白色(2.5YR 8/1) ㊦灰白色(2.5YR 8/1)	白色粒・透明光沢粒を含む	良	
35	6		土師器	杯		66		摩耗の為不明	摩耗の為不明	㊥浅黄橙色(7.5YR 8/3) にぶい橙色(7.5YR 7/4) ㊦浅黄橙色(7.5YR 8/3)	0.5㎜以下の透明光沢粒を含む 1㎜大の黒雲母・白色粒を含む	良	
36	6		土師器	杯		48		③ナデ ④回転ヘラ切り	ナデ	㊥橙色(5YR 7/6) ㊦にぶい橙色(5YR 7/3)	白色粒・褐色粒・透明光沢粒を含む	良	
37	6		土師器	杯		56		③回転利用のナデ ④回転ヘラ切り	回転利用のナデ	㊥にぶい橙色(7.5YR 7/3) ㊦浅黄橙色(7.5YR 8/3)	1㎜大の赤褐色粒・茶褐色粒を含む	良	
38	6		土師器	杯		63		③摩耗の為不明 ④回転ヘラ切り後ナデ	摩耗の為不明	浅黄橙色(7.5YR 8/4) 浅黄橙色(7.5YR 8/6)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・黒色粒・赤褐色粒を含む	良	
39	6		土師器	杯		46		③回転利用のナデ ④回転ヘラ切り	回転利用のナデ	㊥にぶい橙色(10YR 7/4) ～灰白色(10YR 7/1) ㊦にぶい橙色(7.5YR 7/4) ～灰黄色(2.5Y 7/2)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・黒色粒を含む	やや不良	
40	6		土師器	杯		70		摩耗の為不明	回転利用のナデ(摩耗)	㊥浅黄橙色(7.5YR 8/4) ㊦橙色(5YR 7/6)	白色粒・黒色粒・透明光沢粒・褐色粒・赤褐色粒・灰色粒を含む	良	
41	6		土師器	杯		60		③回転利用のナデ ④回転ヘラ切り後ナデ	摩耗の為不明	㊥浅黄橙色(7.5YR 8/4) ㊦淡橙色(5YR 8/4)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・黒色粒を含む	良	
42	6		土師器	杯		51		③摩耗の為不明 ④回転ヘラ切り	摩耗の為不明	浅黄橙色(7.5YR 8/4)	0.5㎜以下の白色粒・透明光沢粒・赤褐色粒・黒色粒を含む	良	
43	6		土師器	杯		52		③摩耗の為不明 ④ヘラ切り	回転利用のナデ	浅黄橙色(7.5YR 8/6)	1㎜大の乳白色粒・雲母細片・赤褐色粒を含む	良	
44	6		土師器	杯		54		ナデ	ナデ	㊥浅黄橙色(10YR 8/4) ㊦黄橙色(10YR 8/6)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒を含む	良	

遺物No.	挿図	写真図版	種別	器種	法量			調整等		色調	胎土	焼成	備考
					口径	底径	器高	外面	内面				
45	6		土師器	杯		54		摩耗の為不明	摩耗の為不明	橙色(5YR 6/8) にぶい橙色(7.5YR 7/6)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒を含む	良	
46	6		土師器	杯		56		③ナデ ④ヘラ切り	摩耗の為不明	㊥灰白色(10YR 8/2) ㊦浅黄橙色(10YR8/3)	黒色粒・透明光沢粒を含む	良	
47	6		土師器	杯		60		摩耗の為不明	ナデ	㊥灰白色(10YR 8/2) 浅黄橙色(7.5YR 8/4) ㊦灰白色(10YR 8/2)	白色粒・透明光沢粒を含む 1㎜大の乳白色粒を含む	良	
48	7		土師器	杯		54		③回転利用のナデ ④回転ヘラ切り	摩耗の為不明	浅黄橙色(7.5YR 8/4) 浅黄橙色(7.5YR 8/6)	乳白色をほとんど含まない 赤褐色粒を含む	良	
49	7		土師器	杯		56		摩耗の為不明	摩耗の為不明	㊥淡橙色(5YR 8/4) ㊦淡橙色(5YR 8/4)	1㎜大の透明光沢粒・赤褐色粒を含む	良	
50	7		土師器	杯		62		摩耗の為不明	ナデ	㊥浅黄橙色(7.5YR 8/6) ㊦浅黄橙色(7.5YR 8/6)	微細な褐色粒・白色粒を含む	良	
51	7		土師器	杯		58		ナデ	ナデ	㊥浅黄橙色(7.5YR 8/4) ㊦浅黄橙色(7.5YR 8/4)	微細な透明光沢粒を含む	良	
52	7		土師器	杯		57		③回転利用のナデ ④回転ヘラ切り後ナデ	ナデ	浅黄橙色(7.5YR 8/3)	乳白色粒・雲母細片・赤褐色粒を含む	良	
53	7		土師器	杯		58		摩耗の為不明	摩耗の為不明	浅黄橙色(10YR 8/3) 浅黄橙色(7.5YR 8/4)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒・黒色粒を含む	良	
54	7		土師器	杯		62		③回転利用のナデ ④回転ヘラ切り	回転利用のナデ	㊥浅黄橙色(7.5YR 8/3) ㊦浅黄橙色(7.5YR 8/4)	微細な透明光沢粒・黒色粒を含む	良	
55	7		土師器	杯		50		③回転利用のナデ ④回転ヘラ切り	③回転利用のナデ ④ナデ	㊥橙色(5YR 7/6) ㊦オリーブ黒色(5Y 3/1)	0.5㎜以下の白色粒・透明光沢粒・赤褐色粒・黒色粒を含む	良	
56	7		土師器	杯		56		摩耗の為不明	摩耗の為不明	㊥浅黄橙色(7.5YR 8/4) ㊦浅黄橙色(7.5YR 8/4)	白色粒・透明光沢粒・乳白色粒・赤褐色粒を含む	良	
57	7		土師器	杯		57		③摩耗の為不明 ④回転ヘラ切り	摩耗の為不明	灰白色(10YR 8/2) にぶい黄橙色(10YR 7/4) 浅黄橙色(7.5YR 8/4)	0.5㎜大の乳白色粒を含む 赤褐色粒を含む	良	
58	7		土師器	杯		63		摩耗の為不明	回転利用のナデ	㊥浅黄橙色(7.5YR 8/3) ㊦淡橙色(5YR 8/3)	0.5㎜大の透明光沢粒・白色粒・黒雲母・赤色粒を含む	良	
59	7		土師器	杯		68		③回転利用のナデ ④不明	回転利用のナデ	浅黄橙色(10YR 8/4)	1㎜大の乳白色粒・雲母細片・赤褐色粒を含む	良	
60	7		土師器	杯		65		③回転利用のナデ ④摩耗の為不明	回転利用のナデ	㊥浅黄橙色(7.5YR 8/4) ㊦浅黄橙色(10YR 8/4)	0.5㎜大の黒雲母・透明光沢粒・白色粒を含む	良	

遺物No.	挿図	写真図版	種別	器種	法量			調整等		色調	胎土	焼成	備考
					口径	底径	器高	外面	内面				
61	7		土師器	杯		62		③ナデ（摩耗） ④ヘラ切り	ナデ	㊥浅黄橙色（7.5YR 8/4） ㊦浅黄橙色（7.5YR 8/4）	微細な白色粒・黒色粒を含む 1㎜大の乳白色粒・灰白色粒・褐色粒を含む	良	
62	7		土師器	杯		78		③回転利用のナデ ④回転ヘラ切り	回転利用のナデ	㊥明褐灰色（7.5YR 7/2） ㊦にぶい黄橙色（10YR 7/2）	微細な白色粒・黒色粒・透明光沢粒を含む	良	
63	7		土師器	杯		60		③摩耗の為不明 ④回転ヘラ切り	摩耗の為不明	灰白色（2.5Y 8/2） 浅黄橙色（10YR 8/3）	0.5㎜大の乳白色粒を含む 赤褐色粒を含む	良	
64	7		土師器	杯		67		③摩耗の為不明 ④回転ヘラ切り後ナデ	摩耗の為不明	橙色（5YR 7/6）	微粒～2㎜大の白色粒・透明光沢粒・黒色粒・赤褐色粒・雲母を含む	良	
65	7		土師器	杯		80		ナデ（摩耗）	ナデ（摩耗）	㊥浅黄橙色（7.5YR8/3） 灰色（N 5/ ） ㊦浅黄橙色（7.5YR 8/3）	微細な褐色粒・黒色粒・透明光沢粒を含む 0.5㎜～2㎜大の乳白色粒・褐色粒・灰色粒を含む	良	
66	7		土師器	杯		74		③ナデ（摩耗） ④回転ヘラ切り	回転利用のナデ（摩耗）	㊥浅黄橙色（7.5YR 8/4） ㊦橙色（5YR 7/6）	微細な白色粒・黒色粒・褐色粒・透明光沢粒を含む 0.5㎜～2㎜大の褐色粒・灰色粒を少量含む	良	
67	7		土師器	杯		70		③摩耗の為不明 ④回転ヘラ切り	摩耗の為不明	㊥灰白色（2.5Y 8/2） ㊦灰白色（2.5Y 8/2）	微細な白色粒・褐色粒・透明光沢粒を含む	良	
68	7		土師器	杯		64		摩耗の為不明	摩耗の為不明	㊥灰白色（10YR 8/2） ㊦浅黄色（10YR 8/3）	微細な白色粒・黒色粒・褐色粒・透明光沢粒を含む 1㎜～3㎜大の赤褐色粒を含む	良	
69	7		土師器	杯		71		③摩耗の為不明 ④回転ヘラ切り	摩耗の為不明	㊥浅黄橙色（10YR 8/4） ㊦淡橙色（5YR 8/4）	1㎜大の乳白色粒・赤褐色粒を含む	良	
70	7		土師器	杯		68		摩耗の為不明	摩耗の為不明	浅黄橙色（7.5YR 8/4） 灰白色（10YR 8/2）	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒を含む	良	
71	7		土師器	杯		69		摩耗の為不明	摩耗の為不明	にぶい橙色（7.5YR 7/3）	乳白色粒・黒色粒を少量含む	良	
72	7		土師器	杯		76		③摩耗の為不明 ④回転ヘラ切り	摩耗の為不明	㊥灰白色（7.5YR 8/2） ㊦灰白色（7.5YR 8/2）	微細な白色粒・褐色粒・灰色粒・透明光沢粒を含む 2～5㎜大の褐色粒・灰色粒を少量含む	良	
73	7		土師器	杯		66		③摩耗の為不明 ④回転ヘラ切り	摩耗の為不明	浅黄橙色（7.5YR 8/4） 浅黄橙色（7.5YR 8/6）	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒を含む	良	

遺物No.	挿図	写真図版	種別	器種	法量			調整等		色調	胎土	焼成	備考
					口径	底径	器高	外面	内面				
74	7		土師器	杯		64		摩耗の為不明	摩耗の為不明	㊥にぶい黄橙色(10YR 7/3) ㊥浅黄橙色(7.5YR 8/6)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒を含む	良	
75	8		土師器	杯		68		③回転利用のナデ ④回転ヘラ切り後ナデ	③回転利用のナデ ④不明	灰白色(2.5YR 8/1) 灰白色(10YR 8/2)	乳白色粒・雲母細片を含む	良	
76	8		土師器	杯		68		③回転利用のナデ(摩耗) ④回転ヘラ切り	摩耗の為不明	浅黄橙色(7.5YR 8/4) 灰白色(10YR 8/2)	微細粒・赤褐色粒を含む	良	
77	8		土師器	杯		64		③摩耗の為不明 ④回転ヘラ切り	摩耗の為不明	灰白色(10YR 8/2)	1㎜大の赤褐色粒・黒色粒・黒色砂粒・雲母を含む		
78	8	5	土師器	高台付椀	128	80	60	①③回転利用のナデ ④放射痕(ケズリ)	摩耗の為不明	橙色(2.5YR 6/6)	0.5㎜大の白色粒・透明光沢粒・黒色粒・赤褐色粒を少量含む	良	
79	8	5	土師器	高台付椀	146	64	57	①③摩耗の為不明 ④回転ヘラ切り後放射痕(ケズリ)	摩耗の為不明	浅黄橙色(10YR 8/3) 浅黄橙色(7.5YR 8/4)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・黒色粒・赤褐色粒を含む	良	
80	8		土師器	高台付椀	140	74	61	①③回転利用のナデ ④ヘラ切り後放射痕(ケズリ)	ナデ	黄橙色(7.5YR 8/8) 黄橙色(7.5YR 7/8) 浅黄橙色(10YR 8/4)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒を含む	良	
81	8	5	土師器	高台付椀	141	72	58	①③摩耗の為不明 ④回転ヘラ切り後放射痕(ケズリ)	摩耗の為不明	黄橙色(10YR 8/8) 黄橙色(7.5YR 8/8)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・黒色粒・赤褐色粒を含む	良	
82	8	5	土師器	高台付椀	158	74	58	①③回転利用のナデ ④放射痕	回転利用のナデ	橙色(5YR 7/8) 橙色(5YR 6/8)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒を含む	良	
83	8		土師器	高台付椀	140	70	64	①③摩耗の為不明 ④放射痕	摩耗の為不明	橙色(5YR 7/8) 橙色(7.5YR 7/6)	微細～2㎜大の乳白色粒・透明光沢粒・黒色粒・赤褐色粒を含む	良	
84	8	5	土師器	高台付椀	145	78	52	①③回転利用のナデ ④放射痕	②③回転利用のナデ ④ナデ	浅黄橙色(7.5YR 8/4)	1㎜大の乳白色粒・雲母細片・赤褐色粒を含む	良	
85	8		土師器	高台付椀		70		③ナデ ④回転ヘラ切り後放射痕(ケズリ)	回転利用のナデ	橙色(5YR 7/8) 黄橙色(7.5YR 8/6)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒を含む	良	
86	8		土師器	高台付椀		73		③摩耗の為不明 ④放射痕	摩耗の為不明	橙色(5YR 7/8)	微粒～2㎜大の白色粒・透明光沢粒・赤褐色粒を含む		
87	8		土師器	高台付椀		67		③摩耗の為不明 ④放射痕(ケズリ)	摩耗の為不明	橙色(5YR 6/8) 明赤褐色(2.5YR 5/8)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒を含む	良	

遺物No.	挿図	写真図版	種別	器種	法量			調整等		色調	胎土	焼成	備考
					口径	底径	器高	外面	内面				
88	9		土師器	高台付椀		68		③摩耗の為不明 ④放射痕	回転利用のナデ	橙色(5YR 7/6)	0.5㎜以下の乳白色粒を少量含む	良	
89	9		土師器	高台付椀		78		③摩耗の為不明 ④放射痕	摩耗の為不明	㊥灰白色(10YR 8/2) ㊦灰白色(5YR 8/2)	微細な白色・透明光沢粒を含む	良	
90	9		土師器	高台付椀		74		③ナデ ④放射痕	ナデ	㊥浅黄橙色(7.5YR 8/6) ㊦浅黄橙色(7.5YR 8/6)	微細な白色粒・透明光沢粒を含む 0.5～3㎜大の半透明・乳白色粒・赤褐色粒を含む	良	
91	9		土師器	高台付椀		76		③回転利用のナデ ④放射痕(ケズリ)	ナデ	にぶい橙色(7.5YR 7/4)	乳白色粒・赤褐色粒を含む	普通	
92	9		土師器	高台付椀		73		③摩耗の為不明 ④放射痕	摩耗の為不明	浅黄橙色(7.5YR 8/4)	微粒～3㎜大の白色粒・透明光沢粒・赤褐色粒・黒色粒を含む	不良	赤彩?
93	9		土師器	高台付椀		72		③摩耗の為不明 ④ヘラ切り後放射痕	摩耗の為不明	橙色(5YR 7/6)	乳白色粒・赤褐色粒を少量含む	やや不良	
94	9		土師器	高台付椀		75		③回転利用のナデ ④放射痕	摩耗の為不明	浅黄橙色(10YR 8/4)	乳白色粒・雲母・黒色粒を少量含む	良	
95	9		土師器	高台付椀		77		③摩耗の為不明 ④放射痕(ケズリ)	摩耗の為不明	橙色(2.5YR 6/6)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・黒色粒を含む	良	
96	9		土師器	高台付椀		70		③回転利用のナデ ④放射痕	回転利用のナデ	㊥橙色(5YR 7/6) ㊦橙色(5YR 7/6)	微細な灰色粒・乳白色粒・透明光沢粒を含む 1㎜大の赤褐色粒・白色粒を含む	良	
97	9		土師器	高台付椀		70		③摩耗の為不明 ④放射痕	摩耗の為不明	にぶい橙色(7.5YR 7/4)	乳白色粒・赤褐色粒を含む	良	
98	9		土師器	高台付椀		78		③回転利用のナデ ④放射痕(ケズリ)	回転利用のナデ	㊥橙色(2.5YR 7/8) ㊦浅黄橙色(10YR 8/4)	乳白色粒・赤褐色粒を含む	良	
99	9		土師器	高台付椀		74		③回転利用のナデ(摩耗) ④放射痕(ケズリ)	回転利用のナデ(摩耗)	橙色(5YR 7/6)	透明光沢粒・赤褐色粒を含む		
100	9		土師器	高台付椀		66		③回転利用のナデ ④放射痕	摩耗の為不明	橙色(5YR 7/8) 橙色(5YR 6/8)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒を含む	良	
101	9		土師器	高台付椀		86		③摩耗の為不明 ④放射痕	摩耗の為不明	㊥浅黄橙色(7.5YR 8/6) ㊦橙色(5YR 7/8)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒を含む	良	
102	9		土師器	高台付椀		69		③摩耗の為不明 ④放射痕	摩耗の為不明	橙色(5YR 7/8)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・赤褐色粒を含む		
103	10		土師器	高台付椀		74		③摩耗の為不明 ④放射痕	摩耗の為不明	㊥橙色(5YR 7/6) ㊦橙色(5YR 7/6)	微細な白色粒・黒色粒・透明光沢粒を含む 1～4㎜大の赤褐色粒・乳白色粒を含む	良	

遺物No.	挿図	写真図版	種別	器種	法量			調整等		色調	胎土	焼成	備考
					口径	底径	器高	外面	内面				
104	10		土師器	高台付椀		68		③回転利用のナデ ④放射痕	回転利用のナデ	㊥橙色(5YR 7/6) ㊦橙色(5YR 7/6)	微細な白色粒・黒色粒・透明光沢粒を含む 1㎜大の白色粒・灰色粒を含む	良	
105	10		土師器	高台付椀		64		③摩耗の為不明 ④放射痕	摩耗の為不明	㊥橙色(7.5YR 7/6) ㊦橙色(5YR 6/8)	乳白色粒・赤褐色粒を含む	良	
106	10		土師器	高台付椀		80		③回転利用のナデ ④放射痕(ケズリ)	③回転利用のナデ ④ナデ	灰白色(10YR 8/2) 浅黄橙色(10YR 8/3)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒を含む	良	
107	10		土師器	高台付椀		86		③摩耗の為不明 ④放射痕(ケズリ)	摩耗の為不明	㊥黄橙色(7.5YR 7/8) ㊦浅黄橙色(7.5YR 8/4)	微粒～2.5㎜大の透明光沢粒・白色粒・赤褐色粒・雲母を含む	良	
108	10		土師器	高台付椀		82		③摩耗の為不明 ④放射痕	摩耗の為不明	㊥浅黄橙色(10YR 8/3) ㊦灰白色(5Y 8/1) 浅黄橙色(10YR 8/3)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒を含む	良	
109	10		土師器	高台付椀		76		③摩耗の為不明 ④放射痕(ケズリ)	摩耗の為不明	浅黄橙色(7.5YR 8/4)	乳白色粒を含む 赤褐色粒を少量含む	良	
110	10		土師器	高台付椀		72		③摩耗の為不明 ④放射痕		㊥浅黄橙色(7.5YR 8/3) ㊦浅黄橙色(7.5YR 8/3)	微細な透明光沢粒を含む 0.5～2㎜大の赤褐色粒を含む	良	
111	10		土師器	高台付椀		67		③摩耗の為不明 ④放射痕	ナデ(摩耗)	橙色(5YR 7/8)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・赤褐色粒を含む	良	
112	10		土師器	高台付椀		68		③回転利用のナデ ④放射痕	回転利用のナデ	浅黄橙色(7.5YR 8/6) 橙色(5YR 7/8)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒を含む	良	
113	10		土師器	高台付椀		73		③回転利用のナデ ④放射痕(ケズリ)	摩耗の為不明	橙色(5YR 7/6)	0.5㎜以下の透明光沢粒・白色粒・赤褐色粒を少量含む	良	
114	10		土師器	高台付椀		79		③摩耗の為不明 ④放射痕	摩耗の為不明	㊥にぶい黄橙色(10YR7/4) ㊦橙色(5YR 7/8)	1㎜大の透明光沢粒・白色粒・黒色粒・赤褐色粒を含む		
115	10		土師器	高台付椀		72		③摩耗の為不明 ④放射痕	摩耗の為不明	㊥浅黄橙色(7.5YR 8/4) 橙色(7.5YR 7/6) ㊦橙色(5YR 7/8)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒を含む	良	
116	10		土師器	高台付椀		72		③摩耗の為不明 ④放射痕	摩耗の為不明	橙色(2.5YR 6/8)	微粒～1㎜大の透明光沢粒・赤褐色粒を含む	良	穿孔?
117	10		土師器	高台付椀		84		③摩耗の為不明 ④放射痕(ケズリ)	摩耗の為不明	浅黄橙色(10YR 8/4)	微粒～1㎜大の白色粒・透明光沢粒・赤褐色粒を含む	良	

遺物No.	挿図	写真図版	種別	器種	法量			調整等		色調	胎土	焼成	備考
					口径	底径	器高	外面	内面				
118	11		土師器	高台付椀		76		③摩耗の為不明 ④放射痕(ケズリ)	回転利用のナデ	浅黄橙色(7.5YR 8/6) 黄橙色(7.5YR 8/8)	1～2㎜大の透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒を含む	良	
119	11		土師器	高台付椀		88		③摩耗の為不明 ④放射痕(ケズリ)	摩耗の為不明	浅黄橙色(7.5YR 8/4)	微粒～1㎜大の乳白色粒・赤褐色粒を含む		
120	11		土師器	高台付椀		64		③摩耗の為不明 ④放射痕	摩耗の為不明	黄橙色(7.5YR 8/6)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒を含む	良	
121	11		土師器	高台付椀		60		③摩耗の為不明 ④放射痕	摩耗の為不明	㊥浅黄橙色(7.5YR 8/3) ㊦浅黄橙色(7.5YR 8/3)	微細な白色粒・黒色粒・透明光沢粒を含む	良	
122	11		土師器	高台付椀		84		③摩耗の為不明 ④回転ヘラ切り後浅い放射痕	摩耗の為不明	浅黄橙色(10YR 8/3)	微粒～2㎜大の白色粒・透明光沢粒・黒色粒を含む		
123	11		土師器	高台付椀		68		③摩耗の為不明 ④放射痕(ケズリ)	摩耗の為不明	浅黄橙色(7.5YR 8/6) 橙色(7.5YR 7/6)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒を含む	良	
124	11		土師器	高台付椀		82		③摩耗の為不明 ④放射痕(ケズリ)	摩耗の為不明	浅黄橙色(7.5YR 8/6)	乳白色粒・赤褐色粒を少量含む		
125	11		土師器	高台付椀	135	74	54	①③摩耗の為不明 ④ナデ	ナデ	黄橙色(10YR 8/6) 浅黄橙色(10YR 8/3)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒・黒色粒を含む	良	
126	11		土師器	高台付椀		74		摩耗の為不明	摩耗の為不明	淡橙色(5YR 8/4) (底部)にぶい黄橙色(10YR 7/4)	1㎜大の透明光沢粒・白色粒・黒色粒・赤褐色粒・雲母を含む	良	底部に黒斑
127	11		土師器	高台付椀		77		回転利用のナデ ナデ	摩耗の為不明	にぶい橙色(10YR 7/3)	1㎜大の透明光沢粒・白色粒を含む 赤褐色粒・黒色粒を少量含む		
128	11		土師器	高台付椀		75		③摩耗の為不明 ④回転利用のナデ 摩耗の為不明	摩耗の為不明	浅黄橙色(10YR 8/4)	0.5㎜大の透明光沢粒・白色粒・赤褐色粒を含む	良	
129	11		土師器	高台付椀	139	65	49	摩耗の為不明	摩耗の為不明	浅黄橙色(7.5YR 8/6) ～橙色(7.5YR 7/6)	0.5㎜大の白色粒・透明光沢粒を含む	良	
130	11		土師器	高台付椀		82		摩耗の為不明	摩耗の為不明	浅黄橙色(7.5YR 8/6)	乳白色粒・赤褐色粒を含む	良	
131	11		土師器	高台付椀		70		摩耗の為不明	摩耗の為不明	浅黄橙色(10YR 8/4)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・赤褐色粒・雲母を含む	良	
132	11		土師器	高台付椀		76		ナデ ヘラ切り	ナデ	㊥浅黄橙色(7.5YR 8/3) ㊦浅黄橙色(7.5YR 8/3)	微細な赤褐色粒・白色粒・黒色粒・透明光沢粒を含む		

遺物No.	挿図	写真図版	種別	器種	法量			調整等		色調	胎土	焼成	備考
					口径	底径	器高	外面	内面				
133	11		土師器	高台付椀		57		③摩耗の為不明 ④ヘラ切り後ナデ	摩耗の為不明	㊥灰色(5YR 5/1) 浅黄橙色(7.5YR 8/3) ㊥浅黄橙色(10YR 8/3)	微細な白色粒・褐色粒・透明光沢粒を含む 1㎜大の褐色粒を含む	良	
134	11		土師器	高台付椀		80		③摩耗の為不明 ④	摩耗の為不明	浅黄橙色(7.5YR 8/6)	乳白色粒と雲母を含む	良	
135	12		土師器	大椀	175			回転利用のナデ	回転利用のナデ	㊥浅黄橙色(10YR 8/3) ㊥浅黄橙色(7.5YR 8/6)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒を含む	良	
136	12		土師器	大椀	192			回転利用のナデ	回転利用のナデ	橙色(7.5YR 7/6) 橙色(5YR 6/8)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒を含む	良	
137	12		土師器	大椀		107		③摩耗の為不明 ④ヘラ切り後ナデ	摩耗の為不明	橙色(5YR 7/6)	微粒～1㎜大の乳白色粒・透明光沢粒・黒色砂粒・雲母を含む	良	
138	12		土師器	大椀		110		③摩耗の為不明 回転利用のナデ圧痕あり ④摩耗の為不明	摩耗の為不明	にぶい橙色(5YR 7/4)	乳白色粒を含む 赤褐色粒を少量含む	良	
139	12	5	土師器	高台付皿	157	62	27	①③回転利用のナデ ④放射痕	摩耗の為不明	㊥橙色(5YR 7/8) 浅黄橙色(7.5YR 8/4) ㊥橙色(5YR 7/8)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒を含む	良	
140	12	5	土師器	高台付皿	143	59	38	①③摩耗の為不明 ④放射痕	摩耗の為不明	橙色(7.5YR 7/6)	微粒～2㎜大の白色粒・透明光沢粒・赤褐色粒・雲母を含む	良	
141	12		土師器	高台付皿	146	39	31	①③摩耗の為不明 ④放射痕(ケズリ)	①③摩耗の為不明 ④ナデ	橙色(5YR 7/8) 橙色(5YR 7/6)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・黒色粒・赤褐色粒を含む	良	
142	12		土師器	高台付皿	140	66	28	③摩耗の為不明 ④回転ヘラ切り後放射痕(ケズリ)	摩耗の為不明	橙色(2.5YR 7/8)	微粒～1㎜大の白色粒・透明光沢粒・赤褐色粒・黒色粒を含む	良	
143	12		土師器	高台付皿		72		③摩耗の為不明 ④放射痕	摩耗の為不明	浅黄橙色(7.5YR 8/4)	赤褐色粒を含む	良	
144	12		土師器	高台付皿		62		③回転利用のナデ ④放射痕	摩耗の為不明	橙色(5YR 7/6)	0.5㎜以下の透明光沢粒・白色粒・赤褐色粒を少量含む	良	
145	12		土師器	高台付皿		60		③摩耗の為不明 ④放射痕	摩耗の為不明	淡橙色(5YR 8/4)	微粒～1㎜大の乳白色粒・赤褐色粒を含む		
146	12		土師器	甕	168			①②回転利用のナデ ③ナデ	①②回転利用のナデ ③ケズリ	㊥にぶい橙色(10YR 6/4) ㊥にぶい橙色(5YR 7/4)	微粒～3㎜大の白色粒・透明光沢粒・黒色粒と雲母を含む		㊥スス付着
147	12		土師器	甕	172			摩耗の為不明	①②摩耗の為不明 ③ケズリ	橙色(7.5YR 6/6)	微粒～3㎜大の白色粒・透明光沢粒・黒色粒・赤褐色粒と雲母を含む		㊥スス付着

遺物No.	挿図	写真図版	種別	器種	法量			調整等		色調	胎土	焼成	備考
					口径	底径	器高	外面	内面				
148	13		土師器	甕	182			摩耗の為不明	①摩耗の為不明 ③ケズリ	橙色(5YR 6/8) 黄橙色(7.5YR 7/8)	1～2㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・黒色粒・赤褐色粒を含む	良	
149	13		土師器	甕	161			①②回転利用のナデ ③摩耗の為不明	①回転利用のナデ ③摩耗の為不明	にぶい橙色(5YR 6/4)	0.5㎜大の透明光沢粒・白色粒・黒色粒・赤褐色粒を含む	良	
150	13		土師器	甕	132			摩耗の為不明	摩耗の為不明	㊥灰白色(10YR 8/2) ㊦灰白色(10YR 8/2)	微細な透明光沢粒・0.5～2㎜大の褐色粒・灰白色粒・乳白色粒を含む	良	
151	13		土師器	甕	187			摩耗の為不明	摩耗の為不明	浅黄橙色(7.5YR 8/6)	1㎜以下の白色粒・透明光沢粒・黒色粒を含む	良	㊥スス付着
152	13		土師器	甕	163			摩耗の為不明	摩耗の為不明	浅黄橙色(10YR 8/3) 浅黄橙色(7.5YR 8/6)	1～2㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・黒色粒・赤褐色粒を含む	良	
153	13		土師器	甕	170			ナデ	ナデ(摩耗)	㊥浅黄橙色(7.5YR 8/6) ㊦浅黄橙色(7.5YR 8/6)	微細な黒色粒・透明光沢粒を含む 0.5～3㎜大の乳白色粒・灰色粒・褐色粒・黒色粒を含む	良	
154	13		土師器	甕	106			①回転利用のナデ ③摩耗の為不明	回転利用のナデ	橙色(5YR 6/6)	1～3㎜大の透明光沢粒・白色粒・黒色粒・雲母を少量含む	良	
155	13		土師器	甕	227			摩耗の為不明 工具痕あり	①摩耗の為不明 ③ケズリ	㊥にぶい橙色(7.5YR 7/4) ㊦浅黄橙色(7.5YR 8/3)	微粒～5㎜大の白色粒・透明光沢粒と赤褐色粒を含む	不良	
156	13		土師器	甕	230			①回転利用のナデ ③ナデ	①回転利用のナデ ③ケズリ	にぶい黄橙色(10YR 7/4)	微粒～2㎜大の透明光沢粒・白色粒・赤褐色粒・黒色粒と雲母を含む		
157	13		土師器	甕	217			①回転利用のナデ ③ナデ	①回転利用のナデ 工具痕あり ③ケズリ(摩耗)	浅黄色(2.5Y 7/3)	微粒～2㎜大の白色粒・透明光沢粒・黒色粒と雲母を含む		
158	13		土師器	甕	298			摩耗の為不明	①摩耗の為不明 ③ケズリ?	橙色(5YR 6/8)	微粒～4㎜大の透明光沢粒・白色粒・黒色粒と赤褐色粒を含む		㊥スス付着
159	14		土師器	甕	252			摩耗の為不明 ③ナデ(摩耗)	摩耗の為不明 ③ケズリ(摩耗)	にぶい橙色(7.5YR 7/4)	1～2㎜大の透明光沢粒・白色粒・黒色粒・赤褐色粒を含む	良	
160	14		土師器	甕	254			摩耗の為不明	①摩耗の為不明 ③ケズリ?	橙色(5YR 7/8 6/8) 浅黄橙色(7.5YR 8/6)	1～2㎜大の白色粒・透明光沢粒を多量に含む 雲母細片・黒色粒・赤褐色粒を含む	良	

遺物No.	挿図	写真図版	種別	器種	法量			調整等		色調	胎土	焼成	備考
					口径	底径	器高	外面	内面				
161	14		土師器	甕	230			摩耗の為不明	摩耗の為不明	にぶい黄橙色(10YR 7/3) 浅黄橙色(10YR 8/4) 灰黄褐色(10YR 6/2)	1~5mm大の小石を含む 白色粒・赤褐色粒・ 透明光沢粒を含む	良	
162	14		土師器	甕	240			ハク離の為不明	ハク離の為不明	浅黄橙色(10YR 8/4) 橙色(5YR 6/8)	1~2mm大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒・黒色粒を含む	良	
163	14	6	土師器	甕	238			摩耗の為不明	摩耗の為不明	㊥浅黄橙色(7.5YR 8/6) ~橙色(2.5YR 6/6) ㊥浅黄橙色(7.5YR 8/6) ~橙色(5YR 7/8)	1~2mm大の白色粒・透明光沢粒を多量に含む 黒色粒・赤褐色粒を含む	良	
164	15		土師器	甕	248			摩耗の為不明	摩耗の為不明	橙色(5YR 7/6)	0.5~1mm大の透明光沢粒・白色粒を含む 黒色粒・赤褐色粒を少量含む	良	
165	15		土師器	甕	235			摩耗の為不明	摩耗の為不明	橙色(5YR 7/8)	1~2mm大の透明光沢粒・白色粒を含む 黒色粒を少量含む	良	
166	15		土師器	甕	276			摩耗の為不明	①摩耗の為不明 ③ケズリ	橙色(5YR 6/8) 橙色(5YR 7/8)	1~2mm大の白色粒・透明光沢粒を多量に含む 雲母細片・黒色粒・赤褐色粒を含む	良	
167	15	6	土師器	甕	267			摩耗の為不明 ①稜が入る	摩耗の為不明	黄橙色(7.5YR 7/8) 橙色(7.5YR 6/8) 橙色(5YR 7/8)	1~2mm大の白色粒・透明光沢粒を多量に含む 雲母細片・黒色粒・赤褐色粒を含む	良	
168	15		土師器	甕	242			①回転利用のナデ 指頭圧痕あり ③ナデ	①回転利用のナデ ③ケズリ(摩耗)	にぶい褐色(7.5YR 5/4)	1~2mmの透明光沢粒・白色粒を含む 黒色粒を少量含む	良	
169	15		土師器	甕	274			摩耗・剥離の為不明	摩耗・剥離の為不明	橙色(5YR 7/6)	1~2mm大の白色粒・透明光沢粒を含む 赤褐色粒を含む	良	
170	15		土師器	甕				摩耗の為不明(ナデ?)	摩耗の為不明(ナデ)	㊥浅黄橙色(7.5YR 8/4) ㊥橙色(5YR 7/6)	微細な白色粒・黒色粒・透明光沢粒を含む 0.5~3mm大の褐色粒・赤褐色粒・灰色粒・透明光沢粒を含む	良	
171	16		土師器	甕	220			摩耗の為不明	①摩耗の為不明 ③ケズリ	㊥淡橙色(5YR 8/3) ㊥橙色(2.5YR 7/6)	1~6mm大の赤褐色粒・0.5~3mm大の黒色粒・灰色粒・0.5mm大の黒色粒・透明光沢粒を含む	良	
172	16	6	土師器	甑	254	184	260	①ナデ(指頭圧痕あり) ③ハケ目後ナデ 剥離・摩耗の為不明	①ハケ目 ③ケズリ 剥離・摩耗の為不明	㊥にぶい橙色(7.5YR) ~橙色(5YR 7/6) ㊥橙色(5YR 7/6) ~赤褐色(5YR 4/6)	1mm大の白色粒・透明光沢粒・黒色粒を含む 赤褐色粒を含む	良	
173	16		土師器	甑				摩耗の為不明	摩耗の為不明	橙色(7.5YR 6/8) 橙色(5YR 6/8)	1~2mm大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・黒色粒・赤褐色粒を含む	良	

遺物No.	挿図	写真図版	種別	器種	法量			調整等		色調	胎土	焼成	備考
					口径	底径	器高	外面	内面				
174	16		土師器	甑		210		摩耗の為不明	摩耗の為不明	橙色(5YR 7/8)	微粒～4㎜大の赤褐色粒・透明光沢粒・白色粒と黒色粒を含む	良	
175	16		土師器	甑		214		タテ方向のハケ目	ナデ(摩耗)	㊥橙色(2.5YR 6/8) ㊦橙色(5YR 7/6)	微粒～2㎜大の白色粒・透明光沢粒・黒色粒・赤褐色粒と雲母を含む	良	
176	16		土師器	甑		160	67	摩耗の為不明	摩耗の為不明 ケズリ	浅黄橙色(7.5YR 8/6) 黄橙色(7.5YR 8/8)	1～2㎜大の白色粒・透明光沢粒を多量に含む雲母細片・黒色粒・赤褐色粒を含む	良	
177	16	6	土師器	甑?			71	ナデ	摩耗の為不明	㊥黄橙色(7.5YR 7/8) ㊦橙色(5YR 6/8)	1～2㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒・黒色粒を含む	良	
178	16	6	土師器	甑?				ナデ(指圧痕あり)	ナデ	橙色(5YR 6/8)	微粒～3㎜大の白色粒・透明光沢粒・黒色粒と赤褐色粒を含む		
179	17	6	土師器	羽釜?				摩耗の為不明	摩耗の為不明	灰色(5Y 6/1) 灰白色(2.5YR 8/1) 浅黄橙色(7.5YR 8/4)	1～3㎜大の白色粒・透明光沢粒を多量に含む雲母細片・黒色粒を含む	良	
180	17	6	土師器	羽釜?				摩耗の為不明	ナデ	浅黄橙色(7.5YR 8/6)	0.5～1㎜大の白色粒・透明光沢粒を含む赤褐色粒・黒色粒を少量含む	良	
181	17		土師器	高杯?				摩耗の為不明	摩耗の為不明	橙色(5YR 7/6)	乳白色粒・赤褐色粒を含む	やや不良	
182	17		土師器	高杯?				摩耗の為不明	摩耗の為不明	橙色(2.5YR 6/6)	0.5㎜以下の乳白色粒・赤褐色粒・黒色粒を含む	良	
183	17	6	土師器	高杯?		110		③摩耗の為不明 ④ナデ　放射痕	摩耗の為不明	浅黄橙色(7.5YR 8/4)	乳白色粒・黒色粒・赤褐色粒を含む	良	
187	17		黒色土器	杯		56		摩耗の為不明	摩耗の為不明	㊥淡橙色(5YR 8/4) ㊦褐灰色(7.5YR 5/1)	1～3㎜大の灰色粒・白色粒・1㎜大の乳白色粒・黒色粒・微細な透明光沢粒を含む	良	内黒
188	17		黒色土器	高台付椀	144	69		①③回転利用のナデ ④放射痕(ケズリ)	ミガキ	浅黄橙色(7.5YR 8/4) 黄灰色(2.5Y 4/1) 黒褐色(2.5Y 3/1)	1㎜大の乳白色粒・黒色粒・透明光沢粒・赤褐色粒を含む	良	内黒
189	17		黒色土器	高台付椀		77		③回転利用のナデ(摩耗) ④ヘラ切り後放射痕	ミガキ(摩耗)	㊥にぶい黄橙色(2.5Y 6/3) ㊦黒褐色(10YR 3/1)	微粒～1㎜大の白色粒・黒色粒と雲母を含む		内黒
190	17		黒色土器	高台付椀		73		③摩耗の為不明 ④放射痕(ケズリ)	ナデ(摩耗)	㊥にぶい橙色(7.5YR 7/4) ㊦黒色(5Y 2/1)	0.5㎜大の白色粒・透明光沢粒を含む赤褐色粒を少量含む	良	内黒

遺物No.	挿図	写真図版	種別	器種	法量			調整等		色調	胎土	焼成	備考
					口径	底径	器高	外面	内面				
191	17		黒色土器	高台付椀		73		摩耗の為不明	摩耗の為不明 ④ナデ	㊥橙色(5YR 7/8) にぶい黄橙色(10YR 7/4) ㊦黒色(2.5Y 2/1)	1～2㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒・黒色粒を含む	良	内黒
192	17		黒色土器	高台付椀		80		③摩耗の為不明 ④放射痕	摩耗の為不明	㊥橙色(5YR 7/6) ㊦黒褐色(2.5Y 3/1)	0.5～1㎜大の透明光沢粒・白色粒を含む黒色粒・赤褐色粒を少量含む	良	内黒
193	17		黒色土器	高台付椀		78		摩耗の為不明	ミガキ(摩耗)	浅黄橙色(7.5YR 8/4) 橙色(7.5YR 7/6) 褐灰色(10YR 5/1)	0.5～1.5㎜大の乳白色粒を含む 赤褐色粒を含む	良	内黒
194	17		黒色土器	高台付椀				摩耗の為不明	摩耗の為不明	㊥にぶい橙色(7.5YR 7/4) ㊦黒色(2.5Y 2/1)	乳白色粒・雲母・赤褐色粒を少量含む	良	内黒
195	17		黒色土器	高台付椀		74		摩耗の為不明	摩耗の為不明	㊥にぶい黄橙色(10YR 7/3) ㊦オリーブ黒色(5Y 3/1)	乳白色粒を含む	良	内黒
196	17		黒色土器	高台付椀		79		摩耗の為不明	摩耗の為不明	㊥橙色(5YR 6/8) ㊦黄灰色(2.5Y 4/1)	乳白色粒を含む	良	内黒 穿孔?
197	17		黒色土器	大椀		92		摩耗の為不明	摩耗の為不明	㊥橙色(5YR 7/6) ㊦黒褐色(2.5Y 3/1)	乳白色粒・雲母を含む	良	内黒
198	17		黒色土器	大椀		102		摩耗の為不明	摩耗の為不明	㊥橙色(5YR 7/8) ㊦オリーブ黒色(5Y 3/1)	0.5㎜以下の透明光沢粒・白色粒を含む雲母・黒色粒を少量含む	良	内黒
199	18	6	黒色土器	高台付皿	162	70	32	①③回転利用のナデ ④放射痕(ケズリ)	ミガキ(摩耗の為不明)	㊥浅黄橙色(7.5YR 8/6) 灰白色(10YR 7/1) 黒色(5Y 2/1) ㊦黒色(5Y 2/1)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒を含む	良	内黒
200	18		布痕土器	布痕				ナデ(指頭痕あり)	布目痕	㊥橙色(7.5YR 7/6) ㊦橙色(2.5YR 7/6)	微細な白色粒・黒色粒・透明光沢粒を含む 0.5～2㎜大の灰色粒・褐色粒を含む	良	
201	18		布痕土器	布痕				ナデ(指頭痕あり)	布目痕(摩耗)	㊥橙色(5YR 7/6) ㊦橙色(5YR 7/6)	微細な白色粒・黒色粒・透明光沢粒を含む 1.5～2㎜大の褐色粒・乳白色粒を含む	良	
202	18		布痕土器	布痕				ナデ(指頭痕あり)	布目痕	㊥橙色(7.5YR 7/6) 黄灰色(2.5Y 6/1) ㊦橙色(7.5YR 7/6)	微細な白色粒・透明光沢粒を含む	良	
203	18		布痕土器	布痕				ナデ	布目痕	㊥橙色(2.5YR 6/6) ㊦橙色(2.5YR 6/6)	微細な白色粒・黒色粒・褐色粒を含む 0.5～5㎜大の灰色粒・褐色粒・赤褐色粒を含む	良	
204	18		布痕土器	布痕				ナデ	布目痕	㊥橙色(2.5YR 6/6) ㊦橙色(2.5YR 6/6)	1～6㎜大の黒褐色粒・0.5～5㎜大の赤褐色粒を含む	良	
205	18		布痕土器	布痕				ナデ	布目痕		微細な白色粒・黒色粒・乳白色粒・褐色粒を含む	良	

遺物No.	挿図	写真図版	種別	器種	法量			調整等		色調	胎土	焼成	備考
					口径	底径	器高	外面	内面				
206	18		布痕土器	布痕	200		55	ナデ(指頭痕あり)	布目痕	㊥明黄褐色(2.5Y 6/6) ㊦明黄褐色(2.5Y 6/6)	0.5㎜以下の透明光沢粒・白色粒・雲母・灰白色粒を含む	良	
207	18		布痕土器	布痕				ナデ(指頭痕あり)	布目痕	㊥橙色(5Y 7/8) ㊦橙色(5YR 7/6)	微細な白色粒・黒色粒・透明光沢粒を含む 0.5～2㎜大の乳白色粒・黒灰色粒・赤褐色粒を含む	良	
208	18		布痕土器	布痕				ナデ(指頭痕あり)	布目痕	㊥橙色(2.5YR 6/6) ㊦にぶい橙色(7.5YR 7/4)	微細な白色粒・黒色粒・透明光沢粒を含む	良	
209	18		布痕土器	布痕	114			摩耗の為不明	摩耗の為不明	橙色(5YR 7/8)	微粒～1.5㎜大の赤褐色粒を含む		
210	18		布痕土器	布痕	124			摩耗の為不明	摩耗の為不明	にぶい橙色(7.5YR 6/4)	1～5㎜大の白色粒・透明光沢粒・黒色粒・赤褐色粒を含む	良	
211	18		布痕土器	布痕	133			ナデ	ナデ (一部布目痕)	にぶい橙色(7.5YR 6/4) 橙色(5YR 7/6)	1～3㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・黒色粒・赤褐色粒を含む	良	
212	18		布痕土器	布痕	109			ナデ	布痕 (指頭痕あり)	橙色(5YR 7/8)	微粒～1.5㎜大の赤褐色粒・白色粒と雲母を含む		
213	18		布痕土器	布痕				摩耗の為不明 (指頭痕あり)	摩耗の為不明 (指頭痕あり)	橙色(5YR 7/6)	微粒～5㎜大の透明光沢粒・赤褐色粒を含む	良	
214	18		布痕土器	布痕				摩耗の為不明 (指頭痕・工具痕あり)	摩耗の為不明	橙色(2.5YR 6/8)	微粒～1㎜大の乳白色粒・赤褐色粒を含む		
215	18	7	布痕土器	布痕	109		80	摩耗の為不明	布目痕	橙色(5YR 7/8)	1～2㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・黒色粒・赤褐色粒を含む	良	
216	18	7	布痕土器	布痕	107		88	摩耗の為不明	摩耗の為不明 (布目痕)	明赤褐色(2.5YR 5/8)	1～2㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・赤褐色粒を含む	良	
217	19		須恵器	杯	126			ヨコナデ	ヨコナデ	㊥灰白色(7.5Y 7/1) ㊦灰白色(7.5Y 7/1)		良	
218	19		須恵器	杯		56		③ヨコナデ ④ヘラ切り	③ヨコナデ ④ナデ	灰色(N 61)	微粒～1㎜大の透明光沢粒・赤褐色粒・雲母を含む	良	
219	19		須恵器	杯		62		③ヨコナデ ④不明	③ヨコナデ ④ナデ	灰色(N 61)	乳白色粒を含む	良	
220	19		須恵器	杯		70		③ヨコナデ ヘラケズリ ④ヘラ切り後ナデ	ヨコナデ	灰白色(N 7/)	乳白色粒を少量含む	良	㊥ヘラ記号か?

遺物No.	挿図	写真図版	種別	器種	法量			調整等		色調	胎土	焼成	備考
					口径	底径	器高	外面	内面				
221	19	7	須恵器	高台付椀		68		③ヨコナデ ④摩耗の為不明 放射痕(ケズリ)	③ヨコナデ ④ヨコナデ後ナデ	灰白色(N 7/)	1㎜大の透明光沢粒・白色粒と雲母を含む	やや良	
222	19	7	須恵器	高台付椀	131	75	55	摩耗の為不明	摩耗の為不明	灰白色(7.5Y 8/1) 黄灰色(2.5Y 6/1)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・黒色粒を含む	やや不良	
223	19	7	須恵器	高台付椀	141	70	55	①ヨコナデ ③ヘラ切り後ナデ ④ヘラ切り後ナデ	①③ヨコナデ ④ナデ	灰白色(2.5Y 8/1) 灰白色(2.5Y 7/1)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・黒色粒を含む	やや不良	穿孔?
224	19		須恵器	高台付椀		72		③摩耗の為不明 ④ヘラ切り後ナデ	摩耗の為不明	㊥灰黄色(2.5Y 7/2) ㊦灰白色(2.5Y 7/1)	1㎜大の乳白色粒・透明光沢粒・黒色粒と雲母を含む	やや不良	㊥スス付着
225	19		須恵器	高台付椀		70		③回転利用のナデ ④ヘラ切り後ナデ	③回転利用のナデ ④ナデ	灰白色(5Y 7/1)	乳白色粒を少量含む	良	
226	19		須恵器	高台付椀		80		③ヨコナデ ④回転ヘラ切り	ナデ	灰白色(2.5Y 8/1)	乳白色粒を含む	良	
227	19		須恵器	高台付椀		66		③ヨコナデ ④ヘラ切り後ナデ	③ヨコナデ ④ナデ	灰色(N 6/)	乳白色粒を含む	良	
228	19		須恵器	高台付椀		69		③ヨコナデ ④回転ヘラ切り	③ヨコナデ	灰白色(5Y 7/1) 灰色(5Y 6/1)	1～2㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・黒色粒を含む	良	
229	19		須恵器	高台付椀		66		③ヨコナデ ④ケズリ後ヨコナデ	ヨコナデ	灰色(N 6/)	乳白色粒をほとんど含まない	良	
230	19	7	須恵器	大椀	173	76	66	①③ヨコナデ ④回転ヘラ切離し後未調整	①③ヨコナデ ④ヨコナデ後ナデ	灰白色(N 7/) 灰白色(7.5Y 7/1)	乳白色粒・雲母細片を含む	良	
231	19		須恵器	大椀	170			ヨコナデ	ヨコナデ	㊥灰白色(N 7/) ㊦灰白色(N 7/)		良	
232	19		須恵器	大椀	168			ヨコナデ	ヨコナデ	㊥灰色(N 5/) ㊦灰色(N 5/)	微細な白色粒・黒色粒・透明光沢粒を含む	良	
233	20	7	須恵器	壺?	322			①上部はヨコナデ 下部は格子目 タタキをナデ消し 波状紋	①ヨコナデ	㊥褐灰色(10YR 6/1) ㊦灰色(7.5Y 5/1)	微粒の透明光沢粒と雲母を含む		
234	20		須恵器	壺?	313			①ヨコナデ ②タタキ後ナデ ナデ	①ヨコナデ ②ナデ (指頭圧痕)	灰白色(2.5Y 7/1) 灰白色(2.5Y 8/1)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・黒色粒を含む	良	
235	20		須恵器	壺				①ヨコナデ ②格子目タタキ後ヨコナデ	①ヨコナデ ②ナデ (指頭痕)	灰色(7.5Y 6/1)	乳白色粒を含む	良	
236	20		須恵器	壺	110			ヨコナデ	ヨコナデ	㊥灰オリーブ色(7.5Y 4/2) ㊦灰色(N 6/)	乳白色粒を含む	良	自然釉

遺物No.	挿図	写真図版	種別	器種	法量			調整等		色調	胎土	焼成	備考
					口径	底径	器高	外面	内面				
237	20		須恵器	壺				ヨコナデ	ヨコナデ	灰色(N 6/)	乳白色粒をわずかに含む	良	自然釉
238	20		須恵器	壺	103			ヨコナデ	ヨコナデ	灰色(N 6/)	乳白色粒・雲母細片・黒色粒を少量含む	良	
239	20		須恵器	壺	156			ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色(N 7/)	乳白色粒を少量含む	良	
240	20		須恵器	壺	100			ヨコナデ	ヨコナデ	㊥緑灰色(5G 6/1) ㊦明青灰色(5BG 7/1)	0.1㎜以下白色粒を少量含む 0.1㎜以下の黒雲母を含む	良	
241	20		須恵器	壺				タタキ後ナデ	ヨコナデ	灰色(N 6/)	乳白色粒を少量含む	良	取手
242	20		須恵器	壺				ヨコナデ	ヨコナデ	㊥灰白色(N 7/) ㊦灰白色(2.5GY 8/1)	1～2㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・黒色粒を含む	良	
243	20		須恵器	壺				ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色(N 7/)	乳白色粒をほとんど含まない	良	
244	20		須恵器	壺				ヨコナデ	ヨコナデ	㊥灰白色(N 5/ N 4/) ㊦灰白色(N 7/) 灰色(N 6/)	1～2㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・黒色粒を含む	良	
245	20		須恵器	壺				タタキ後ヨコナデ	ヨコナデ	㊥灰色(N 5/) ㊦灰色(N 4/)	乳白色粒を含む		
246	20	7	須恵器	壺				②ヨコナデ ③ヘラケズリ	ヨコナデ	㊥灰褐色(5YR 4/2) にぶい赤褐色(5YR 4/3) ㊦灰色(N 6/ N 5/)	乳白色粒・雲母細片を含む	良	
247	21		須恵器	壺				ヨコナデ	ヨコナデ	灰色(N 6/)	0.5㎜大の透明光沢粒・白色粒を少量含む	良	
248	21		須恵器	壺				ヨコナデ	ヨコナデ	灰色(N 6/)	乳白色粒を含む	良	
249	21		須恵器	壺				③ヨコナデ ④ケズリ	ヨコナデ	㊥灰色(5Y 6/1) ㊦灰色(N 6/)	乳白色粒と黒褐色粒を含む	良	
250	21		須恵器	壺				カキ目	ヨコナデ	㊥明緑灰色(5G 7/1) ㊦青灰色(10BG 5/1)	1～2㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・黒色粒を含む	良	
251	21		須恵器	壺				タタキ後カキ目	ヨコナデ	㊥灰白色(N 7/) にぶい黄橙色(10YR 7/2) ㊦灰色(N 6/)	1～2㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・黒色粒を含む	良	
252	21		須恵器	壺		106		③ヘラケズリ タタキの痕跡 ④ヘラ切り離し後ナデ	ヨコナデ	㊥灰白色(N 7/) ㊦灰色(N 6/)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片を含む	良	
253	21		須恵器	壺		129		③ヨコナデ ④ヘラ切り離し	ヨコナデ	㊥灰色(N 6/ 5/) 灰黄色(2.5Y 6/2) ㊦灰色(N 6/)	1～2㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・黒色粒を含む	良	自然釉

遺物No.	挿図	写真図版	種別	器種	法量			調整等		色調	胎土	焼成	備考
					口径	底径	器高	外面	内面				
254	21		須恵器	壺		123		③ヨコナデ ④ヘラ切り離し	ヨコナデ	㊥暗赤褐色(2.5YR 3/2) 灰色(N 6/) ㊥灰色(N 5/)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片を含む	良	
255	21	8	須恵器	壺				③タタキ(格子目) ④ナデ	ナデ (工具痕あり)	㊥灰色(5Y 6/1) ㊥灰色(N 5/)	乳白色粒と雲母を含む	良	自然釉付着
256	21	8	須恵器	壺		96		③格子目タタキ後ヨコナデ ④ナデ	③ヨコナデ	灰白色(2.5Y 7/1)	乳白色粒を少量含む	良	
257	21		須恵器	壺		127		ヘラケズリ	ヨコナデ	灰色(N 6/)	乳白色粒を含む	良	
258	21		須恵器	壺?	127			ヨコナデ	ヨコナデ	灰色(N 6/)	乳白色粒をわずかに含む	良	
259	22		須恵器	甕				①ヨコナデ ②タタキ(格子目)	①ヨコナデ ②当具痕	灰白色(2.5Y 7/)	乳白色粒をわずかに含む	やや良	
260	22		須恵器	甕	150			①ヨコナデ ②タタキ(格子目)	①ヨコナデ ②当具痕	灰色(N 6/)	乳白色粒・雲母を含む	良	
261	22	8	須恵器	甕	200			①格子目タタキ後ヨコナデ ②タタキ(格子目)	①ヨコナデ ②当具痕	灰白色(5Y 8/1)	微粒～1㎜大の乳白色粒・黒色粒を含む	やや不良	
262	22		須恵器	甕	231			①タタキ後ヨコナデ ②タテ方向平行タタキ	①ヨコナデ ②当具痕	灰色(10Y 6/1)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片を含む	良	
263	22		須恵器	甕				①格子目タタキ後ヨコナデ ②格子目タタキ	①ヨコナデ ②ナデ	灰白色(2.5Y 8/2)	乳白色粒を少量含む	やや不良	
264	22		須恵器	甕				摩耗の為不明 タタキ(格子目)	摩耗の為不明	灰白色(5Y 7/1)	微粒～1㎜大の透明光沢粒・黒褐色粒と雲母を含む	やや不良	
265	22		須恵器	甕				タテ方向の平行タタキ後ヨコナデ	ヨコナデ 同心円当具痕	㊥灰白色(2.5GY 8/1) ㊥灰色(N 5/)	1㎜大の乳白色粒・雲母細片・黒色粒を少量含む	良	
266	22		須恵器	甕				②タタキ(格子目)後ヨコナデ ③格子目タタキ	②ヨコナデ ③当具痕	黄灰色(2.5Y 6/1)	乳白色粒を含む	やや良	
267	23		須恵器	甕				②タタキ(格子目)後ヨコナデ ③タタキ(格子目)	②ヨコナデ ③当具痕	灰白色(N 7/)	乳白色粒・雲母細片を含む	良	
268	23		須恵器	甕				タテ方向のタタキ	当具痕	㊥灰白色(7.5Y 7/1) ㊥黒褐色(2.5Y 3/1)	乳白色粒を含む	良	
269	23		須恵器	甕				斜方向のタタキ	当具痕	灰色(N 6/)	0.5～2㎜大の透明光沢粒・白色粒を含む	良	
270	23	8	須恵器	甕				タタキ	平行タタキ	灰白色(2.5Y 8/2)	1㎜大の灰色粒・雲母を含む	やや不良	

遺物No.	挿図	写真図版	種別	器種	法量			調整等		色調	胎土	焼成	備考
					口径	底径	器高	外面	内面				
271	23		須恵器	甕				タタキ(格子目)	ナデ (工具痕有り)	灰白色(N 7/) 灰色(5Y 6/)	乳白色粒・雲母細片を含む	やや不良	
272	23		須恵器	甕				タタキ後ナデ	当具痕	褐灰色(10YR 5/1)	乳白色粒を含む	良	
273	24	8	須恵器	甕				タタキ(格子目)	タタキ	灰色(N 5/)	乳白色粒を含む	良	
274	24	8	須恵器	鉢	239	143	118	①③格子目タタキ後ヨコナデ ④ナデ	①③ヨコナデ ④ナデ	灰白色(5Y 7/1) 灰色(N 6/)	1～2㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・黒色粒を含む	良	
275	24		須恵器	鉢				ヨコナデ	ヨコナデ	青灰色(10BG 6/1)	0.1㎜以下の透明光沢粒をごく少量含む 0.5㎜以下の白色粒・黒雲母を含む	良	
276	24		土師器	杯・椀		56		摩耗の為不明	摩耗の為不明	灰白色(7.5Y 8/1) 灰白色(N 7/)	1㎜大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片・黒色粒を含む	やや不良	
277	24		その他	杯				③摩耗の為不明 ④回転ヘラ切り	摩耗の為不明	㊥灰白色(7.5Y 7/1) ㊦灰白色(7.5Y 7/1)	微細な白色粒・褐色粒を含む	やや不良	
278	24		その他	杯		69		摩耗の為不明	摩耗の為不明	灰白色(2.5Y 7/1) ～灰色(N 4/)	乳白色粒をほとんど含まない	やや不良	
279	24		その他	杯		74		摩耗の為不明	摩耗の為不明	㊥明赤灰色(2.5YR 7/1) ～緑灰色(5G 6/1) ㊦明赤灰色(2.5YR 7/1)	0.5㎜以下の透明光沢粒・白色粒・黒雲母を含む	やや軟	
280	24		その他	高台付椀	144	64	61	①回転利用のナデ ③摩耗の為不明 ④放射痕	①③回転利用のナデ ④摩耗の為不明	灰白色(N 8/) ～暗灰色(N 3/)	乳白色粒を含む	やや不良	
281	24		その他	高台付椀	158			回転利用のナデ (黒斑)	回転利用のナデ(黒斑)	灰白色(2.5Y 7/1))	乳白色粒を含む	やや不良	
282	24		その他	高台付椀		62		③摩耗の為不明 ④回転利用のナデ 放射痕(ケズリ)	摩耗の為不明	灰白色(5Y 7/1)	乳白色粒を含む	やや不良	
283	24		その他	高台付椀		69		摩耗の為不明	摩耗の為不明	灰色(N 4/)	乳白色粒を含む	やや不良	
284	24		その他	高台付椀		68		摩耗の為不明(ナデ)	摩耗の為不明 (ナデ)	㊥灰色(N 5/) ㊦灰色(N 6/)	微細な白色粒・黒色粒・透明光沢粒を含む	やや不良	
285	24		その他	高台付椀		69		回転利用のナデ 放射痕(ケズリ)	回転利用のナデ ナデ	灰白色(5Y 8/1) 暗灰色(N 3/)	乳白色粒を少量含む	やや不良	
286	24		その他	高台付椀		64		③回転利用のナデ ④放射痕(ケズリ)	回転利用のナデ	㊥暗灰色(N 3/) ㊦灰白色(7.5YR 8/1)	乳白色粒を少量含む	やや不良	
287	25	9	緑釉陶器	椀	138			①③ヨコナデ	①ヨコナデ ③沈線	灰色(Hue N 6/0) 灰白色(Hue 10Y 7/2)	1㎜弱の白色粒を極小含む	良	

遺物No.	挿図	写真図版	種別	器種	法量			調整等		色調	胎土	焼成	備考
					口径	底径	器高	外面	内面				
288	25		緑釉陶器	皿	140	76	32	①③ヨコナデ	①③ヨコナデ ④摩耗の為不明	明褐灰色 (7.5YR 7/1～7/2)	0.1㎜以下の白色粒・黒雲母をごく少量含む	良	
289	25	9	緑釉陶器	皿	140	72	30	①③ヨコナデ 摩耗	①③ヨコナデ ④摩耗の為不明	灰オリーブ色(5Y 6/2) 浅黄～ 浅黄色(5Y 7/4～8/3)	0.5㎜以下の透明光沢粒・白色粒・赤色粒を含む	やや不良	
290	25	9	緑釉陶器	皿	148			施釉	施釉	(胎土)灰色(N 6/) (釉)オリーブ灰色(10Y 5/2)	乳白色粒をわずかに含む	やや不良	
291	25		緑釉陶器	皿		68		施釉(剥離)	施釉(剥離)	(胎土)灰白色(2.5Y 8/2) (釉)オリーブ黄色(7.5Y 6/3)	乳白色粒を含む	良	
292	25	9	灰釉陶器	皿		78		③施釉 ④無釉 ケズリ?	施釉	(胎土)灰白色(N 7/) (釉)オリーブ灰色(2.5GY 6/1)	乳白色粒をわずかに含む	良	
293	25	9	灰釉陶器	皿		76		③施釉 ④無釉 ケズリ?	施釉	(胎土)灰白色(N 8/) (釉)オリーブ灰色(2.5GY 6/1)	乳白色粒をわずかに含む	良	
294	25		灰釉陶器	皿		62		③ヨコナデ ④ケズリ? 無釉	ヨコナデ 有段	灰白色(2.5Y 8/1)	乳白色粒をわずかに含む	良	
295	25		灰釉陶器	皿		67		③施釉 ④ケズリ? 無釉	③施釉	(胎土)灰白色(N 7/) (釉)灰オリーブ色(5Y 6/2)	乳白色粒をわずかに含む	良	
296	25	9	青磁	椀		82		③施釉 ④ケズリ 無釉	施釉 目跡	(胎土)淡赤橙色 (Hue2.5YR 7/3) (釉)浅黄色 (Hue5Y 7/3)	乳白色粒をわずかに含む	やや不良	
297	25	9	青磁	椀		67		④畳付は無釉 目跡	目跡	緑灰色(10GY 6/1)	0.1㎜以下の白色粒・黒雲母を含む	良	

遺物No.	挿図	写真図版	種別	器種	法量			調整等		色調	胎土	焼成	備考
					最大長	最大幅	重量	外面	内面				
184	17		土師器	脚		34 30(厚)		ナデ		灰白色(2.5Y 7/1) 灰オリーブ色(5Y 6/2)	1～2㎜大の白色粒・透明光沢粒・黒色粒・雲母細片を含む	良	
185	17		土師器	脚		32		ナデ		㊥灰白色(10YR 8/1)	微細な黒色粒・透明光沢粒・0.5～2㎜大の透明光沢粒・乳白色粒・灰色粒を含む	良	
186	17		土師器	脚		33		ナデ 指頭痕		にぶい橙色(7.5YR 7/4) ～浅黄橙色(7.5YR 8/4)	粗・2㎜以下の透明光沢粒・白色粒・黒雲母を多く含む	やや軟	
298	25		土製品	土錘	38	10	2.4	ナデ		浅黄橙色(10YR 8/3)	微細な透明光沢粒・乳白色粒を含む	良	
299	25		土製品	土錘	40	12	4.6	ナデ		㊥浅黄橙色 (7.5YR 8/4) ㊥浅黄橙色 (7.5YR 8/4)	微細な白色粒・乳白色粒・透明光沢粒を含む	良	
300	25		土製品	土錘	35	14	5.6	ナデ		㊥浅黄橙色 (10YR 8/3)	微細な白色粒・黒色粒・透明光沢粒・0.5～3㎜大の灰色粒・黒色粒・褐色粒を含む	良	
301	25		土製品	土錘	46	15	5.8	ナデ		㊥浅黄橙色 (10YR 8/3)	微細な透明光沢粒を含む	良	
302		8	土師器	不明	96	21(上) 60(下)		ナデ	ナデ	㊥浅黄橙色 (7.5YR 8/3) ㊥橙色(5YR 7/6)	微細な赤褐色粒・白色粒・黒色粒・透明光沢粒・0.5～2㎜大の白色粒・半透明粒・灰白色粒を含む	良	
303		8	土製品	カマド		36(横) 37(縦)		指頭痕		浅黄色(2.5Y 7/4)	2㎜以下の透明光沢粒・白色粒を多く含む 2㎜以下の黒雲母を多く含む 1㎜以下の赤色粒を多く含む	良	

Ⅲ　分析

第１節　三生江遺跡における植物珪酸体分析

株式会社 古環境研究所

1　はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸（SiO２）が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山，1987）。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である（藤原・杉山，1984）。

2　試料

分析試料は、９世紀中頃から10世紀初頭とされる遺物包含層から採取された①～④の４点である。

3　分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法（藤原，1976）をもとに、次の手順で行った。

1）試料を105℃で24時間乾燥（絶乾）

2）試料約１gに対して直径約40μmのガラスビーズを約0.02g添加
（電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量）

3）電気炉灰化法（550℃・６時間）による脱有機物処理

4）超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散

5）沈底法による20μm以下の微粒子除去

6）封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成

7）検鏡・計数。

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート１枚分の精査に相当する。試料１gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料１g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体１個あたりの植物体乾重、単位：10－５g）をかけて、単位面積で層厚１cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ（赤米）の換算係数は2.94、ススキ属（ススキ）は1.24、ネザサ節は0.48である。

4　分析結果

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表２および第26図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

〔イネ科〕

イネ、キビ族型、ススキ属型（ススキ属など）、ウシクサ族型

〔イネ科－タケ亜科〕

ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、未分類等

〔イネ科－その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、未分類等

〔樹木〕

ブナ科（シイ属）、ブナ科（アカガシ亜属？）、クスノキ科、マンサク科（イスノキ属）、その他

5　考察

（1）稲作跡の検討

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体（プラント・オパール）が試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している。この判断基準にもとづいて稲作の可能性について検討を行った。

9世紀中頃から10世紀初頭とされる遺物包含層（試料③、④）、および同包含層から出土した土師器内の土壌（試料①、②）について分析を行った。その結果、試料①、試料②、試料④からイネが検出された。このうち、遺物包含層（試料④）では密度が18,900個/g、土師器内の土壌（試料②）でも12,200個/gと極めて高い値である。これらのことから、同包含層の時期に調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

（2）イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち、栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもオオムギ族（ムギ類が含まれる）、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、ジュズダマ属（ハトムギが含まれる）、オヒシバ属型（シコクビエが含まれる）、モロコシ属型などがあるが、これらの分類群はいずれの試料からも検出されなかった。

（3）植物珪酸体分析から推定される植生と環境

上記以外の分類群では、ブナ科（シイ属）をはじめブナ科（アカガシ亜属？）、クスノキ科、マンサク科（イスノキ属）などの樹木（照葉樹）が検出された。また、ススキ属型やウシクサ族型などのイネ科も検出されたが、いずれも少量である。樹木は一般に植物珪酸体の生産量が低いことから、少量が検出された場合でもかなり過大に評価する必要がある。

以上のことから、当時の遺跡周辺には、シイ類やカシ類、クスノキ科、イスノキ属などの照葉樹林が分布していたものと推定される。

6　まとめ

植物珪酸体分析の結果、9世紀中頃から10世紀初頭とされる遺物包含層からは、イネが多量に検出され、

調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が高いと判断された。当時の遺跡周辺には、シイ類やカシ類、クスノキ科、イスノキ属などの照葉樹林が分布していたものと推定される。

参考文献

杉山真二（1987）遺跡調査におけるプラント・オパール分析の現状と問題点．植生史研究，第2号，p.27-37.

杉山真二（1997，投稿中）植物珪酸体分析からみた九州南部の照葉樹林発達史．植生史研究.

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－．考古学と自然科学，9，p.15-29.

藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)－プラント・オパール分析による水田址の探査－．考古学と自然科学，17，p.73-85.

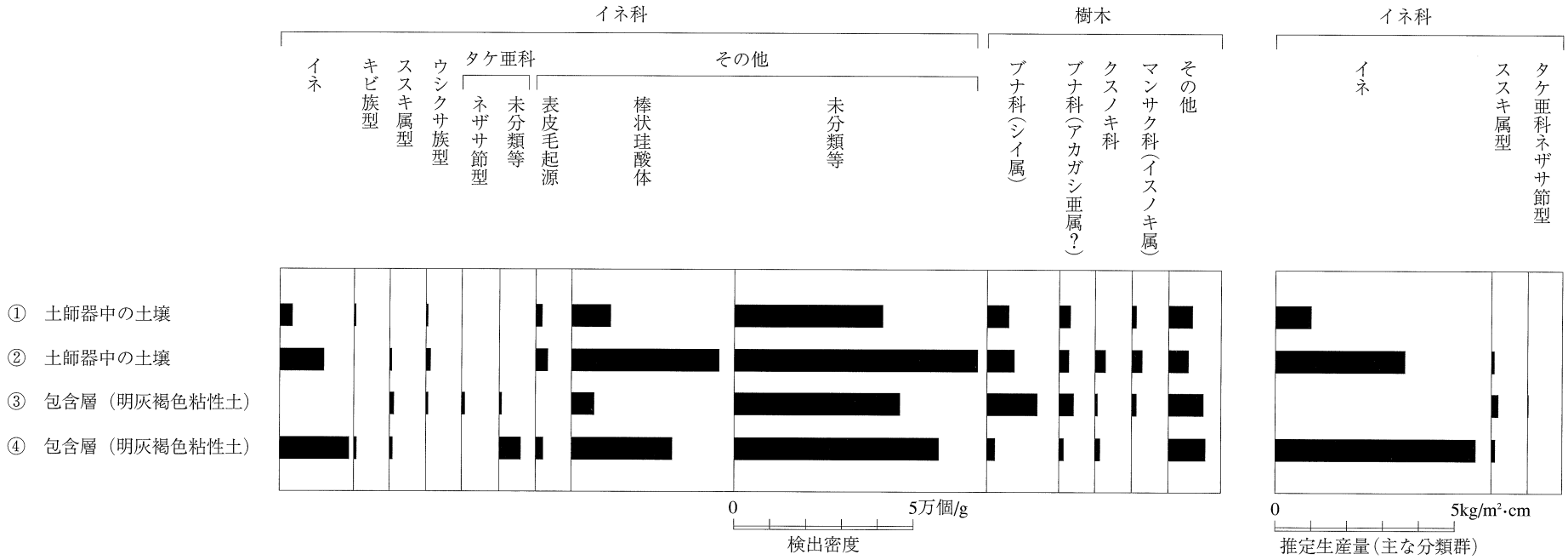
表２　三生江遺跡における植物珪酸体分析結果

検出密度（単位：×100個/g）

分類群 ＼ 試料	①	②	③	④
イネ科				
イネ	34	122		189
キビ族型	7			8
ススキ属型		7	14	8
ウシクサ族型	7	14	7	
タケ亜科				
ネザサ節型			7	
未分類等			7	60
その他のイネ科				
表皮毛起源	21	36		23
棒状珪酸体	110	410	64	280
未分類等	414	677	460	567
樹木起源				
ブナ科（シイ属）	62	79	141	23
ブナ科（アカガシ亜属？）	34	29	42	15
クスノキ科		29	7	15
マンサク科（イスノキ属）	14	29	14	
その他	69	58	99	106
植物珪酸体総数	772	1490	863	1293

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/m²·cm）

イネ	1.01	3.60		5.56
ススキ属型		0.09	0.18	0.09
ネザサ節型			0.03	



第26図　三生江遺跡における植物珪酸体分析結果

Ⅳ　まとめ

三生江遺跡の土器組成は、土師器、黒色土器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、中国陶磁器から成り、南九州においては古代集落遺跡の一般的な出土状況である。

出土した回転台土師器の杯や椀は他と比較して圧倒的に多く、その器形のほとんどは須恵器の器形に似ており、体部から口縁部にかけて直線的に立ち上がるものである。杯は器高が高く口径12㎝前後のものと器高が低く口径がやや大きくなるものがある。前者は蕨野遺跡出土資料に類似するものが多く、後者は小山尻東遺跡や西ノ原地区遺跡にみられる。また、円盤状高台を有するものも数点出土しており、これについては鹿児島だけでなく宮崎平野での出土遺跡も多い。高台付椀は在地産土師器椀の特徴である底部外面に放射痕を施すものが多く出土した。これは、「花弁状模様」や「放射状の指頭調整痕」と呼ばれているものである。蕨野遺跡出土資料を観察した限りでは、底部のヘラ切り離し後、放射状に凹凸（ケズリが多い）を施してから高台を貼り付け、貼り付け部分（底部外面全体に及ぶものもある）をナデ調整している。この放射痕は、高台杯椀、高台付皿、高坏（脚部と杯部の接合部分）にのみ見られる手法であり、高台を貼り付ける際の作業工程の一つと思われるが、その目的については課題が残る。

黒色土器は杯、高台付椀、高台付皿、大椀からなる。それらの中には、土師器と同じ円盤状高台の杯や放射痕を有する高台付椀、高台付皿が存在しており、黒色土器の在地生産がおこなわれていたと思われる。

須恵器は量的に少ないものの、主に杯、高台付椀、壺、甕、鉢が出土している。供膳形態の杯、椀類が多く、全体的にも下村窯の資料に類似するものが多く見られる。また、№221のように放射痕をもつ高台付椀が土師器や黒色土器と同様に存在することは、須恵器窯における工人集団の在り方を考える上で土師器工人の影響は重要な問題である。

越州窯系青磁などの中国陶磁器をはじめ、緑釉陶器や灰釉陶器などを出土する県内の遺跡は、西下本庄遺跡（国富町）、余り田遺跡、市位遺跡、平畑遺跡（宮崎市）、大島畠田遺跡（都城市）、寺崎遺跡（西都市）など、20カ所以上から出土している。三生江遺跡では、緑釉陶器や灰釉陶器は、９世紀後半に生産したとされる椀、皿、段皿、壺が出土している。緑釉陶器に関しては京都産や周防産のもので、灰釉陶器は猿投窯産のものであるが、出土量では宮崎県内で比較するとかなり多い遺跡のひとつである。

この９世紀後半という時期は、高岡町はもとより宮崎県内でも遺跡数が増大する傾向がある。高岡町内でも６カ所以上で同時期の遺跡を調査しているが、遺跡の場所は幅狭な舌状の低丘陵などであり、いずれも大集落を営むような場所には立地していない。河川が合流するような交通等の要所といえるところではなく、やや内陸寄りの平野部に延びる低丘陵が多い。三生江遺跡についても広い平野部や河川に面するところではない。今回の調査地は三生江遺跡の中心ではなく、遺跡自体にどういう遺構が伴うのかわからない。しかし遺跡の立地で考えるならば、大島畠田遺跡のような居館が存在していたとは考えられず、同等の支配層の関係は薄い。それは中国陶磁器の出土量を比較しても明らかであり、、それ以下の支配階級層に関係する遺跡であろうと思われる。

参考文献

1　上村俊雄　１９８４「鹿児島県荒平須恵器古窯趾群発見の意義とその問題点について」『古文化談叢』　第14集　九州古文化研究会
2　小田富士雄　１９８５「西ノ原遺跡の土器とその位置」『西ノ原地区遺跡』宮崎市教育委員会
3　日高孝治　１９８５「平畑遺跡」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書第２集』宮崎県教育委員会

4　長津宗重　１９８５「小山尻東遺跡」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書第３集』宮崎県教育委員会
5　森田稔　１９８６「東播系中世須恵器生産の成立と展開」『研究紀要』第３号　神戸市立博物館
6　山本信夫　１９８８「大宰府における古代末から中世の土器・陶磁器」『中近世土器の基礎研究』Ⅳ　日本中世土器研究会
7　１９８８「前原南遺跡」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書第４集』宮崎県教育委員会
8　前川要　１９８９「平安時代における緑釉陶器の編年的研究」『古代文化』第41巻第５号　古代学協会
9　森隆　１９９０「西日本の黒色土器生産（中)」『考古学研究』第３７巻第３号　考古学研究会
10　岡本武憲　１９９１「日向における古代末の土器」『中近世土器の基礎研究Ⅶ』日本中世土器研究会
11　中島恒次郎　１９９２「大宰府における椀形態の変遷」『中近世土器の基礎研究』Ⅷ　日本中世土器研究会
12　中島恒次郎・城戸康利　１９９４「薩摩国から来た食器　－太宰府条坊跡　第89次調査出土資料－」　『中近世土器の基礎研究』Ⅹ　日本中世土器研究会
13　島田正浩　１９９４『蕨野遺跡』高岡町教育委員会
14　横山哲英　１９９４『上ノ園第２遺跡』都城市教育委員会
15　岡本武憲　１９９５「各地の土器様相　九州南部」『概説　中世の土器・陶磁器』日本中世土器研究会
16　木村明史　１９９６『下村窯跡群報告書』佐土原町教育委員会
17　松林豊樹　１９９７『余り田遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター
18　井上喜久男　１９９８「畿外遺跡にみる三彩・緑釉陶器」『日本の三彩と緑釉』愛知県陶磁資料館
19　東憲章　１９９８『市位遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター
20　宮崎県埋蔵文化財センター　２０００『シンポジウム　日向における平安時代の様相資料集』
21　谷口武憲　２０００『大島畠田遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター

写真図版

遠景（東から空撮）

遠景（西から空撮）

図版2

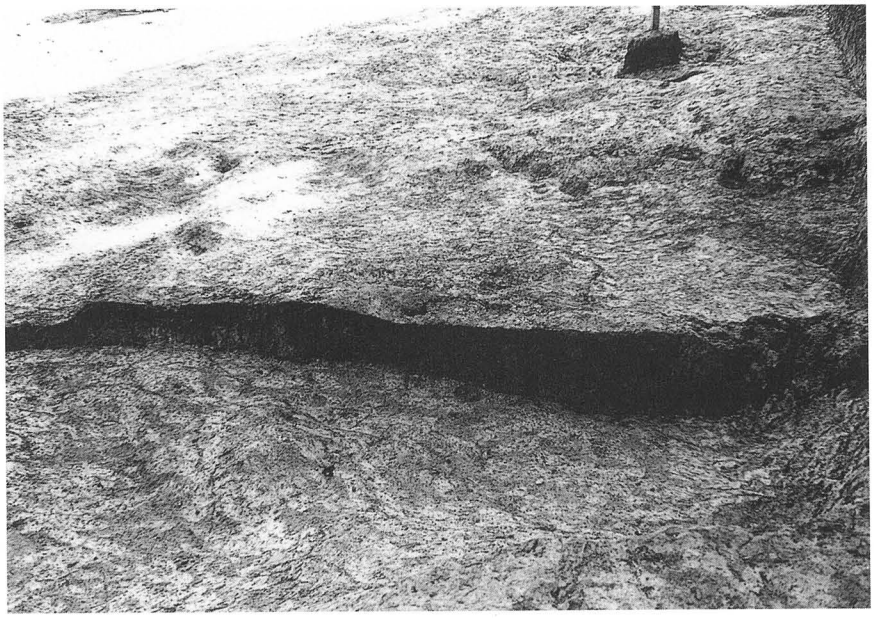
調査区近景（西から）

調査区近景（東から空撮）

調査前近景

自然流路（東から）

自然流路（北から）



淀み付近包含層

図版4

1

6

7

8

16

18

23

24

26

78

79

81

82

84

139

140

図版6

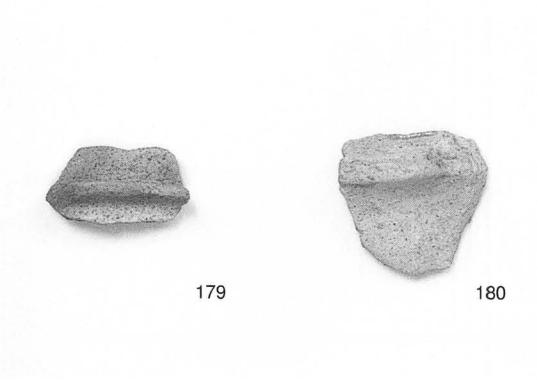
163

167

172

177

178



179 180

183

199

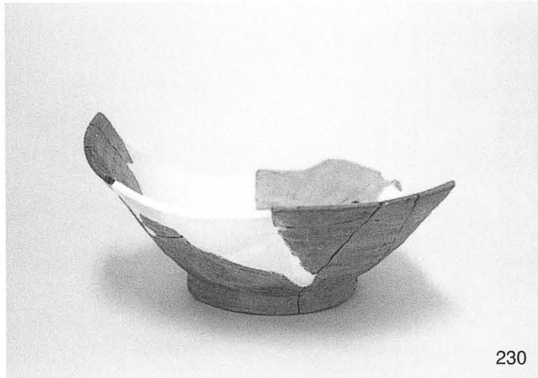
215

216

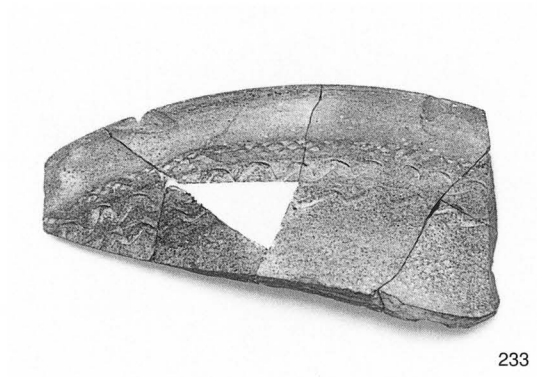
221

222

223



230

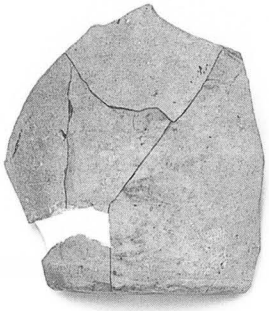


233

246

図版8

255



256

261

270

273

274

302

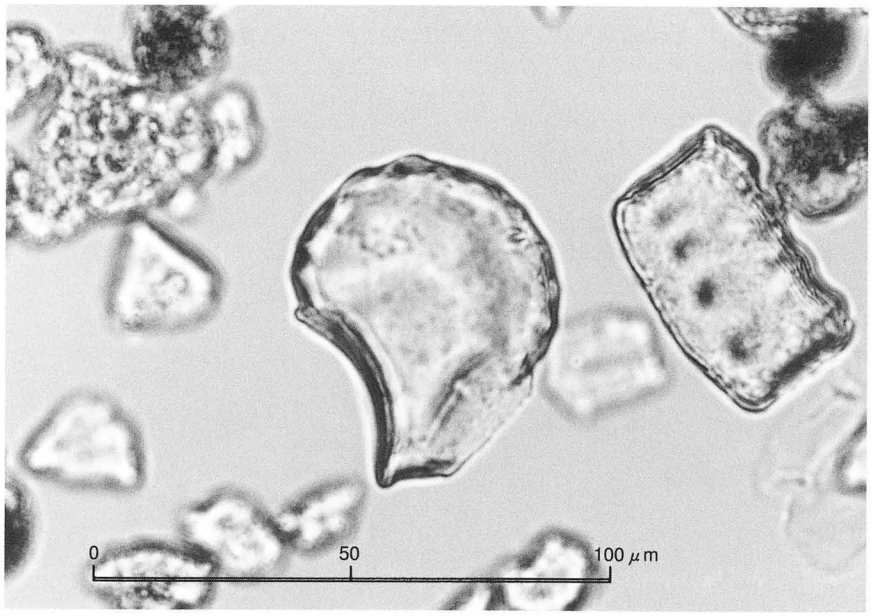
303

290
289
287

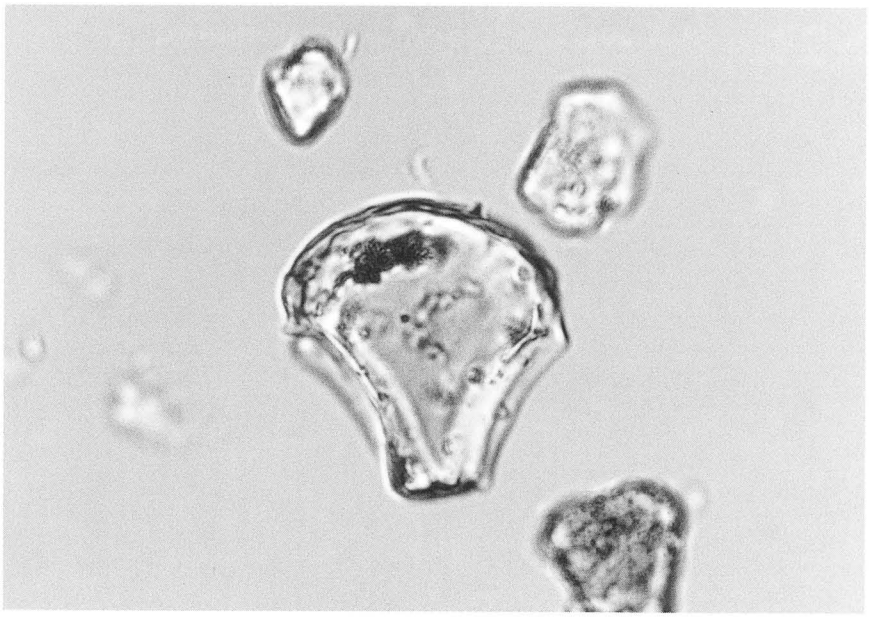
293
292

296
297

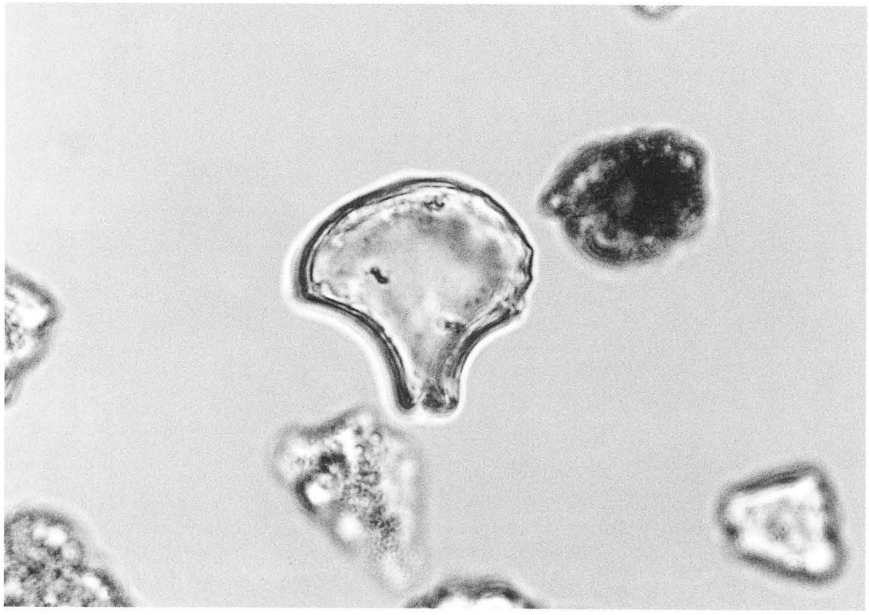
図版10



②イネ

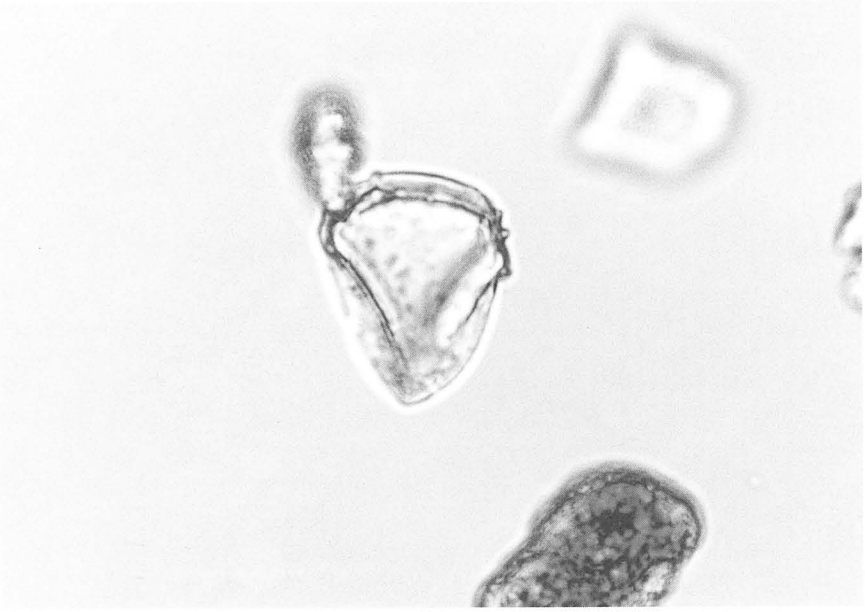


④イネ

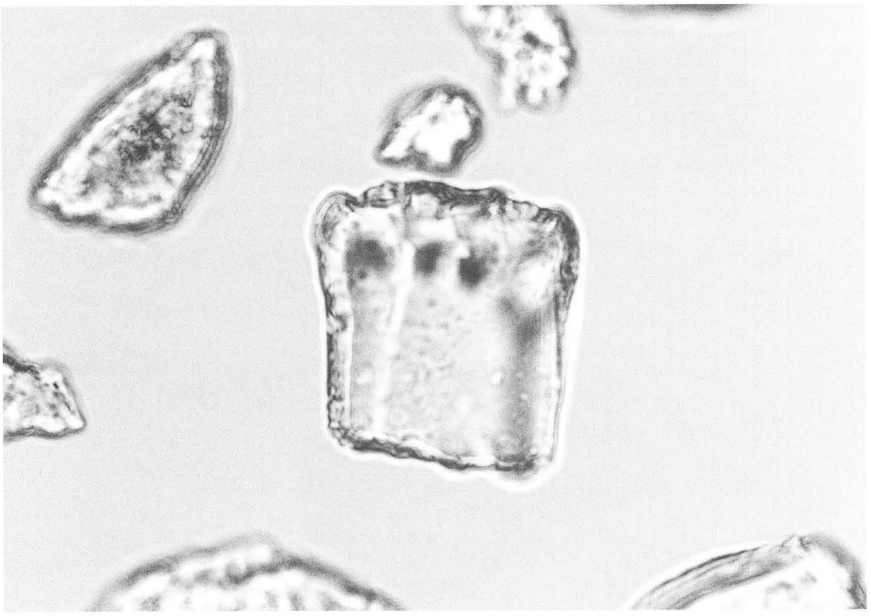


②イネ

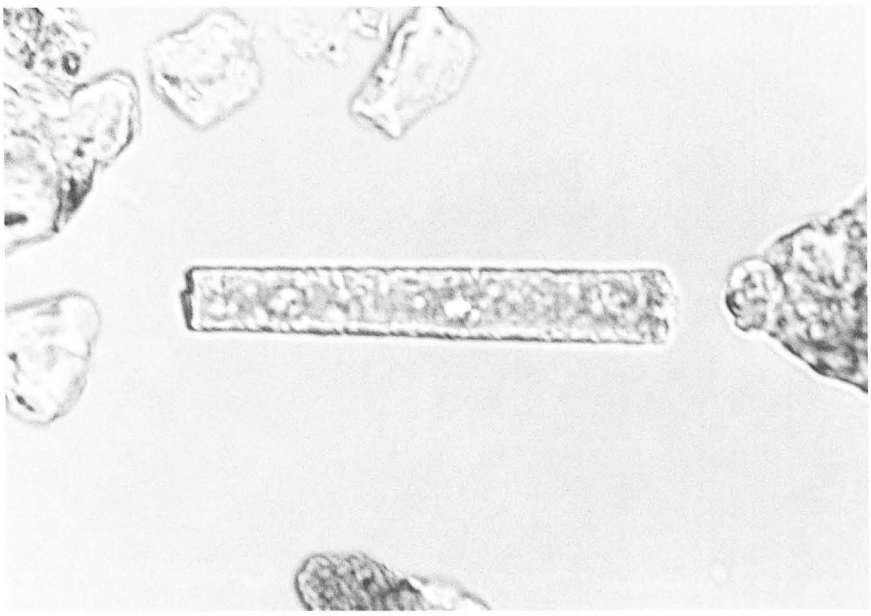
②ススキ属型



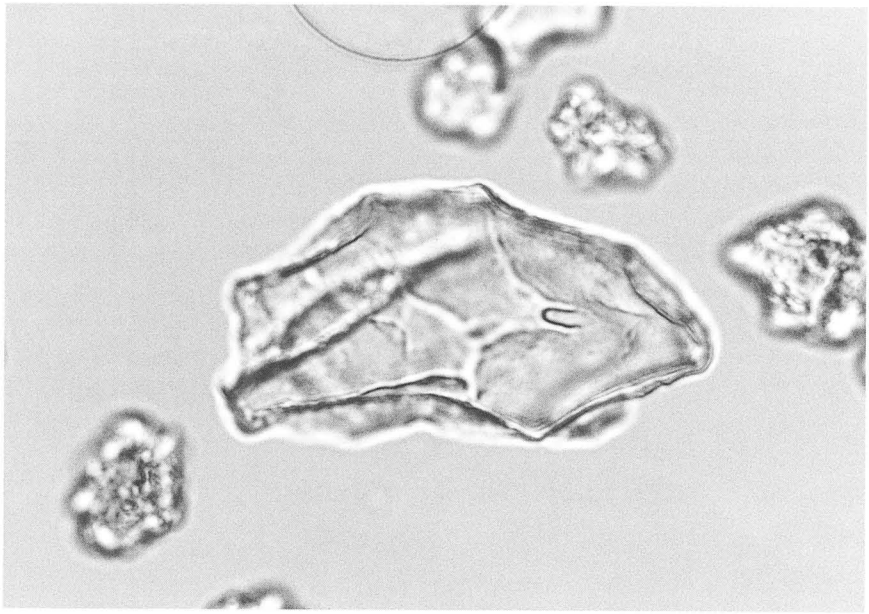
③ネザサ節型



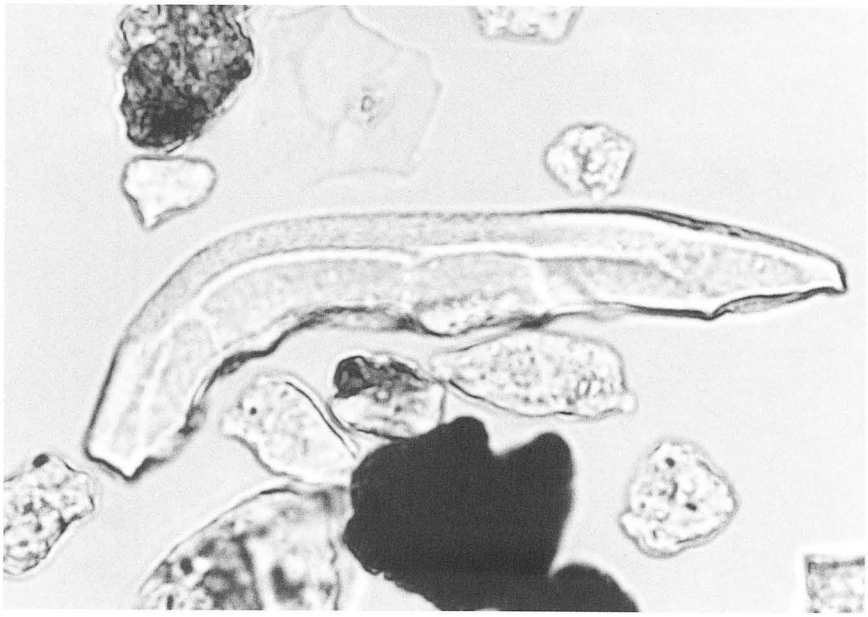
①棒状珪酸体



図版12



①ブナ科（シイ属）



②クスノキ科

①マンサク科（イスノキ属）

表3　報告書登録抄

フリガナ	ミショウエイセキ
書名	三生江遺跡
副書名	県営担い手育成基盤整備事業城ヶ峰地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第1巻
シリーズ名	高岡町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第21集
編集者名	島田　正浩
発行機関	高岡町教育委員会
所在地	宮崎県東諸県郡高岡町大字内山2887番地
発行年月日	2001年3月31日

収蔵遺跡名	所在地	コード		緯度	経度	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
三生江遺跡（みしょうえいせき）	東諸県郡高岡町（たかおかちょう）大字花見（おおあざはなみ）5128-1	45 −381	136	31° 57′ 6″	131° 20′ 36″	1997 10 ～11	1,150m²	圃場整備

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
散布地	古代	無	土師器　須恵器　黒色土器　布痕土器　緑釉陶器　灰釉陶器　越州窯系青磁	

高岡町埋蔵文化財調査報告書第21集

三生江遺跡

県営担い手育成基盤整備事業城ヶ峰地区
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2001年3月発行

発行所　宮崎県高岡町教育委員会
宮崎県東諸県郡高岡町大字内山2887
〒880-2292　☎ 0985-82-1111

印刷所　秀巧社印刷株式会社
福岡県福岡市南区向野2-13-29
〒815-0035　☎ 092-541-5661